

商学研究科履修案内

平成 16 年度

(2004 年度)

慶應義塾大学大学院
商学研究科

本案内は、大学院商学研究科における履修の方法，手続き等と講義内容を記載したものです。学生諸君はこの案内を熟読したうえで，履修する授業科目を決定し，指定された日に必ず申告してください。履修申告後の履修授業科目の変更は認められません。

履修にあたって

これまでの経済社会の変化がいわば過去の延長線上の変化である漸進的变化であったとすれば、今、われわれが直面している変化は不連続的变化であるといえよう。こうした経済社会の質的変容が、大学への新たなニーズを作り出し、学問研究の場でも当然のことながら、解決すべき多くの課題をもたらしてきている。これまで、現実の社会では順機能現象をもたらしてきたと考えられてきたさまざまな社会・経済的なシステムが逆機能現象を起こすというような状況が生み出されているとあってよい。これまでに基本的に良しとされてきたシステムや知識が環境変化によって、その意義を問われるようになってきているわけである。グローバル化の進展が、日本の経営システムについて新たなあり方の検討を迫っているなどがその例であろう。

こうした変化を遂げている現実社会の問題を分析し、新たな学問的進歩を遂げようとする努力がなければ、学問研究の場としての大学の存在意義が問われることになってしまうであろう。既存の知識が経済社会現象を十分に把握し、分析するということに適応性を欠くとすれば、その理由を明らかにし、現実をより良く分析し、説明する理論を求めてゆくという努力を続けなければならない。

大学院は、そこに籍を置く諸君が自らの知的好奇心と問題意識をもって研究活動を実践する場にほかならず、そこで研究努力こそが、学問研究の進歩をもたらすことになる。修士課程に、また博士課程に籍を置くいずれの諸君もそれぞれ学部教育の場で、あるいは修士課程で培った知的好奇心と学問的知識をもって各々の視点から経済社会現象を分析しようという大いなる意欲とともに研究生活を続けようとしているわけである。諸君が実証的研究、理論的研究のいずれを目指そうとも、自ら設定した問題の解決のためには客観的な理論、科学的な知識の習得が必要であるし、同時に現実問題に対する認識がなければならない。いずれに重点がおかれるかといった相対的な軽重の差はあるものの、両者の視点を了解しておくという意味からいって、研究に必要とされる基本的な姿勢には変わりがないとあってよいであろう。したがって、研究者としては、できうる限り幅広い研究を試み、同一分野でも問題に対する接近方法に相違があることを確認して、自らの視点を改めて問い直すという姿勢が重要な意味をもつことになるのであり、そのうえで自らの問題とする点に焦点をあて、研究を深化させてゆくことが望ましいことといえる。

このようなことを考慮に入れ、商学研究科では、実証的研究だけではなく、客観的な理論、科学的知識の認識進歩問題に取り組む素養を涵養することを目的に、カリキュラムの改善・整備に努めてきている。共通科目、専攻基本科目と総称されている科目がこのような目的を充足するものである。また同一の分野であっても、異なった視点や接近方法がとられている場合が少なくなく、こうした異なった立場にたって研究を行なっている人々が一同に会して、発表・討論を行なうという合同演習の制度が各専門分野で導入されている。さらに、広く海外の大学院との交換留学の制度の充実、世界銀行の奨学制度による留学生の受け入れにも努め、加えて著名な研究者による特別講義を開設するなど、できるだけ広い視野にたった研究能力が涵養できるようにも努力してきている。諸君らがこうしたカリキュラムを自らの研究のために自主的に大いに活用されることを期待し、またその一方で、商学研究科自体も、より良い制度を求めて改善の方向性を模索してゆく努力を継続しなければならないと考えている。諸君らが批判精神をもって着実に

自らの研究に取り組まれんことを願っている。

最後に博士課程に籍をおいている諸君には、この履修案内に掲載されている学位授与に関する内規に照らして、計画的に・着実に準備されるよう助言しておきたい。

商学研究科委員長

桜 本 光

学則の説明と履修上の注意

履修申告にあたっては、以下の説明をよく読み、適切な科目選択と誤りのない手続きに心掛けてほしい。

商学研究科の構成

大学院商学研究科の博士課程は、前期博士課程（標準修業年限2年）と後期博士課程（同3年）に区分され、前者は修士課程として扱われている。いずれの課程も商学専攻と経営学・会計学専攻とに分かれているが、修士課程ではさらに10の専門分野に分かれている。

学則の主要な特色

上記の枠組みを基礎としながら商学研究科では、修士課程、博士課程についての学則を1995年度から改正した。

現行学則の主な特色は以下の通りである。

1. 4月入学3月修了は当面維持するが、半期制の原則を採用している。この結果幾つかの例外を除いて、授業は半期単位のまとまりで行なわれる。したがって単位数は半期につき週2回集中授業のものが4単位、週1回のものが2単位となる。これによって、研究上の必要と関心とに応じてより効率的に科目履修ができるようになっている。
2. 修士課程においては、科目の性格にしたがって、「共通科目」、「専攻基本科目」、「分野専門科目」の区分がある。「共通科目」は、研究の視野の拡大、研究方法の基礎の形成に役立つ科目群によって構成される。「専攻基本科目」では、各専攻分野の総論的、もしくは基本的な部分が扱われる。「分野専門科目」は、各専攻分野の特殊な論題などを深く究明する科目群と、演習科目群とによって構成されている。「共通科目」、「専攻基本科目」には、講義、コース・ワークなどが随時織り込まれており、研究に必要な基礎的な力の養成を目的としている。したがって、専門分野の異なる人々の履修も想定されている。(例：経営学分野の大学院生の「マクロ・マーケティング論」の履修、商業学分野の大学院生の「統計学基礎理論」の履修等)
3. 修士課程では「演習」のほかに「合同演習」、後期博士課程では「特殊演習」のほかに「特殊合同演習」がある。これらの科目の授業方法には多様な形態がある。分野あるいは「テーマ」を同じくする大学院在籍者のもとより学部若手スタッフ、大学院担当者などすべての出席のもとに開催される合同研究発表会、ジョイント・ワークショップあるいは国内外の大学との共同研究プロジェクトの研究会などがある。とくに後者については大学院生の海外大学院での調査研究も組み込まれる予定になっている。これによって海外での共同研究経験をもつ大学院生の養成を目指している。個別的指導を中心とした「演習」、「特殊演習」にない多彩な研究の場を提供するねらいがある。
4. 修了要件は、指導教授の下での個別研究指導の長所を活かしながらも、より広い視野から個別研究

主題に接近できるように配慮されている。修士課程では、修了必要単位30単位のうち、20単位以上を上記の「専攻基本科目」、「分野専門科目」から選択履修することになる。この場合、それらには自分が所属する専攻の演習科目（含む「合同演習」）8単位が含まれねばならない。しかし、その残りについては自分の所属する専攻の設置科目かどうかは問わない。後期博士課程では、総必要単位12単位のうち自己の所属する専攻の演習科目8単位（含む「特殊合同演習」）を含むことが要件となる。

履修上留意すべき点

詳細については大学院学則の参照を望むが、上に述べた学則の趣旨を十分に活用するために、とくに以下の諸点に留意してほしい。

A. 修士課程、後期博士課程共通

1. 両課程とも、学則上の科目表記につけられているアルファベットは繁雑になるので開講科目名では省略されている。その代わりに、「演習」を除く修士課程の「分野専門科目」および後期博士課程の科目では、科目名の直後に授業の主題が括弧内に表示されている。
2. 同一科目名、同一担当者の科目であっても、授業内容が異なれば重複履修ができる。
3. 修士課程の「合同演習」、後期博士課程の「特殊合同演習」は科目の性格上、出席するだけでは単位が認定されない。合同研究会での研究発表、リサーチ・ワークへの参加・報告の作成などによってはじめて単位となることが多い。各々の「合同演習」、「特殊合同演習」のコーディネーターに単位確認の条件を事前に確かめておくことを勧める。
4. 授業科目の選択履修にあたっては、あらかじめ指導教授（「演習」、「特殊演習」の担当者）の指示を受けなければならない。指導教授が適当と認めた場合には、他研究科の授業科目を履修することができる。この場合の修得単位は修了必要単位に計算される。（修士課程の場合は、「専攻基本科目」または「分野専門科目」として）また、指導教授は修士課程にあっては学部の授業、後期博士課程にあっては修士課程の授業を指定して履修させることがある。この場合は修了のために必要な単位には算入されない。
5. 海外の大学の大学院で修得した単位も、要件を満たせば一定の範囲内で修了単位に計算される。詳細は学習指導委員に問い合わせしてほしい。

B. 修士課程

1. 「共通科目」、「専攻基本科目」、「分野専門科目」の間に、科目選択の順序はとくに学則に定められてはいない。しかし、おおよそ「共通科目」、「専攻基本科目」などの基本的な科目をできるだけ早期に修得し、その後次第に「分野専門科目」に重点を置いて行くことを予定している。「共通科目」、「専攻基本科目」に必修の単位数は規定されていないが、これらに配置された科目群は研究の基礎固め、視野の拡大に資するものばかりなので積極的な履修を期待する。指導教授とよく相談し、それぞれの実情にあった科目選択をしてほしい。
2. 修了に必要な単位数は30単位であるが、そのうち少なくとも20単位は「専攻基本科目」、「分野専門科目」の科目の単位でなければならない。この両者ともその科目の設置されている専攻、分野が

必ずしも自分の所属する専攻，分野である必要はない。ただし，自分の属する専攻の演習科目（「演習」あるいは「合同演習」）8単位だけは必ず含まなければならない。

3. 上記2であげた単位数以上の修得と，修士論文の審査および最終試験の合格が修士課程の修了要件となる。修士論文は研究科委員会に定める期日までに提出しなければならない。
4. 修士課程2年目は，論文作成に多くの時間を費やすようになるので，できるだけ1年目に多くの科目の履修選択を勧める。また，修士課程の目的と上記1の趣旨に照らして研究の視野を広げるための科目，研究の基礎となる科目の早期履修を期待する。
5. 後期博士課程進学希望者には，「専門外国書研究」の履修が有用となろう。
6. 2002年度入学者より，プロフェSSIONALのためのアカデミックな教育プログラム（APPs; Academic Program for Professionals）及び APPs・AO入試が創設され，カリキュラムが再検討された。この結果，商学研究科がこれまで持ち続けてきた基本理念をこれまで以上に重視し，それに沿った教育を実施していくことが大切であるとの考えで一致した。ただし近年，授業に対する社会の要請も変わりつつあることから，新たに共通科目三科目と，「環境」「イノベーション」「ファイナンス」「非営利組織」「戦略」の五つの分野を対象とする専門科目を設置することにした（P. 31参照）。これらの新設科目については，APPs・AO入試による入学者はもちろん，それ以外の学生も履修可能なので，学生全員の履修を勧めたい。

C. 後期博士課程

1. 修了に必要な総単位数は12単位である。ただし，そのうち8単位は自分の属する専攻の演習科目（「特殊演習」あるいは「特殊合同演習」）でなければならない。
2. 上記1の単位数以上を修得し，博士論文の審査および最終試験に合格することが修了の要件となる。
3. 後期博士課程入学試験において英語（読解）と英語（作文）の組み合わせで受験した者は修士課程設置の英語以外の「専門外国書研究」を，また英語（読解）と独，仏，中いずれかの語学との組み合わせで受験した者は同じく修士課程設置の英語の「専門外国書研究」を，それぞれ博士課程修了までに履修することを強く希望する。なお，すでに修士課程において該当の科目を履修した者はこの限りではない。
4. 博士学位に関する制度のうち，課程による博士学位については博士論文の円滑な作成と研究水準の維持とを目的とした特別な研究指導制度が設けられている。（後掲内規参照）

大学院は，広い視野と豊かな学識に基づく専門分野における高度な研究能力を陶冶する場であると考えられる。この趣旨にそって各自がこれまでの成果の上に立ってさらに研鑽を積まれることを願ってやまない。講義要綱や履修上の問題について疑問・不明な点があれば，学習指導委員または学事センター商学研究科係まで問い合わせられたい。

商学研究科学習指導委員

黒川行治

目 次

平成16年度（2004年度）学事関連スケジュール	9
一般注意事項	10
履修申告のしかた	19
履 修 要 項	31
開講科目と単位数	31
課程修了にいたるまでの要件	37
履 修 方 法	37
学位請求論文の提出について	37
留 学 について	39
単位取得退学及び在学期間延長	39
海外の教育機関に留学する場合の取り扱いについて	41
講義要綱・シラバス	43
修士課程設置科目	44
博士課程設置科目	87
各研究科共通の科目	101
関係規定抜粋	141
学位請求論文製本表紙見本	149

平成16年度 (2004 年度) 学事関連スケジュール

成績証明書発行 (2年生以上)	4月1日 (木) 12時30分~	
外国語教育研究センターガイダンス	4月5日 (月) 12時20分	533 番教室
国際センター夏季講座ガイダンス	4月5日 (月) 14時	133 番教室
教育実習事前指導 (今年度実習予定者)	4月5日 (月) 15時	533 番教室
入学式	4月7日 (水) 9時	西校舎ホール
履修案内等資料配布	4月7日 (水) 10時30分~11時	519 番教室
ガイダンス	4月7日 (水) 11時	519 番教室
学事 Web システムパスワード変更締切	4月7日 (水) 16時	学事センター
教職課程ガイダンス	4月7日 (水) 16時	517 番教室
” (来年度実習予定者)	4月7日 (水) 18時	513 番教室
春学期授業開始	4月8日 (木)	
履修申告用紙配布日	4月12日 (月)・13日 (火) 8時30分~18時10分	学事センター
Web による履修申告期間	4月15日 (木) 10時~17日 (土) 11時	
履修申告用紙による履修申告日	4月16日 (金) 8時30分~18時10分	学事センター前受付ボックス
開校記念日 (休講)	4月23日 (金)	
授業料納入期限 (全納または春学期分納)	4月30日 (金)	
履修申告科目確認表送付 (本人宛)	5月上旬 (掲示を出します)	
履修申告修正受付	5月6日 (木)~10日 (月) (予定)	
修士課程2年生修了見込証明書発行	5月6日 (木) 以降	
博士課程3年生単位取得退学見込証明書発行		
春学期授業終了	7月14日 (水)	
春学期補講日	7月15日 (木)~16日 (金)	
春学期末試験 (この期間は授業は行われません)	7月17日 (土)~27日 (火)	
夏季休業	7月28日 (水)~9月21日 (火)	
(三田キャンパス一斉休業)	8月中 (予定)	
春学期学業成績表送付 (本人宛)	9月中旬	
秋学期授業開始	9月25日 (土)	
9月学位授与式	9月29日 (水)	
授業料納入期限 (秋学期分納)	10月29日 (金)	
秋学期補講日 (1)	11月18日 (木) 午前	
三田祭 (準備・本祭・片付を含む) (休講)	11月18日 (木) 午後~11月24日 (水)	
休学願提出期限 (今年度分)	11月30日 (火)	
冬季休業	12月23日 (木)~1月5日 (水)	
(三田キャンパス一斉休業)	12月下旬~1月上旬 (予定)	
授業開始	1月6日 (木)	
福澤先生誕生記念日 (休講)	1月10日 (月)	
秋学期月曜代替講義日	1月11日 (火)	
秋学期授業終了	1月19日 (水)	
秋学期補講日	1月20日 (木)~21日 (金)	
秋学期末試験 (この期間は授業は行われません)	1月22日 (土)~2月4日 (金)	
福澤先生命日	2月3日 (火)	
春季休業	2月上旬~3月下旬	
学部入学試験	2月上・中旬	
学業成績表送付 (本人宛)	3月中旬	
3月学位授与式	3月29日 (火)	

(注1) 印の期間には学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。

(注2) 事情により日程・教室は変更があり得るので、掲示板等に注意してください。変更がある場合は掲示板への掲示が優先します。

その他、主要提出物締切日一覧 (提出先: 学事センター 詳細は掲示でお知らせします。)

研究報告会 (後期博士課程対象) 募集締切	(10月下旬開催分)	8月下旬	
	(3月下旬開催分)	1月初旬	
修士論文題目届提出締切		11月中旬	1
修士論文提出締切		1月上旬	1
小泉信三記念 大学院特別奨学研究生募集申込締切		1月中旬	
後期博士課程 在学期間延長許可願・単位取得退学届提出締切		2月中旬	2
1 37ページ 「第4 学位請求論文の提出について」参照			
2 39ページ 「第6 単位取得退学および在学期間延長」参照			

一 般 注 意 事 項

学 生 証 (身 分 証 明 書)

- 1 学生証は、諸君が慶應義塾大学大学院生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
- 2 学生証は次のような場合に必要となるので登校の際常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券を購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
- 3 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真（縦 4 cm 横 3 cm カラー光沢仕上げ）1 枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により当日発行できないこともありますのでご了承ください。
学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料として 2,000 円が必要です。
- 4 返 却
再交付を受けた後、前の学生証が見つかった場合や退学・修了などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

掲 示 板

- 1 学生諸君への通達事項は、すべて大学院校舎 1 階の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示板に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が不利益を被ることもあります。
なお、他研究科・学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している研究科・学部の掲示板を見てください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については、各研究科掲示板の右側にある共通掲示板および学部共通掲示板をご覧ください。
- 2 主な掲示事項
授業の休講・補講、時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係ある緊急通達、各試験の実施要領、学事日程、呼出し等。休講・補講、呼出しについてはインターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話（i-mode のみ）により学事 Web システム（<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>）においても確認できます。（26ページを参照してください。）
また、掲示の一部は塾生ページ（<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>）でも確認できます。

試験・レポート等

1 試験

随時授業時間内に行われます。別途指示がある場合には、掲示されることがありますので、掲示板にも留意してください。

2 レポート

レポート提出は、教室および研究室で直接教員に提出する場合と、学事センターに提出する場合があります。学事センター窓口への提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センターおよび西校舎一階掲示板前に備えてあります。

3 学位請求論文（修士論文・博士論文）

37～39ページ、および144・149ページを参照してください。

4 成績通知

修士課程・後期博士課程とも学業成績表は9月中旬及び3月中旬に本人宛に発送します。（ただし、成績証明書は次年度より発行します。）

諸 届

以下の事項はすべて学事センターで取り扱います。

1 休学願・退学届・就学届

「病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学することができる」（学則125条）

本年度休学する場合は、11月末日までに指導教授および学習指導の許可を得たうえで休学願を学事センターに提出してください。病気を理由に休学する場合は、医師の診断書を添付してください。休学期間は当該年度末（3月31日）までとします。休学が次の年度に及ぶ時は、改めて許可を得なければなりません。休学および留学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学をしていた場合にはあわせて医師の診断書を提出してください。

退学予定者は、退学届に本人・保証人の署名捺印の上、学生証を添えて学事センター窓口に出しなければなりません。

2 留 学

「研究科委員会が教育上有益と認めるときは、休学することなく外国の大学の大学院に留学することを許可することがある。」（学則第124条）

詳しくは、39・41ページも参照のうえ、学事センター商学研究科係に問い合わせてください。

3 住所変更届（本人・保証人）、保証人変更届、改姓（名）届

各届とも学事センター所定の用紙に記入のうえ速やかに窓口へ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。郵送および電話による届け出は、受け付けません。

必要書類（所定用紙は学事センターにあります）

- ・住所変更届：在学カード

- ・保証人変更届：変更届，在学カード，誓約書（本人・保証人押印），保証人住民票
- ・改姓(名)届：改姓(名)届，在学カード，誓約書（本人・保証人押印），戸籍抄本，学生証再交付願
また，学生総合センター学生課に提出する「学生カード」に新住所等を記入しても，正式な届とは見なされません。必ず学事センターに所定の届を提出してください。

なお，履修上の連絡，あるいはその他の重要な事柄の処理に際し，これらの変更届が出されない場合は，極めて重要な支障をきたすことがありますので，十分に注意してください。

各種証明書

証明書の発行，申し込み，受け取りいずれの場合でも学生証が必要です。

授業料が未納の場合，すべての証明書が発行できません。

1 証明書自動発行機で即時発行する証明書（和文）

料金は改定されることがあります。

在学証明書	1 通 200 円
成績証明書（4月1日 12時30分～）	
修士課程修了見込証明書（5月6日～）	
履修科目証明書（6月1日～）	
修士課程修了見込証明付き成績証明書（5月6日～）	1 通 400 円
学割証（JR 各社共通）	無 料
健康診断証明書（6月中旬～年度内）	1 通 200 円

注 稼働時間

学事センター事務室内発行機：学事センター事務取り扱い時間内

南校舎1階設置発行機：9時～20時 [休日および大学休業日は除く]

メンテナンス，故障等により，証明書発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し，あらかじめ早めに準備してください。

学割証は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内（有効期限内でも離籍した場合は無効）。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。

各種証明書等で厳封を必要とする場合には，学事センターに申し出てください。（自動発行機で発行した証明書は厳封できません。）

健康診断証明書は6月中旬以降，定期診断受診者を対象に発行されます。

なお，奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は，保健管理センター三田分室受付に相談してください。

2 学事センター窓口で即時発行する証明書（英文）

いずれも1通200円。（料金は改定されることがあります）

- (1) 英文在学証明書（4月1日12時30分～）
- (2) 英文修了見込証明書（5月6日～）

(3) 英文成績証明書（4月1日12時30分～）

3 学事センター窓口で申し込み，日数を要して発行する証明書・文書

前記以外の証明書・文書等（例：英文履修科目証明書，他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては，余裕をもって学事センター窓口で相談のうえ申請してください。なお，交付には和書類は申請後標準3日，英文書類は申請後標準1週間日数を要します。

学事センターの窓口

1 学事センター事務取り扱い時間

(1) 授業期間中は次のとおり取り扱います。

平日…… 8時30分～18時10分

〔なお，各学部・研究科に関する相談・問い合わせは，次の時間帯でお願いします。〕
8時30分～16時30分

土曜日…… 8時30分～11時30分，12時30分～14時

(2) 休業期間中は次のとおり取り扱います。

平日…… 8時30分～11時30分，12時30分～16時

土曜日…… 8時30分～11時30分，12時30分～14時

事務取り扱い時間を変更する場合，および事務室の閉室については，掲示等でお知らせします。

2 窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申し込み（学部設置の科目）
- (6) 休学願・退学届・住所変更届・保証人変更届等
- (7) 学生証の発行
- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行
- (9) 教室に関すること
- (10) 通学証明書の発行

落とし物，学生カード提出は学生総合センター学生課が取り扱います。

修了後の成績証明書等の申込・発行は，塾員センター（北館3階）で行います。

教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

専門科目担当専任教員（教授・助教授・専任講師・助手）…… 研究室（三田研究室棟）

日吉専任教員および塾外からの出講者（講師）…… 教員室（南校舎2階）

学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養を担当する学生課、奨学金および学生健康保険互助組合を担当する厚生課、就職進路指導を行う就職課があります。ここでは、学生総合センターの窓口業務について紹介します。

学 生 課

学生談話室 A・B の使用申し込み受付

授業・ゼミ以外の会合のために学生談話室 A・B を使用したい時は、使用希望日の 4 日前までに申し込んでください。休日の使用はできません。

山食・西校舎食堂ホール・北館学生食堂の使用申し込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食・西校舎食堂ホール・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生課に使用申し込みをし、予約してください。さらに、予約後 1 週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合、予約は取り消されますので注意してください。なお、日曜日・祝日は利用できません。

学外行事届の受付

公認学生団体等が、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その 4 日前までに届け出てください (学生教育研究災害傷害保険の項参照)。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。合宿等で団体割引が必要な場合についても学生課で受け付けています。

学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生課に届け出て、場所等の指示を受けることが必要です。

備品使用申請の受付

ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の 4 日前までに申請してください。

車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、やむを得ず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の 4 日前までに申請してください。

学生ラウンジの使用

南校舎 1 階の学生ラウンジは、個人での利用ができます。開室時間は 8 時 45 分～21 時です。室内での飲食はできません。

伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。A 4 用紙 1 枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の研究科・学年・氏名・連絡先を明記してください。

そ の 他

学生総合センター「大学生生活懇談会」では見学会、講演会、討論会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生課の窓口には、財団法人大学セミナーハウス、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生課の受付窓口で取り扱っています。

厚生課

奨学金

厚生課窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

・慶應義塾大学奨学金 [給費]

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

・日本学生支援機構(旧日本育英会)奨学金 [貸費]

4月中旬に出願受付を行います。第1種(無利子)と1999年度から設置された第2種(きぼう21プラン)(有利子)があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用(無利子)・応急採用(有利子)があります。

・地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金 [給費・貸費]

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度、西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

・指定寄付奨学金 [給費]

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度、西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

奨学融資制度 [奨学金付き学費ローン]

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借り入れに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は厚生課窓口までお問い合わせください。

学生健康保険互助組合

保険証を使用し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付方法は銀行振込となりますので、口座の届出をしてください。受領口座が未登録の場合には、給付金は振り込まれません。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を厚生課へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に、給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

厚生課に置いてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄を各自記入して、厚生課へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効になります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの設置などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配付した「健保の手引き」（学生総合センターにも置いてあります）をご参照ください。

就 職 課

就職課は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG名簿などを、南校舎地下1階の就職課事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職課のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるディスカッションなどを開催しています。こうした催しはビデオテープに収録し、後日貸し出しも行っています。

就職課は就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、修士1年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職課を皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室（西校舎地下2階）

学生相談室は、学生生活の中で当面するさまざまな問題や悩みについての個別の相談に応じています。それと共に、小集団の中で自己をみつめることで自己成長を促す「サイコドラマ」や「エンカウンター・グループ」の行事も行っています（このスケジュールは相談室に問い合わせてください）。

相談内容に関しては、それがいかなる種類のものであっても個人の秘密を厳守しますし、すべては来訪者とカウンセラーの間のこととして扱われますので、気軽に相談に来てください。

各課窓口取り扱い時間

学生課・厚生課・就職課

平 日..... 8時30分～16時20分

土曜日..... 8時30分～14時20分

都合により閉室することがあります。

学生相談室

平 日..... 9時30分～16時30分

土曜日..... 9時30分～14時30分

昼休み.....11時30分～12時30分

学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。

この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっ

ばら被保険者の私的生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式など、教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舍にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学が認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登はんやハンググライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生課で相談のうえ、所定の手続きを行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるため、ゼミ合宿を学外で行う場合、および学内学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生課窓口で尋ねてください。

任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては、保険と共済の2つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は、(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に、「学生総合共済」保険は慶應生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先 (株)慶應学術事業会 Tel. 03 - 3453 - 6098

慶應生活協同組合 Tel. 045 - 563 - 8489

学生カードの提出について（学生カードの提出によって住所変更の届けとすることはできません。）

次に従って提出してください。

1 提出学年

全学年

2 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生課窓口

3 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください（やむをえず提出日に提出できなかった場合でも、後日必ず学生課に提出してください）。

緊急時における授業の取り扱いについて（三田）

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、大規模地震対策特別措置法（大震法）に基づく警戒宣言が発せられた場合などの授業の取り扱いは次のとおりとします。

1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取り扱い

【対象事由】

1. 交通機関のストライキ
2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの

【対象路線】

- ・山手線 ・中央線（東京―高尾間） ・京浜東北線（大宮―大船間）
- ・東急（電車に限る）

【時間・対応策】

1. 午前6時30分までに運行を再開した場合は、平常どおり授業を行います。
2. 午前8時までに運行を再開した場合は、第2時限から授業を行います。
3. 午前10時30分までに運行を再開した場合は、第3時限から授業を行います。
4. 正午までに運行を再開した場合は、第4時限から授業を行います。
5. 正午を過ぎても運行が再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じません。

掲示や構内放送、ホームページによる大学からの指示に従ってください。

交通機関の運行状況に係わらず、大規模な災害や事故等が発生した場合の授業の取り扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

2. 大震法に基づく警戒宣言が発せられた場合の授業の取り扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、大規模地震対策特別措置法（大震法）に基づく「警戒宣言」が発せられた場合の授業の取り扱いは下記のとおりとします。

[1] 「警戒宣言」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。

[2] 地震が発生することなく「警戒宣言」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

早慶野球戦が行われた場合の授業について

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします（3回戦以降もこれに準じます）。

履修申告のしかた

1. 履修申告について

(1) 履修申告方法について

原則として、学事 Web システムにより申告してください。やむをえない場合は履修申告用紙で申告できますが、両方法を併用することはできません。履修するすべての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。

学事 Web システムにより登録を行うと、即時にエラーチェックおよび一部の学則判定が行われ、メッセージが表示されます（ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、本人宛に送付する履修確認表で行ってください）。

(2) 履修申告上の注意

履修申告にあたり、前年度以前の入学者はすでに本人宛に送付されている2003年度の学業成績表により、取得した科目を確認し、「履修要項」、「履修申告のしかた」（本項）を熟読して、申告してください。特に誤登録、申告漏れ等によって不都合が生じることがあります（課程修了に影響する場合があります）ので十分に注意してください。

提出後は、履修科目の変更・追加・取り消しを認めません。また、閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録後、登録科目一覧画面を印刷、あるいは履修申告用紙をコピーし、時間割とともに控えとして保管してください。期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分にする事となります（学則第 161 条）。

(3) 学事 Web システムによる申告

4月15日（木）午前10時～4月17日（土）午前11時まで

期間中は何回でも履修の修正が可能です。最終日に初めて申告するのではなく、なるべく早いうちから申告を行なうようにしてください。ただし、毎日午前4時から1時間程度は定期メンテナンスのためシステムの稼働を停止しています。

(4) 履修申告用紙による申告（履修申告用紙提出日）

（修士・博士同日）4月16日（金）午前8時30分～午後6時10分まで 学事センター前受付ボックス

(5) 履修に関する疑問点、その他については履修申告の前日までに、学習指導担当または学事センター窓口にお問い合わせください。

(6) 履修確認表（履修申告した授業科目のリスト）は後日送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題（申告漏れ、科目間違い等）については大学側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間（詳しくは掲示により指示します）で、この期間経過後は確認は終了したものとみなします。

(7) 時間割は変更することがありますので、掲示で確認のうえ申告してください。

- (8) 登録されていない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。

2. 履修科目の登録方法

- (1) 授業科目名、担当者名と登録番号（5桁）を十分確認してください。
(2) 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義等、複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても、登録番号は1つだけです。その登録番号を登録することで、他の時限についても登録されます。この場合、どの曜日・時限にも別の科目を登録することはできませんので注意してください。

また、商学研究科設置科目のうち他研究科・研究所と併設している科目については、必ず商学研究科の設置科目を履修しなければなりません。商学研究科の時間割の登録番号で登録確認してください。（諸研究所設置科目の登録番号は商学部時間割の巻末で確認してください。商学部時間割は学事センター窓口で閲覧できます。）

- (3) 履修科目により登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合（A欄申告）と、各自分野を選択しなければならない場合があります。（B欄申告。申告の際は2桁のB欄分野番号を登録します。）どちらの欄で登録するかは29ページ以降の分野番号表を参照してください。

3. 学事 Web システムの利用方法

学内のパソコンからは無論のこと、自宅や海外からでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システムを利用して履修申告や登録済科目の確認、また休講・補講情報の確認などが可能です。

学事 Web システム URL : <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp>

学事 Web システムを利用するためにはID（学籍番号になります）と事前に通知したパスワードが必要です。このパスワードは途中変更は可能ですが、修了するまでの間使用することになります。すべて個人管理になりますので忘れないように十分注意してください。

学事 Web システムには以下の4つの機能があります。

履修申告（履修申告期間中は、何度でも修正が可能です。）

登録済科目確認（履修申告終了後の、ある一定の期間に自分の登録した科目を Web 上で確認できます。）

休講・補講情報の確認

パスワード変更

また携帯電話（i-modeのみ）では、上記のうち 休講・補講情報の確認、 パスワード変更、を行うことができます。

...注 意...

もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4月7日（水）16時までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください。（2003年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合は2004年3月に送付した成績表に印字されています。）

また、学内のパソコンを利用するための Windows パスワード を忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター（ITC。大学院校舎地階）で変更申請の手続きを行ってください。（ただし学事 Web システムは学内のパソコンに限らず、インターネットに繋がるパソコンがあれば、自宅などからでも利用できます。）

学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは別になりますのでご注意ください。

（学事 Web システムのユーザー名） 学籍番号

（Windows アカウントのユーザー名） m ***** または d *****

(1) 学事 Web システム操作上の注意

- ・複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。
- ・学事 Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] 及び [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- ・学事 Web システムは30分間何も操作しないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。
- ・ブラウザの [戻る] ボタンや [進む] ボタンを何度も押したり、30分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には、一旦ブラウザを終了し、10秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の [登録] ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。
- ・学事 Web システムは、Cookie を使用していますので、お使いのブラウザに Cookie を受け付ける設定をしてください。また、学事 Web システムは、SSL による暗号通信を行います。学事 Web システムにアクセスすると、新しいサイトの証明書を受け付けるか否かの確認ウィンドウが表示されますので設定してください。

お使いのブラウザが、Proxy Server を経由する設定になっている場合、設定を解除しないと正しく接続できない場合があります。そのような場合には、一時的に Proxy Server の設定を変更してください。

(Cookie, SSL, Proxy の設定については、<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/manual/faq/logon.html> を参照してください。)

- ・氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム

上問題はありません。

- ・その他、Q & A, Web 履修にあたっての注意事項（地区 / 学部別）については以下の URL からのリンクを参照してください。

(2) 履修の申告

2004年度の学事 Web システムを利用した履修申告日程と学事 Web システムの URL は以下の通りです。

日程：4月15日（木）午前10時～17日（土）午前11時まで
学事 Web システムの URL
<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

受付期間中に時間割の変更がある場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要であれば締め切りまでに再申告(申告の修正)を行ってください。

上記 URL にアクセスし [ブラウザ用] をクリックしてください。履修申告は「インターネットエクスプローラ」や「Netscape」などの標準ブラウザを使用してください。i-mode からは操作できません。



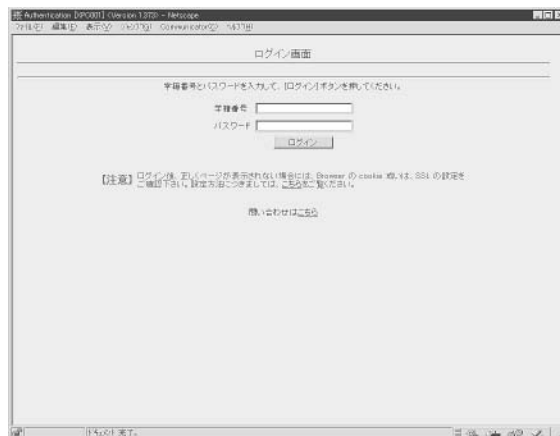
学事 Web システムの操作方法（特にログインできない場合などの解説）や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。[ログイン画面へ] ボタンをクリックしてください。



「ID (学籍番号)」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。画面がうまく表示されない場合は、前述の画面の「ログインできない時」を選択し、ブラウザの設定方法等を確認してください。

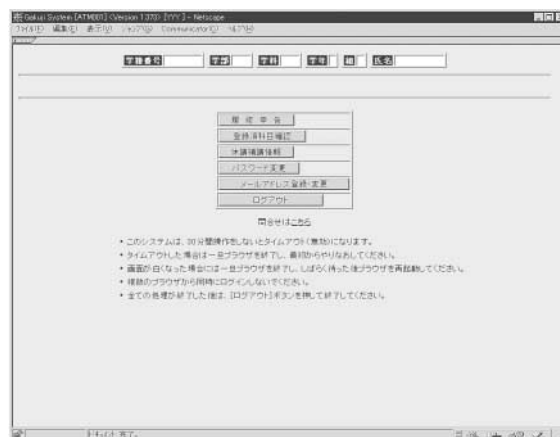
この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。



右の画面（トップメニュー画面）の「メールアドレス登録・変更」から、履修登録後に送信される受付確認メールの送信先の登録・変更ができます。確認できる状態の電子メールアドレスを登録してください。変更する場合には、新たに登録する電子メールアドレスを2箇所入力し（再入力欄にも同じものを入力する）、[登録] ボタンをクリックしてください。

(学事センターからの連絡や呼出などがある場合、ログイン後のこの画面に表示されることがあります。)



(注意) 学事 Web システムに登録されているメールアドレスについて

学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp>) に登録されているメールアドレスについて、アドレスの登録間違いにより、履修登録が実行された際に送信するメールが不着になるケースが多発しております。

履修申告前に必ず、学事 Web システムに登録されているメールアドレスをご確認ください。

学事 Web システムには学校配布のメールアドレス (*****@mita.cc.keio.ac.jp 等) を登録し、個人所有のメールアドレスに送りたい場合は転送設定をご利用ください。

メールアドレスのユーザー名 (例: '*****@mita.cc.keio.ac.jp' の ***** 部分) は変更できません。またユーザー名のみ登録しても届きません。ご注意ください。

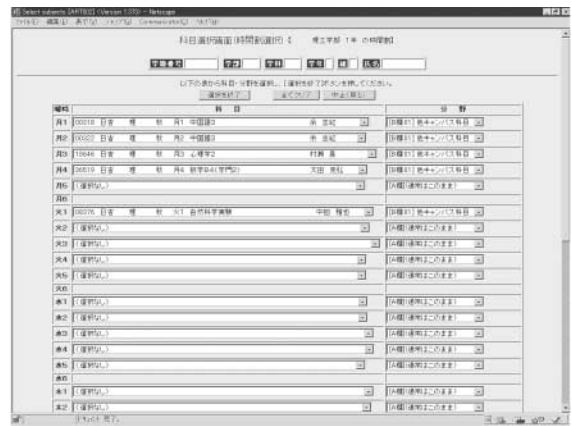
[履修申告] ボタンをクリック後、[Web による履修申告上の注意] をクリックし、必ず注意文を熟読してください。その後、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。

以下の画面が「履修申告メイン画面」になります。(a)と(b)の2通りの方法で科目の選択ができます。

(a) 時間割から科目を選択するとき

[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置研究科・学年を選択してから、[時間割から選択] ボタンをクリックしてください。(初期設定では自分の所属する研究科および学年が自動的に指定されています)

科目選択画面(時間割選択)が表示されますので、曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択してください。他研究科の科目を履修する場合などで、分野を「A欄」以外で選択する場合は29ページ以降の分野番号表を参照してください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。



(b) 登録番号から科目を選択するとき

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面(登録番号)が表示されますので、履修書類配布時に配布された時間割表に記載されている5桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、科目情報欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認したうえで、最後に[選択を終了] を押してください。



(a)(b) いずれの方法も、分野(A・B欄)の選択方法は同じですので、29ページ以降の分野番号表を参照してください。

(a)(b)の手順は、連続して行うことができます。

同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度[選択を終了]を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。

で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。(選択直後は 状態 欄に「未登録」として表示されます。)

選択した科目を取消す場合は、 の画面から、取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。

選択されている科目を確認したら、画面一番下の [登録] ボタンを押してください。 および で行った内容はこの [登録] ボタンを押すまで有効になりません。

履修申告メイン画面の [登録] ボタンをクリックすると、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます。(エラーメッセージの詳細については、 の「履修申告メイン画面」の STEP 2 の横にある [エラーの詳細説明] をクリックし、参照してください。) 右端の「状態」欄が「保留中」の場合、エラー科目があるためにすべての科目が未登録となります。エラー内容を確認し登録し直してください。この画面を控としてプリントアウトしておく事をお勧めします。

登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンをクリックし、 からの手続きを再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[履修申告を終了する] ボタンを押してください。 ここで Web ブラウザーを終了しないでください。



で登録されているメールアドレスへ受付確認メールが送信されます。受付番号は各自で控えてください。

でメールアドレスの登録を行っていない場合は、一時的な受付メールの送信先を指定できる画面が表示されます。メールアドレスを入力し [指定する] ボタンを押してください。受付番号と受付メールの送信先が表示され、確認メールがそのアドレス宛に送信されます。(この場合は、メールアドレスの登録はされません。) [指定しない] ボタンを押すと、受付番号のみ表示されます。

なお、hotmail (@hotmail.com) のアドレスを指定した場合、受付確認メールが字化けすることがあります。他のプロバイダーのアドレスを指定するか、学校配布のメールアドレスを指定する

ようにしてください (参照)。また、携帯電話のメールアドレスを指定した場合は、正しく送信されない可能性がありますので、使用を避けてください。

すべての作業終了後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

(3) 登録済科目確認

履修申告で正しく登録された科目は、以後ある一定の期間で学事 Web システムを利用して再度確認することができます。(確認できる日程や詳細などは塾生ページで案内します。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>)

前述(2)の (トップメニュー画面) までは、同様の操作ですから、画面上の、[登録済科目確認] ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

(4) 休講・補講情報の確認

学事 Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を Web を利用して確認することができます。またこのサービスは、i-mode 対応の携帯電話からも同様に見ることができます。

なお、公式の情報は大学の掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。また、代替講義日の休講は、通常講義と異なり Web の休講情報では対応していませんので、以下のページおよび掲示板で確認してください。

(塾生ページ URL)

URL : <http://www.gakuji.keio.ac.jp/>

[ブラウザ編]

(2)の から までを参照して、学事 Web システムにログインしてください。

(2)の (トップメニュー画面) の画面から [休講補講情報] ボタンをクリックしてください。

自分の履修科目の休講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[休講・補講情報を検索する] ボタンをクリックしてください。



休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された(したがって通常通り実施する)科目となりますので注意してください。確認後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

[i-mode 編]

学事 Web システムの URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の i-mode 画面から

入力（詳しくは携帯電話の説明書をお読みください）し、(2)の の画面上で [i-mode 用] を選択してください。以後、Web 休講補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事 Web システムの URL を i-mode のブックマーク等に登録しておくくと便利です。（詳しくは使用している携帯電話の説明書で確認してください）

[サーバー 1] もしくは [サーバー 2] のどちらかを選択してください。選択は任意です。

「学籍番号」と(2)で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し、[ログイン] ボタンを押してください。

この画面から [休講情報] あるいは [補講情報] ボタンを押してください。

パスワードの変更もこの画面からできますが、ここでは説明を省きます。後述の(5)を参照してください。

自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から1週間後までの情報が表示されます。休講・補講情報の確認が終了したら、[検索画面へ戻る] ボタンを押してください。

(5) パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

前述(2)の (トップメニュー画面)の画面から、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を2箇所入力後（再入力欄にも同じものを入力する）、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

【注 意】

パスワードは英数字半角で入力してください（大文字/小文字を区別します）。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に、学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。(21ページ「注意」参照)

4. 履修申告用紙（マークシート）での申告について

Web による履修申告がやむをえずできない場合には、以下の日程で履修申告用紙（マークシート）を配布します。以下の提出日を過ぎると申告用紙での申告はできません。

履修申告用紙配布日・場所

4月12日（月）・13日（火） 学事センター

履修申告用紙提出日・場所

4月16日（金） 午前8時30分～午後6時10分 学事センター前受付ボックス

いずれも修士・博士同日となります。

履修申告用紙記入の際は、以下の点に注意してください

- (1) HB か B の鉛筆を使用してください。誤記，記入漏れがないように，丁寧に記入してください。特に「0」と「1」のマークミス等に注意してください。
- (2) 学籍等の記入方法
研究科，専攻，学年，氏名，学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに，該当する数字をマークしてください。
- (3) A 欄記入上の注意事項
ア 形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を で囲み，曜日・時限を記入します。
イ 科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は，時間割上段に記載されている教員名を記入します。
ウ 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し，マークします。
- (4) B 欄記入上の注意事項
ア 形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を で囲み，曜日・時限を記入します。
イ 科目名・教員名を記入します。
ウ 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し，マークします。
エ 分野欄：分野番号表より 2 桁の履修申告用 B 欄分野を記入し，マークします。
- (5) 「無効マーク」（A 欄・B 欄に共通）にマークすると，その枠内について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが，跡が残ったり，黒くこすれたりした場合は，「無効マーク」を利用してください。
- (6) 履修申告用紙の再交付について
履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は，なるべく無効マーク欄を使用して無効にしたうえで正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので，その履修申告用紙を持参のうえ，学事センター窓口に出してください。
交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センター窓口に出してください。

[修士課程分野番号表]

科目の分類	分野番号	分類の説明
共通科目	01 - 01 - 01	商学研究科修士課程に共通科目として設置されている授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
専攻基本科目	01 - 02 - 01	商学研究科修士課程に専攻基本科目として設置されている授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
分野専門科目	01 - 03 - 01	商学研究科修士課程に分野専門科目として設置されている授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
自専攻内演習科目	01 - 04 - 01	商学研究科に分野専門科目として設置されている授業科目のうち自己の所属する専攻の演習もしくは合同演習の授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>A欄で申告してください。</u>
指定他研究科科目	01 - 05 - 01	指導教授が必要と認める他の研究科修士課程の授業科目で、修了要件単位に算入されます。 <u>B欄で申告してください。</u> (B欄分野：21)
指定科目(自由)	09 - 01 - 01	指導教授が必要と認める学部の授業科目で、修了要件単位に算入されません。 <u>B欄で申告してください。</u> (B欄分野：30)
自由科目	09 - 02 - 01	上記以外の授業科目で修了要件単位に算入されません。 <u>B欄で申告してください。</u> (B欄分野：31)

8
単位
以上

20
単位
以上

30
単位
以上

[博士課程分野番号表]

科目の分類	分野番号	分類の説明
講義科目	01 - 01 - 01	商学研究科博士課程に設置されている講義科目で、修了要件単位に算入されます。A欄で申告してください。
自専攻内演習科目	01 - 02 - 01	商学研究科博士課程に設置されている演習科目（特殊演習または特殊合同演習）のうち、自分の所属する専攻の演習科目で修了要件単位に算入されます。A欄で申告してください。
他専攻演習科目	01 - 03 - 01	商学研究科博士課程に設置されている演習科目（特殊演習または特殊合同演習）のうち、自分の所属する専攻以外の専攻に設置されている演習科目で修了要件単位に算入されます。A欄で申告してください。
指定他研究科科目	01 - 04 - 01	指導教授が必要と認める他の研究科博士課程の授業科目で、修了要件単位に算入されます。三田地区の研究科博士課程（文・経・法・社）の授業科目はA欄で、他は、B欄で申告してください。（B欄分野：21）
指定科目（自由）	09 - 01 - 01	指導教授が必要と認める研究科修士課程の授業科目または学部の科目で、修了要件単位に算入されません。三田地区の研究科修士課程（文・経・法・社・商）の授業科目はA欄で、他は、B欄で申告してください。（B欄分野：30）
自由科目	09 - 02 - 01	上記以外の授業科目で修了要件単位に算入されません。B欄で申告してください。（B欄分野：31）

8
単
位
以
上

12
単
位
以
上

履 修 要 項

第 1 開講科目と単位数

2004年度商学研究科に開講される科目と単位数は次の通りです。なお、特定期間集中の科目は、掲示でその期間を確認してください。

印は、APPs (Academic Program for Professionals) 創設にともない、2002年度より新たに開講された科目をあらわします。

1. 修士課程設置の科目

(1) 共通科目

科 目 名	単位数	授業形態
ビジネス・エコノミクス	2	春・秋学期
ビジネス・ヒストリー	2	休 講
社会科学方法論	2	春学期
専門外国書研究(英書)	2	通 年
専門外国書研究(独書)	2	通 年
専門外国書研究(仏書)	2	通 年
ジャパニーズ・エコノミー	2	春学期
統計学基礎理論	2	春学期
経済数学基礎理論	4	通 年
統 計 解 析	2	春学期
会計情報の作成と見方	2	秋学期
経済・金融指標の見方・使い方	2	春学期
特別講義 (パネルおよびイベントヒストリーデータのための分析手法)	2	春学期特定期間集中

(2) 専攻基本科目

1) 商学専攻，経営学・会計学専攻共通

科 目 名	単位数	授業形態
環境の経済・経営・商業・会計	2	春学期
イノベーションの経済・経営・商業・会計	2	春学期
ファイナンスの経済・経営・商業・会計	2	秋学期
非営利組織の経済・経営・商業・会計	2	秋学期
戦略の経済・経営・商業・会計	2	秋学期

2) 商学専攻

科 目 名	単位数	授業形態
マクロ・マーケティング論	2	春学期
ミクロ・マーケティング論	2	秋学期
租 税 法	2	春学期
租 税 法	2	秋学期
金 融 論	2	春・秋学期
リスク・マネジメント論	2	休講
交通・公共政策論	2	休講
産 業 組 織 論	2	春学期
計 量 経 済 学	2	春・秋学期
理 論 経 済 学	2	秋学期
国 際 経 済 学	2	春学期
国 際 経 済 学	2	秋学期
産 業 史 ・ 経 営 史	2	春学期

3) 経営学・会計学専攻

科 目 名	単位数	授業形態
現 代 日 本 経 営 論	2	春学期
経 営 学 説	2	春学期
会 計 学	2	秋学期
労 働 経 済 学	2	春学期
産 業 関 係 論	2	休 講

(3) 分野専門科目

1) 商学専攻

商業学分野

科 目 名	単位数	授業形態
マクロ・マーケティング特論	2	春・秋学期
ミクロ・マーケティング特論	2	春・秋学期
商 業 学 演 習	2	春・秋学期
商 業 学 合 同 演 習	2	休 講

金融・証券論分野

科 目 名	単位数	授業形態
金 融 特 論	2	春・秋学期
証 券 特 論	2	春・秋学期
財 政 特 論	2	春・秋学期
税 務 行 政 特 論	2	春学期
金 融 論 演 習	2	春・秋学期
金 融 論 合 同 演 習	2	春・秋学期
財 政 論 演 習	2	春・秋学期
税 制 ・ 経 済 政 策 演 習	2	春・秋学期

保険論分野

科 目 名	単位数	授業形態
リスク・マネジメント特論	2	休 講
保 險 特 論	2	春学期
保 險 経 営 特 論	2	秋学期
リスク・保険論演習	2	休 講
リスク・保険論合同演習	2	休 講

交通・公共政策・産業組織論分野

科 目 名	単位数	授業形態
交通・公共政策特論	2	春・秋学期
経 済 地 理 特 論	2	休 講
産 業 組 織 特 論	2	秋学期
交通・公共政策演習	2	春・秋学期
産 業 組 織 論 演 習	2	春・秋学期
公共政策・産業組織論合同演習	2	春学期

計量経済学分野

科 目 名	単位数	授業形態
計 量 経 済 学 特 論	2	春・秋学期
数 理 統 計 学 特 論	2	春学期
産 業 連 関 特 論	2	春学期
開 発 経 済 特 論	2	秋学期特定期間集中
計 量 経 済 学 演 習	2	春・秋学期
計 量 経 済 学 合 同 演 習	2	春・秋学期

国際経済学分野

科 目 名	単位数	授業形態
国 際 関 係 特 論	2	春学期
国 際 金 融 特 論	2	秋学期
国 際 経 済 特 論	2	春学期
国 際 経 済 学 演 習	2	春・秋学期
国 際 経 済 政 策 演 習	2	秋学期
国 際 経 済 学 合 同 演 習	2	春・秋学期

産業史・経営史分野

科 目 名	単位数	授業形態
産 業 史 特 論	2	秋学期
経 営 史 特 論	2	春・秋学期
流 通 史 特 論	2	春学期
産 業 史 ・ 経 営 史 演 習	2	春・秋学期
産 業 史 ・ 経 営 史 合 同 演 習	2	春・秋学期

2) 経営学・会計学専攻

経営学分野

科 目 名	単位数	授業形態
現 代 企 業 経 営 特 論	2	春・秋学期
経 営 管 理 特 論	2	春・秋学期
比 較 経 営 特 論	2	春学期特定期間集中
経 営 学 演 習	2	春・秋学期
経 営 学 合 同 演 習	2	秋学期

会計学分野

科 目 名	単位数	授業形態
財 務 会 計 特 論	2	春・秋学期
管 理 会 計 特 論	2	春・秋学期
会 計 史 特 論	2	春・秋学期
会 計 学 演 習	2	春・秋学期
会 計 学 合 同 演 習	2	休 講

産業関係論分野

科 目 名	単位数	授業形態
労 働 経 済 特 論	2	秋学期
産 業 関 係 特 論	2	休 講
産 業 社 会 特 論	2 または 4	春・春集・秋学期
社 会 保 障 特 論	2	春・秋学期
産 業 関 係 論 演 習	2	春・秋学期
産 業 関 係 論 合 同 演 習	2	春・秋学期

2. 後期博士課程設置の科目

1) 商学専攻

科 目 名	単位数	授業形態
商 業 学 特 殊 研 究	2	春・秋学期
商 業 学 特 殊 演 習	2	春・秋学期
商 業 学 特 殊 合 同 演 習	2	休 講
金 融 論 特 殊 研 究	2	春・秋学期
金 融 論 特 殊 演 習	2	春・秋学期
金 融 論 特 殊 合 同 演 習	2	春・秋学期
財 政 論 特 殊 研 究	2	春・秋学期
財 政 論 特 殊 演 習	2	春・秋学期
リ ス ク ・ 保 険 論 特 殊 研 究	2	春・秋学期
リ ス ク ・ 保 険 論 特 殊 演 習	2	休 講
リ ス ク ・ 保 険 論 特 殊 合 同 演 習	2	休 講
交 通 ・ 公 共 政 策 特 殊 研 究	2	秋学期
交 通 ・ 公 共 政 策 特 殊 演 習	2	春・秋学期
産 業 組 織 論 特 殊 研 究	2	春学期
産 業 組 織 論 特 殊 演 習	2	休 講
交 通 ・ 公 共 政 策 ・ 産 業 組 織 論 特 殊 合 同 演 習	2	春学期
計 量 経 済 学 特 殊 研 究	2	秋学期
計 量 経 済 学 特 殊 演 習	2	春・秋学期
計 量 経 済 学 特 殊 合 同 演 習	2	春・秋学期
統 計 学 特 殊 研 究	2	春学期
統 計 学 特 殊 演 習	2	休 講
国 際 経 済 学 特 殊 研 究	2	秋学期
国 際 経 済 学 特 殊 演 習	2	春・秋学期
国 際 経 済 学 特 殊 合 同 演 習	2	春・秋学期
産 業 史 ・ 経 営 史 特 殊 研 究	2	春学期
産 業 史 ・ 経 営 史 特 殊 演 習	2	春・秋学期
産 業 史 ・ 経 営 史 特 殊 合 同 演 習	2	春・秋学期

2) 経営学・会計学専攻

科 目 名	単位数	授業形態
経営学特殊研究	2	春・秋学期
経営学特殊演習	2	春・秋学期
経営学特殊合同演習	2	秋学期
会計学特殊研究	2	春・秋学期
会計学特殊演習	2	春・秋学期
会計学特殊合同演習	2	休 講
産業関係論特殊研究	2	春・秋学期
産業関係論特殊演習	2	春・秋学期
産業関係論特殊合同演習	2	春・秋学期

第2 課程修了にいたるまでの要件

1. 修士課程（大学院学則第76条，77条，109条参照）

2年間以上商学研究科修士課程に在籍し，学位論文（修士論文）の審査ならびに最終試験に合格すること，および次の必要単位を充たすこと。

共通科目，専攻基本科目，分野専門科目から合計30単位以上を履修・合格すること。ただし，そのうち20単位以上は専攻基本科目と分野専門科目とし，かつ自分の所属する専攻の演習または合同演習の合計8単位以上を含まなければなりません。

2. 後期博士課程（大学院学則第83条，109条参照）

3年間以上商学研究科後期博士課程に在籍し，学位論文（博士論文）の審査ならびに最終試験に合格すること，および次の必要単位を充たすこと。

自分の所属する専攻の演習8単位以上を含む授業科目12単位以上を履修・合格すること。

なお，上記要件のうち，学位論文の審査及び最終試験を除き，所定の教育課程を終えた段階で終了する場合「単位取得退学」として扱われます。（第6 単位取得退学及び在学期間延長の箇所を参照してください）

第3 履修方法

具体的な履修については，本書熟読の上，指導教授と必ず相談して決定してください。なお，それでも不明な点がある場合は，学習指導担当教員又は，学事センター商学研究科係に問い合わせをするようにしてください。

第4 学位請求論文の提出について

1. 修士論文の提出と修士学位の授与

修士の学位は，大学院前期博士課程，大学院修士課程を修了した者に与えられる。（学位規程第3条）

第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は，学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。（同第7条）

修士論文提出に関する手順は次の通りです。

(1) 修士論文題目届（11月中旬締切）

指導教授と相談の上，修士論文の提出が許可された場合は，所定用紙（学事センターで交付）にて論文題目を届け出てください。詳細については10月中旬に掲示板にて指示します。

なお，この届を提出した後に論文提出を辞退する場合は，必ず学事センターに申し出てください。

(2) 論文提出（1月上旬締切予定）

提出日，提出方法については掲示板上にて指示します。なお，論文題目については(1)で提出した

題目（副題目も含む）と同じものとします。

(3) 修士論文面接（2月下旬または3月初旬予定）

提出された論文をもとに面接が行われます。面接日時および可否の結果については後日、掲示で通知します。

2. 博士論文の提出と博士学位の授与

(1) 課程による博士学位の授与（「課程博士」）

博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。（学位規程第4条）

第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。（同第7条）

なお、商学研究科では課程による博士論文の早期作成および研究水準維持を目的とした特別な研究指導制度が設けられていますので、巻末の関連規定1-3「商学研究科における課程による博士学位の授与要件に関する内規」を参照してください。

(2) 論文による博士学位の授与（「論文博士」）

博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という）された者に与えられる。（学位規程第5条）

第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。（同第8条）

博士論文を提出する場合は、学事センター窓口で提出書類、手続方法について確認してください。なお、博士論文の審査については、「博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験及び学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする」（学位規程第10条）と規定されています。

3. 論文体裁

学位請求論文については三田メディアセンター（図書館）及び国立国会図書館（博士論文のみ）に所蔵しますので、なるべく以下の体裁に整えるよう協力をお願いします。提出する論文について修士論文の場合は製本したものを1冊と、簡易製本を3冊提出してください。博士論文の場合は最低限2冊を製本してください。（但し、博士論文については論文の整理・保管・審査の都合上できる限り3冊とも製本するよう協力をお願いします。）いずれの場合でも論文の提出メ切りは厳守してください。なお、資料等の都合でどうしても規定の大きさに入らない場合は、これに従って表紙を付けて製本してください。

本文の縦書き・横書きにかかわらず、原則として縦A4版で製本してください。（縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとなります）

表書きは、本文が縦書きの場合は縦書き、横書きの場合は横書きとします。

表紙は黒を原則とし、白文字を使用してください。

製本の背文字は、本文の縦書き、横書きにかかわらず縦書きとしてください。

表紙の見本をこの案内の巻末に示します。既に公刊されている書物等を学位請求論文とする場合についてはこの限りではありません。

4. 三田メディアセンターからの修士論文複写許諾協力依頼

三田メディアセンター（図書館）では修士論文を保存し利用に供しています。利用者が修士論文を学術目的のために「複写する」ことに対し、現行の著作権法下では、事前に著作権者からの許諾を必要としています。

修士論文を学事センターに提出する際に、「修士論文の複製に関する許諾書」をお渡ししますので、上記趣旨に賛同いただける方は必要事項を記入の上、三田メディアセンター（図書館）受付カウンターに、学位授与式までに提出してください。なお、今年度の学位授与名簿に記載されなかった場合は、メディアセンターが責任をもって廃棄します。

第5 留学について

留学を希望する場合は、指導教授と相談の上、必ず出発前に学内での手続きを終えておくようにしてください。手続きの手順は以下の通りです。

学事センターにて交付される留学申請書に必要事項を記入する。

留学申請書に記載されている必要書類を用意する。

と を合わせて学事センターに提出し検印を受け、これらの書類をもとに国際センターで留学の認定をしてもらう。

学習指導担当教員との面接。

学事センターに提出する。

留学は1回の申請につき1年を限度としますので延長の場合は早目に延長の手続きをとるようにしてください。

なお、商学研究科における留学の扱いについては41ページも参照してください。

第6 単位取得退学及び在学期間延長（博士課程のみ）

1. 単位取得退学

大学院博士課程修了に必要な単位を取得し、規定の在学年数（3年）を満たした場合、単位取得退学者として教育課程を終了することができます。

上記の条件に該当し、単位取得退学を希望する場合は、所定の期間内（2月中旬締切）に、「単位取得退学届」を学事センターに提出してください。

なお、「単位取得退学届」は学事センターで所定用紙を受取ってください。ホームページ上からダウンロードすることも可能です。（次頁参照）

単位取得退学者のメディアセンターの利用について

3年以内に博士論文を提出する目処がある場合に限り、三田メディアセンターの図書貸出を受けることができる「塾員貸出券」（有料）を発行しています。詳細は図書館1階メインカウンターまでお尋ねください。

有効期間：申込日より6ヶ月もしくは1年

サービス範囲：三田メディアセンターに関しては大学院生と同等の貸出規則を適用する。日吉、理工学、湘南藤沢の各メディアセンター、白楽サテライトライブラリーへの入館・閲覧が可能。

他大学図書館への紹介状の発行。

2. 在学期間延長許可願

3年間の在学中に博士課程修了に必要な単位を取得した者で、博士論文作成にまだ時間を要する場合、1年を単位として在学最長年限（6年）を越えない範囲で在学期間の延長を許可することができます。例年2月中旬までに「在学期間延長許可願」を学事センターに提出することになっています。

以上の取り扱いについては巻末諸規程抜粋を合わせて参照してください。

関連規程	1 - 1	学位規程
	1 - 2	学位の授与に関する内規
	1 - 3	商学研究科における課程による博士学位の授与要件に関する内規
	4 - 1	大学院在学期間延長者取扱い内規
	4 - 2	大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料その他の学費に関する取扱い内規

掲示や所定用紙の多くは、「塾生ページ（商学研究科）」のホームページでも参照可能です。以下のURLを参照してください。（一部、掲載していないものもあります。）

「学事センター（三田）商学研究科」ホームページ URL

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/shoken/>

または

慶應義塾大学トップページ (<http://www.keio.ac.jp/>)

「塾生の皆様へ」 「三田キャンパス」の「商学研究科」をクリック

海外の教育機関に留学する場合の取り扱いについて（商学研究科）

- ・在学期間中に留学を希望する場合、「留学」と「休学」の2通りに分けられます。

		留 学	休 学
種 類		研究科委員会において適正と認められた海外の大学で、正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等） なお、留学には 「交換留学」 「奨学金による留学」 「私費留学」の3つの区別があります。	語学研修 その他左記の留学と認定されない場合
期 間	申請期間	留学の開始日から最長1年まで ・年度の途中で開始し、年度の途中で終了することが可能です。 (例) 2004. 9.22 ~ 2005. 9.21	年度末日（3月31日）まで ・年度末をまたいで休学する場合は、新年度に再度休学願を提出してください。 ・休学の開始日がいつであってもその年度はすべて休学の扱いになります。 ・休学願の提出締切はその年度の11月末日です。
	延長	2回まで可能 (留学開始日から3年まで) それ以降は「休学」となります。 ・延長する場合、「国外留学申請書」を改めて提出してください。	次年度も休学する場合は、再度休学願を提出してください。
学費・渡航費	学費減免措置	・1年目：減免制度はありません。 ・2年目以降：減免される場合があります。 ・留学開始日から1年ないし2年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）及び実験実習費の半額を免除します。（留学許可通知とともに申請書類を保証人宛に送付します。）	減免制度はありません。
	渡航補助費	「交換留学」及び「奨学金による留学」の場合には渡航費が補助される場合があるので、国際センターで所定用紙を受け取ってください。	
単位取得・認定	留学期間をはさむ履修	年度の途中から留学する場合は、留学前に履修申告した科目を留学後継続履修し、単位取得することが可能です。 (同一科目同一担当者が原則となります) ・必ず留学前に各科目担当者に、留学終了後に継続して履修する意志があることを伝えておいてください。	休学中の年度は履修できません。 [年度始めから休学] 履修申告は不要です。休学届を履修申告日までに提出してください。 [年度途中から休学] 4月に履修申告した科目はすべて削除されます。
	得た単位を認定	10単位を超えない範囲で、慶應義塾大学での履修単位として認定することがあります。 ・認定を希望する場合は、帰国後学事センターに申し出てください。	単位認定はありません。
在学 年 数	進級・卒業 (修了)	1年間に限り留学期間を慶應義塾大学の在学年数に参入することがあります。ただし、逾及卒業(修了)は認められません。	在学年数に算入されません。 (ただし、実質的な在学年数にかかわらず、休学中も最高学年まで進級します。)

注意 TOEFL, GRE, GMAT 等受験の際には身分証明としてパスポートが必要になります。早めに準備するよう心掛けてください。

講義要綱・シラバス

修士課程設置科目

1. 共通科目

ビジネス・エコノミクス（春学期）

教授 中島 隆 信

授業科目の内容：

米国のビジネス系大学院では、ファイナンス等の応用経済学分野を専攻する学生はもちろんのこと、会計学や経営学やマーケティングを専攻する学生も **Managerial Economics** を1年次に履修することが義務づけられている。それは、企業や消費者の経済行動についての理解なしにはそれらの分野を究めることができないという認識があるからである。

本講義では、商学研究科の大学院生なら誰もが身に付けていることが望ましい経済学的考え方を、**Managerial Economics** のテキストを用いて解説する。使用する教材（下記）は、企業という組織を利害の異なる集団（経営者・従業員・顧客・株主・債権者等々）間の「契約の束」としてとらえる立場から書かれた、まったく新しいタイプのテキストであり、どのように組織を構築すべきかという点に主眼が置かれている。春学期に行われる本授業は **Part 1** および **Part 2** をとり上げ、残りは秋学期の谷口助教授の授業に引き継がれる。

授業は履修者による報告形式をとる。教材は各自で入手しておくこと。

ビジネス・エコノミクス（秋学期）

助教授 谷 口 和 弘

授業科目の内容：

近年、企業組織のミクロ的な制度分析が注目されている。とくに、経営・商学研究者やビジネス・スクールの理論家によって、戦略や組織の経済学を扱ったテキストが数多く出版されている。本講は、取引費用経済学や比較制度分析などの分析枠組を理解するとともに、その有効性を検証するために、現実の企業経営にかんするケースにふれる。とりわけ、「企業の組織アーキテクチャ」に関連した研究成果を扱い、企業の性質にかんする理解を深めていくことになろう。

本講においては、受講者の報告形式を採用する。第1回目の授業の際に、報告担当の配分などを行うので、受講者はかならず出席すること。また、連絡を e

メールで行うことがあるので、各自アドレスを取得しておいてほしい。なお、受講希望者は、あらかじめビジネス・エコノミクス（春学期：中島隆信教授）を履修しておくこと。

ビジネス・エコノミクス（春学期）（秋学期）

Business Economics (Spring term)(Autumn term)

教授（大正製薬チェアシップ基金）

鞍 谷 雅 敏

Professor Masatoshi KURATANI

授業科目の内容：

Introduction to microeconomic concepts and principles: demand and supply, behavior of individuals and organizations, competition and monopoly, accumulation of productive factors and economic growth. Application of basic economic theory to grasp the effects that public policies have on private-sector economy.

ビジネス・ヒストリー

休講

社会科学方法論（春学期）

教授 榎 原 正 勝

授業科目の内容：

本講の意義と目的：本講は、人と人とのかわりによって生じる社会関係が生み出す社会現象を対象とした科学、すなわち、社会科学の知識形成の論理と方法を理解することを目的とする。諸君が研究している経済学、経営学、会計学、マーケティング論など個別の学問の知識が、科学的性格を持つためにはどのような論理と方法を必要とするか、諸学問探求にとって欠かすことの出来ないのが、この方法論である。諸君は、方法論を学ぶことによって、どのような学問を専門としていようと、よりしっかりとした基礎をもった学問探求を可能にすることが出来ると思われる。

授業科目の内容：本年度は F. A. ハイエクの方法論を学ぶことによって社会科学の方法的性格についての理解を深めたい。下記をテキストにして、輪読・討論形式で進める。一回の授業で1章づつ（20～30ページ程度）読む予定。

専門外国書研究（英書）

Academic Reading and Writing（English）

教授 トビン, ロバート I.

Professor Robert I. TOBIN

授業科目の内容：

Communication in Management and Business

This course will focus on strengthening communication skills for management and business. The class emphasizes not only reading and writing, but also discussion, debate, presentations, problem-solving and intercultural communication skills.

The course provides a strong foundation for effective leadership and organizational change and provides an opportunity to strengthen language skills in the discussion of current business issues.

Weekly assignments and contribution to discussions are required in this class which will be conducted as a seminar. Class discussion will be based on texts and current reading, case studies, video segments, group projects and research projects.

The course is conducted in English and is open to all graduate students.

専門外国書研究（独書）

助教授 前田 淳

授業科目の内容：

グローバル化の本質、実態、さらに危険を扱ったドイツの最新の文献を輪読していく。

なお、授業の進行方向は、参加者による翻訳と内容説明を主体とするので、必ず前もっての予習が必要である。試験は行わないので、出席、翻訳・内容説明、レポート（2回）が成績評価の基準である。

専門外国書研究（仏書）

講師 大井 正博

授業科目の内容：

フランス語の基礎を学んだ人に対して、経済記事や専門書を読むために必要な手引きをするのがこの講座の目的である。テキストとしては下記のものを使用し、日本人にはあまりなじみのないフランス経済の諸問題に対する知識を学ぶとともに、慣用的なフランス語の経済用語のマスターに努める。

ジャパニーズ・エコノミー（春学期）

Japanese Economy（Spring term）

教授（フジタ・チェアシップ基金）

小島 明

Professor Akira KOJIMA

授業科目の内容：

戦後から現在に至る日本経済を世界経済との関連を重視しながら分析。高度経済成長、制度改革、雇用慣行、企業経営など多面的に論ずる。

1980年代の円高、バブル景気とその崩壊、不良債権問題、直接投資、金融改革、日本的経営の在り方などを議論する。日本が現在直面している政策問題も点検。講義及び討議は英語を使用。

ビデオ、テープなども利用しながら当局者、専門家生の声、意見に接することができるようにしたい。

Japan's economic performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective.

Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and tapes etc.

統計学基礎理論（春学期）

統計解析（春学期）

教授 早見 均

授業科目の内容：

この授業の目的は統計学の基礎をできるかぎり省略せずに理解することである。授業中に解説したことがらを自ら探した課題に沿って収集したデータにあてはめてみて理解していくことが望ましい。

- I. 確率と確率変数
- II. 確率分布
- III. 特性関数・積率母関数
- IV. 中心極限定理
- V. 推定量の特性
- VI. 検定
- VII. 重回帰分析
- VIII. 最尤法

必要な予備知識は、微分積分と行列の基礎である。それ以外の点は講義中に解説する。評価方法は授業の途中で数回提出していただく課題による。

経済数学基礎理論

助教授 木戸 一夫

授業科目の内容：

目的

数学を直観的に理解し、自在に使いこなせるようになることを目指す。精確な直観を得る為に、この特論では下記内容を厳密に学んでいく。

内容

基礎的概念、線型空間、線型写像、位相、線型近似、最適化理論など。

方法

教科書を、学生による輪読形式で読み進める。数学を理解しようという積極的な質問はどのような分野のものであろうとも、いつでも歓迎する。学生は、自分の専門分野に関連付けながら学び進んで欲しい。

会計情報の作成と見方（秋学期）

助教授 前川 千春

授業科目の内容：

貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書等の財務諸表の作成方法と読み方を習得することを目的とし、経済・経営・商業など会計以外の分野を専攻している学生の学習状況を考慮して基礎的なところを中心に講義を行う（必要があれば複式簿記の基本原則について1～2回ほど講義を行う）。授業は講義だけでなく受講者の報告発表（テキストの輪読）も交えて進める予定である。成績評価は授業への参加状況・報告発表にもとづいて行う。

経済・金融指標の見方・使い方（春学期）

教授 深尾 光洋

授業科目の内容：

マクロ経済学を学びながら主要な金融経済指標の見方を学ぶ

日本経済は深刻なデフレのなかで、短期市場金利もゼロになるなど前例のない経済状態にある。この授業では、金融経済動向を判断するのに必要な経済・金融データの読み方を身につけることを目標にする。単に統計指標を解説するのではなく、マクロ経済学の基礎を学びながら、理論的概念と現実のデータとの関係を理解できるようにしたい。

概略 次の順序で教書と日銀のチャート集を併用しながら、データの見方を解説する。

- (1) 国民経済計算の概念
- (2) 貯蓄投資バランスと資金循環

- (3) IS-LM 分析
- (4) 個別需要項目
- (5) 財政・金融政策
- (6) 国際金融の基礎
- (7) デフレ下の金融政策

特別講義 I（パネルおよびイベントヒストリーデータのための分析手法）（春学期特定期間集中）

特別招聘教授 山口 一男

授業科目の内容：

講義内容は別途掲示する。

2. 専攻基本科目

商学専攻，経営学・会計学専攻 共通

環境の経済・経営・商業・会計（春学期）

コーディネーター 教授 岡本大輔

授業科目の内容：

本講義は経済学・経営学・商業学・会計学のそれぞれの専門家が現代社会において環境問題をどのように研究し，成果をあげているかを講義する学際的科目である。いわゆる「環境学」へのプロローグである。

第1週（4月10日）ガイダンス

講師：商学部教授 岡本大輔

コーディネーターにより本講義の担当講師と環境問題への統合アプローチによる講義概要が紹介され，引き続いて企業と環境の係わり合いに関する総論的な講義を行なう。

第2週（4月17日）廃棄物問題

講師：商学部教授 和気洋子

廃棄物問題をめぐる PPP，拡大生産者責任などの原則論議，環境保全の政策手段と政策効果，あるいは一連の包装・容器，家電，自動車リサイクル法に関する具体的論議について講義する。

第3週（4月24日）地球温暖化問題

講師：商学部教授 和気洋子

地球温暖化防止のための国際的な枠組みをめぐる諸課題を，日本経済の費用負担などとの関連から，講義担当者が関与する政府委員会等におけるエネルギー・炭素税などの話題に言及しながら，講義する。

第4週（5月1日）【休講】

第5週（5月8日）国際環境経済システム

講師：商学部教授 和気洋子

環境と貿易／FDI をめぐる諸問題を解説し，途上国の持続的経済発展のシナリオや地球環境問題へのコミットメント問題などとの関連において，国際環境経済システムの構築に資する問題を講義する。

第6週（5月15日）なぜ，今環境経営が必要か

講師：千葉商科大学政策情報学部
教授 三橋規宏

20世紀に起こった人口爆発と飽くなき豊かさの追求の結果，人類は地球の限界に突き当たってし

まった。「無限で劣化しない地球」から「有限で劣化する地球」へ地球観を切り替えていかななくてはならない。この変化を「自然満足度曲線」という新しい概念で説明する。

第7週（5月22日）資源生産性の向上でビジネスチャンスを掴む

講師：千葉商科大学政策情報学部
教授 三橋規宏

企業の基本戦略は，労働生産性の向上をいかに高めるかにある。エネルギー，資源に着目すると，20世紀の企業は，エネルギー，資源を多消費，多浪費することで，規模の経済を実現し，労働生産性を高めてきた。しかし地球の限界に直面した21世紀の企業は，逆にエネルギー，資源を節約することで，労働生産性の向上を目指さなければならない。資源，エネルギーの節約とは，資源生産性を高めることにほかならない。その中にビジネスチャンスがある。

第8週（5月29日）環境ビジネス発掘のマトリックス

講師：千葉商科大学政策情報学部
教授 三橋規宏

人類が地球の限界に遭遇した今日，これまでのビジネスは大幅な修整を迫られている。このことは，逆にいえば，新しいビジネスを発掘し，発展させるまたとないチャンスと受け止めることができる。環境ビジネス発掘のマトリックスを説明し，それを埋めることで，新たなビジネスの発見に挑戦してもらおう。

第9週（6月5日）環境経営の定量評価

講師：中央大学経済学部
教授 河野正男

環境に配慮する企業経営の定量評価に関する二つの手法—環境パフォーマンス評価と環境会計を紹介する。とくに環境会計の枠組みと基礎概念について詳述する。

第10週（6月12日）外部報告のための環境会計

講師：中央大学経済学部
教授 河野正男

環境省の「環境会計ガイドライン」の解説の後，財務報告書および環境報告書における環境会計情報の現状をガイドラインに関連付けて紹介する。

第11週（6月19日）意思決定のための環境会計

講師：中央大学経済学部
教授 河野正男

環境要因を考慮に入れたいくつかの管理手法すな

わちライフサイクル・コスト・アセスメントおよび予算管理などについて紹介する。

第 12 週 (6 月 26 日) 環境問題とマーケティング

講師：筑波大学大学院ビジネス科学研究科
助教授 西尾チヅル

地球環境との共生や資源循環を推進する方法にはどのようなものがあるか、その中でマーケティングに課せられている役割とは何か、を概説する。その上で、環境マーケティングの概念と課題を企業事例を紹介しながら説明する。

第 13 週 (7 月 3 日) 消費者の環境配慮行動の規定要因とその特徴

講師：筑波大学大学院ビジネス科学研究科
助教授 西尾チヅル

市場を構成する消費者の環境問題への認知の特徴や環境配慮行動の規定要因に関する国内外の研究を紹介し、その特徴を整理する。それらを踏まえた上で、環境配慮型商品の市場を拡大するためのコミュニケーション方法や整備すべき仕組みなどについて議論する。

第 14 週 (7 月 10 日) 環境マーケティングの展開方法

講師：筑波大学大学院ビジネス科学研究科
助教授 西尾チヅル

上記 2 回に渡る議論を通じて、環境マーケティングの内容を製品・サービスの企画・販売段階、使用・消費段階、廃棄・資源回収段階ごとに整理し、具体的な展開方法について議論する。また、企業の環境マーケティングを推進するために必要な法制度や社会システムについても考察を加える。

イノベーションの経済・経営・商業・会計 (春学期)

コーディネーター 教授 高橋 郁 夫

授業科目の内容：

講義は以下に記すスケジュールに従って進める予定である。

1. オリエンテーション

(担当：慶應義塾大学教授 高橋郁夫)

第 1 回 (4 月 10 日)

本講義のねらいと進め方、それに成績評価の仕方等について情報の伝達を行う。

2. イノベーションと経済

(担当：学習院大学教授 宮川努)

第 2 回 (4 月 17 日) マクロ経済とイノベーション

マクロ経済学において、技術進歩やイノベーショ

ンがどのように組み込まれているかを説明し、昨今の日本経済における技術進歩の役割について説明する。

第 3 回 (4 月 24 日) IT 投資と日本経済

1990 年代に入って、世界的に IT 化が急速に進んでいる。経済学では、この IT 化をどのように把握しているのか、また日本の IT 化は、世界に比べて進んでいるのか、遅れているのかということを経済データに基づきながら論じる。

第 4 回 (5 月 8 日) イノベーションの源泉：研究開発投資と人的資本

経済学では、イノベーション (技術進歩) の源泉は、研究開発投資による知識ストックの蓄積と教育による人的資本の向上であると考えられている。両者の動向について、統計データに基づきながら解説を行う。

3. イノベーションと会計

(担当：東洋大学教授 西村優子)

第 5 回 (5 月 15 日) イノベーションと戦略的管理会計

イノベーションは顧客が欲する新製品や新サービスを提供する新知識の創出であり、知識は技術知識とマーケット知識からなる。新知識の創出のプロセスは企業の経営戦略の策定と実行のプロセスと密接に関連する。本講座では、イノベーションにおける新知識の創出・ストックと戦略的意思決定および戦略的管理会計の関係について取り扱う。

第 6 回 (5 月 22 日) イノベーションの会計的評価

イノベーションによる知的資産を会計的に測定し評価する方法として①コスト・アプローチ、②インカム・アプローチ、③マーケティング・アプローチがある。これらの測定方法の理論と計算について、事例に基づいて、具体的に明らかにする。

第 7 回 (5 月 29 日) 知的資産に関わる会計規定等
知識ストックである知的資産の認識基準と測定基準を、以下に基づいて検討する。

- ① わが国の「研究開発費等に係る会計基準」(1998 年)ならびに日本公認会計士協会経営研究調査会研究報告 12 号「知的財産の評価 (中間報告)」(2001 年)
- ② 国際会計基準第 38 号「無形資産 (Intangible Assets)」(1998 年)
- ③ 米国財務会計基準審議会特別報告「ビジネスレポーティングと財務報告—ニューエコノミーからの挑戦」(2001 年)

4. イノベーションと経営

(担当：サンノゼ州立大学教授 Mark Fruin)

第 8 回 (6 月 5 日) 第 9 回 (6 月 12 日) 第 10 回 (6 月 19 日)

アメリカのハイテク企業におけるイノベーション・マネジメント、特に研究開発のプロセスの現状と特質についてシリコンバレーを拠点として行動しているベンチャー企業を中心に理論的・実証的な視点から解説する。

5. 流通におけるイノベーション

(担当：青山学院大学教授 田中正郎)

第 11 回 (6 月 26 日) 流通における情報一定型の情報と非定型の情報

情報という言葉が意味するところは、必ずしも一定したものではない。流通において特に必要とされる情報は、商品の需要と供給に関するものである。こうした情報が持つ特徴とは何かを考える。

第 12 回 (7 月 3 日) 小売業の商品管理システムと情報技術

小売業における商品管理システムは、技術革新の連続であった。キャッシュレジスターの発明から POS システムが開発されるまでの商品管理システムにおける技術革新のようすをふりかえってみる。

第 13 回 (7 月 10 日) 企業間の流通関連業務プロセスの統合化

食品や雑貨品のメーカー、卸、小売を含めたサプライチェーン内の企業が協働して、サプライチェーン内の可視性向上やパートナーがもつリソースの活用等が模索されている。こうした動きの背景を考える。

* 5 月 1 日 (土) は予備日とし、必要に応じて、学事日程上の 7 月 15 日 (木)、16 日 (金) と併せて補講日とする。

ファイナンスの経済・経営・商業・会計 (秋学期)

コーディネーター 教授 辻 幸 民

授業科目の内容：

1. 意義と目的

現代経済におけるファイナンスの重要性はますます高まっている。たとえ金融のプロや企業の財務担当者でなくても、ファイナンスの理屈や仕組みを理解しておくことはビジネスの世界で活躍する上で不可欠な要件となっている。この講義では、経済・経営・商業・会計の 4 分野でファイナンスにかかわる研究や仕事に従事している方を講師に招き、それぞれの立場からファイナンスに関する諸問題を、各

3 回にわたってわかりやすく講義してもらう。科目の性質上、講義内容は 4 分野間で必ずしも有機的に繋がっているわけではないが、各 3 回の講義は体系的な内容となるよう配慮がなされている。ファイナンスを専門としない人も、この講義を契機にファイナンスに対する関心と理解を深めてもらいたい。

2. 講義日程と担当者 (敬称略)

ガイダンスと総論 (9/25)

辻 幸民 (商学部)

ファイナンスの経済 (10/2, 10/9, 10/16)

新井富雄 (東京大学)

ファイナンスの商業 (10/23, 11/6, 11/13)

木村正芳 (木村正芳事務所代表)

ファイナンスの会計 (11/27, 12/4, 12/11)

醍醐 聡 (東京大学)

ファイナンスの経営 (12/18, 1/8, 1/15)

小山史夫 (アクセンチュア)

3. 講義概要

初回到総論的な解説を行う。ファイナンスに関する諸問題を 4 分野の視点から論ずることの意義と相互の関係について述べる。2 回目以降の講義概要は以下のとおりである (各担当者から提出された講義紹介文をもとに作成)。

ファイナンスの経済

- 1) 価値創造と設備投資の意思決定：価値創造という観点から設備投資決定に関して考える。投資プロジェクトに伴うキャッシュフローの把握方法、NPV や IRR の概念およびプロジェクトのリスクと割引率の関係に関して説明する。
- 2) 企業価値の評価：リスクとリターン、CAPM 等の資産価格評価モデル、資本構成の影響を論じた後、フリーキャッシュフロー法、EVA/MVA など代表的な企業価値評価方法について解説する。
- 3) リスク管理とデリバティブ：リスク管理の意義とデリバティブの利用について説明する。先物、スワップ、オプションなどの価格評価理論についてもその概要を解説する。

非営利組織の経済・経営・商業・会計 (秋学期)

コーディネーター 教授 黒 川 行 治

授業科目の内容：

非営利組織について経済・経営・商業・会計の諸分野からのアプローチによる分析・検討により総合的な理解を深めることを目的とする。

1. 総論（黒川行治）

- ① 非営利組織体の分類と特徴
- ② 非営利組織体と営利組織体の活動環境（資源の獲得，市場との関わり）の相違点と類似点
- ③ 非営利組織体の財務報告の目的

2. 経済

- (1) 経済学の視点からみた非営利組織のあり方 1（中条潮）

非営利組織の存在理由は何か，非営利組織を営利組織と区別する理由は何かをミクロ経済学の視点から検討する。

- (2) 経済学の視点からみた非営利組織のあり方 2（中条潮）

非営利組織に対する規制や支援の妥当性をミクロ経済学の視点から議論する。

- (3) 経済学の視点からみた非営利組織のあり方 3（跡田直澄）

非営利組織の問題点，役割，規制や支援の妥当性をマクロ経済学の視点から検討する。

3. 経営（谷本寛治）

企業と NPO の関係について，具体的な事例をもとに考えていくことにする。

- (1) NPO の特徴：NPO の 3 つのパターン（慈善型，監視・批判型，事業型）
- (2) 企業と NPO の基本的な違いと類似点を確認する。
- (3) 企業と NPO の多様な関係性について下記の点について考察する。
 - ① 企業による NPO 支援
 - ② NPO による企業の監視・批判
 - ③ NPO による企業評価
 - ④ 企業と NPO のアランアンス

戦略の経済・経営・商業・会計（秋学期）

コーディネーター 教授 小林 啓 孝

授業科目の内容：

1. オリエンテーション 担当 小林 啓 孝
講義の全体像についてのオリエンテーションを行う。

戦略の商業(マーケティング)的視点 担当 小坂 恕

事業経営を行う組織体にとって，商業(マーケティング)が組織体を経営環境に適合・革新させて事業を成功させる，組織体先導機能を論ずる。事業経営を行う組織体には，営利組織である企業の他，私的並びに公的非営利組織も含む。

2. 組織体先導機能の説明の基礎(マーケティング・マネジメントの枠組み)

組織体の事業経営戦略にマーケティングが果たす先導的機能を論ずる基礎として，まず「マーケティング・マネジメント」の枠組みを説明し，経営戦略が経営環境に対応して立案されるシステムを提示する。経営環境は，マクロ環境とミクロ環境とから成る。

マクロ環境は国・社会レベル経営環境で，6 要因(経済・技術・人口統計・文化・自然・政治)で論じる。ミクロ環境はそのなかの個別産業・市場レベルの経営環境で，その構成要素はサプライ・チェーンという部分と，市場需要・競争企業・購買者行動の各要素からなる。戦略は経営基本構造部門とその各論たるマーケティング 4P 戦略部門から構成される。

経営基本構造部門では，投入経営努力・競争分析・収益性の構造が解明される。マーケティング 4P 戦略部門は製品・価格・流通チャンネル・プロモーションで形成される。

3. マーケティングの組織体先導機能

以上の枠組みを基礎に，組織体は事業をどの方向に戦略的に展開すべきかを論ずる。それは，事業可能性方向探索・経営資源配分による方向選択・選択方向の事業性分析の 3 段階で論ぜられる。

事業可能性方向探索：事業は各産業・市場というミクロ環境のなかで行われるが，どの産業・市場が成長し，どれが衰退するかは，国・社会レベルのマクロ環境によって規定される。マクロ環境の分析・予測から今後どの方向に産業・市場が発展していくか論ぜられ，組織体の事業の将来の可能性の方向を探索する過程が説明される。

経営資源配分による方向選択：探索された複数の新事業可能性方向と現有事業を，それらの産業・市場の将来性と自組織体の競争力分析から，経営資源配分の視点より選択する。

選択方向の事業性分析：将来行うべく選択された事業を，実際に始める前に，事業性分析を行って，その経営を始めれば成功する可能性が十分あるかを確認してから，事業に入る。事業性分析は，経営基本構造部門での投入経営努力・競争分析・収益性の予測を行う。

4. グローバル化する事業環境で組織体を発展させるマーケティング

あらゆる事業分野でグローバル化は不可避となっ

ており、マーケティングはその目まぐるしい変化に組織体を対応させる。上記論旨をグローバルに展開して、世界市場におけるマクロ環境とミクロ環境の基本構造を定量的・動的的に提示、それに対応するグローバル戦略を操作可能な形で形成する過程を説明し、組織体のグローバル事業展開を促す。(講義はパワーポイントで行い、教材は配布する。参考図書:『マーケティング・マネジメント論』(有斐閣),『グローバル・マーケティング』(国元書房),いずれも小坂恕著)

戦略の会計的視点

担当 田中 隆雄

5. 企業戦略と企業価値

日本企業が長期にわたって低迷している原因の1つは、企業目標の設定とその管理が適切でないことにある。日本企業は比較的最近まで、資本コストに注意をあまり払わなかった。その結果、資本効率を無視して、設備投資を行い事業を存続してきた。そのような企業戦略ないしは資源配分が今日の日本企業の低迷をもたらした。財務的目標は企業戦略を構築する際に最重視すべき課題である。近年、欧米のみならず日本においても関心の高まっている財務測度として、企業価値がある。企業価値とはどのような測度で、それを測定する方法としてどのような方法があるのであろうか?また、企業価値重視の経営、いわゆるバリュー・ベースのマネジメントとはどのようなものであろうか?日本企業の実態を含めて話すことにする。

6. 組織戦略と管理会計

近年、日本においては持株会社やカンパニー制といった新たな組織形態に移行する企業が少くない。そして、これらの企業は社内資本金制を採用する場が多い。また、会計の仕組みとしては、ビジネス・ユニット(BU)別の貸借対照表を作成している。社内資本金制やBU貸借対照表は事業業績の向上や企業戦略・事業戦略の遂行にどのような効果を発揮するのであろうか?また、BU貸借対照表の作成ユニットを細分化すれば、資産別の収益性を把握することも可能になり、時価主義会計で問題となる減損の把握が容易になる。組織革新と会計の仕組みについて検討することとする。

7. 戦略の実行と業績評価

近年、アメリカにおいては戦略の実行をモニターするツールとして、Balanced-Scorecard(BSC)が急速に普及しつつある。BSCはもともとBUの

業績管理手段として考案されたが、実際に使ってみると戦略の実行をモニターする機能を兼ね備えていることが解かった。BSCは財務的尺度と非財務的尺度の複合した測定尺度である。非財務的尺度は、顧客の視点、従業員の視点そしてプロセスの改善などによって構成される。非財務尺度は将来の業績を予測するうえで有益な測度であるといわれるが、それは何ゆえか?非財務的測度は戦略の実行とどのように関わるのであろうか?

戦略の経済的視点

担当 小宮 英敏

8. ナッシュ交渉問題

協力ゲームの基本的な問題であるナッシュの2人交渉問題を取り扱う。交渉問題の本質的な構造を理解すると共に、ナッシュによる公理的な交渉問題の解決法のアイデアを理解することが目的である。これに伴い期待効用仮説、あるいは数学的な概念の理解が必要になるが、丁寧に解説するつもりである。

9. 進化ゲーム

この3回の講義はナッシュ交渉問題を多角的に理解することを目的としているが、その予備知識として進化ゲームの理論を解説する。進化ゲームはゲーム理論に刺激を受け生物学者が進化を理論的に説明するために考え出したものであるが、進化ゲームはゲーム理論に逆輸入されゲーム理論のひとつの研究分野となっている。

10. ナッシュ交渉問題の進化ゲームによるアプローチ

前2回の講義に基づいて交渉問題を進化ゲームの枠組みで理解することを目的とする。進化ゲームは動的な分析手法を取っていることから、交渉問題の解に漸近する手続きを明示することができる。また、限定合理性の枠組みで交渉問題を考える基礎を与えることが可能になる。

戦略の経営的視点

担当 十川 廣國

11. 企業経営から見た戦略

企業成長のためには、企業が目指すべき将来の方向を選択し、その目標実現のために経営資源をいかに活用するかが基本的な課題となる。こうした活動を担うのが経営戦略である。しかし、経営戦略に対する考え方は、伝統的な視点から現代的な視点へと変化を遂げてきている。まずは、戦略の経営的視点がどのように変容してきたかについて

の理解をすすめることにしたい。

12. 持続的競争優位の構築と戦略経営

変化する環境のもとでの企業の成長・存続は、競争優位をいかに構築するかにかかっている。人々の創造性発揮を通じた経営資源の新たな活用が求められることになり、組織をいかに活性化するかが解決されるべき重要課題となる。新たな組織能力が競争優位の源泉になると考えられるからである。ここでは、こうした組織能力とは何か、それが競争優位構築にどう結びついて行くと考えられるのかについて検討したい。

13. 戦略の経営的視点と戦略経営についてのまとめ

商学専攻

マクロ・マーケティング論（マクロ・マーケティング・システムと社会とのインタラクション）（春学期）

教授 高橋 郁夫

授業科目の内容：

生産、流通、消費の連係を巨視的に捉え、それをマクロ・マーケティング・システムと呼ぶとき、本講はそのシステムとそれを取り巻く社会とのインタラクションについて研究を行う。そのためには基本的文献（主に、英文による学術論文）の研究によってその理論的背景や研究枠組について理解を深めると共に、そこで用いられる各種の分析手法についても検討を加える。

毎回の予習と報告が義務付けられ、また、履修者の人数によっては、学期末にレポート試験を課す予定である。

ミクロ・マーケティング論（秋学期）

教授 堀田 一善

授業科目の内容：

マーケティング研究の方法をめぐる主要な議論のうち、現在最も注目を集めている S. D. ハントの主張を中心に、その他の方法的立場をめぐる主張との相違を比較検討することを通じて、今日のマーケティング研究領域の知的到達状況を判断するための基礎を探究する。

租税法 I（春学期）

Domestic Tax Law（Spring term）

特別研究教授 本庄 資

Professor Tasuku HONJO

授業科目の内容：

国家・地方団体の財政基盤を成す租税について、各国・各地方団体の状況を踏まえて適切な租税政策を選択しこれを実現するための租税構造を有することが必要である。本論は、所得税制と消費税制について各国が共通して直面している下記の課題を取り上げ、これらに対する基本的な考え方を示す。さらに各国の実情を踏まえて議論する。

〔課題〕

1. 租税政策と租税構造
2. 租税法の原則と最近の論点
3. 所得税法の課題（個人・法人を含む）
 - (1) 納税義務者（特にパス・スルー・エンティティ、投資媒体の取扱）
 - (2) 課税標準（所得分類、非課税所得、所得概念、必要経費）
 - (3) 税率（累進税率、比例税率、国際標準化）
 - (4) 税額控除（特に外国税額控除）
 - (5) 源泉徴収の問題（税収の確保と国際金融の障害）
 - (6) 租税特別措置の問題（不公平税制か税制の戦略的利用か）
4. 消費税法の課題
 - (1) 納税義務者（事業者登録・管理）
 - (2) 前段階税額控除（インボイス方式と帳簿方式）
 - (3) 課税取引の範囲
 - (4) 電子取引の問題
5. 租税回避防止の問題

The State and local authorities need to have their appropriate tax structure under their tax policies to meet the current situation of the public finance. From this point of view, this lecture will take up the following issues which most countries are facing and show the basic stand toward them. Concrete measures appropriate for each country will also be discussed.

1. Tax policy and tax structure
2. Principles of tax law and the current issues
3. Main problems of income tax law (including individuals and corporations)
 - (1) Taxpayer (especially pass-through entity and

collective investment vehicle)

- (2) Tax base (classification of income, exempted income, concept of income, deductions, threshold)
 - (3) Tax rate (progressive rate, flat rate, international standard)
 - (4) Tax credit (especially foreign tax credit)
 - (5) Withholding tax (mechanism for raising tax revenues or obstacles to international financial transactions)
 - (6) Special tax measures (unfair taxation system or strategic use of tax system)
4. Main problems of consumption tax law
 - (1) Taxpayer (registration and control of business entrepreneur)
 - (2) Input tax credit (invoice method or booking method)
 - (3) Scope of taxable transactions
 - (4) Electronic commerce
 5. Counter-measures against tax avoidance

租税法Ⅱ（秋学期）

International Tax Law (Autumn term)

特別研究教授 本 庄 資
Professor Tasuku HONJO

授業科目の内容：

すべての国の経済が国際化する中で、企業経営は世界規模の税負担の減少を目的とするため、諸外国における事業、投融資、人的役務提供について予測可能性と法的安定性を要求する。各国としては、自国企業の外国課税（アウトバウンド取引課税）について予測可能性を確保し、外国企業の自国内における課税（インバウンド取引課税）について予測可能性を与えることが、資本輸出の中立性を確保しつつ、外資導入促進のために、必要である。そのため、国際取引の円滑化のためにはその障害となる国際的二重課税の排除と各国の課税権の配分をする必要があり、国際課税ルールの確立が不可欠とされる。このような観点から、本論は、現在の国際課税ルールとして受入れられるOECDモデル条約や国連モデル条約を確認した上で、最近の主要な論議を取り上げて、これらに対する基本的な考え方を示す。さらに各国の実状を踏まえて議論する。

〔課題〕

1. 各国の課税原則（居住地国課税と源泉地国課税）
2. 確立された国際課税ルール（OECDモデル条

約）

3. 租税条約と国内法
4. 最近の国際課税問題
 - (1) 移転価格課税
 - (2) 過少資本税制
 - (3) タックス・ヘイブン税制
 - (4) 有害な税制と租税特別措置
 - (5) トリーテイ・ショッピング防止規定
 - (6) 租税条約の適用対象者としての事業体の取扱
5. 国際的二重課税の排除の方法（国外所得免除方式か外国税額控除方式）
6. 特定の経済圏内の相互免税と圏外居住者の差別待遇

The management of enterprise needs to have a clear predictability and a juridical stability of the taxation on the operation of business, investment and loan activities as well as the provision of personal services so as to minimize the world-wide income tax burdens along the economic globalization of every country. It is necessary for them to facilitate their own domestic enterprises to secure the predictability for the foreign taxation on the outbound transaction not to injure the neutrality of capital export and to give foreign enterprises the predictability for the domestic taxation on the inbound transaction to promote the introduction of foreign capital. The establishment of international tax rules must be essential for smooth international transaction to eliminate the double taxation and to allocate the taxing power to the specific country. From this point of view, this lecture will take up the following issues which most countries are facing and show the basic stand toward them. Concrete measures appropriate for each country will also be discussed.

1. Principles of taxation in each country (taxation by resident country and taxation by source-country)
2. Established international taxation rules (OECD Model Convention)
3. Tax treaty and Domestic tax law
4. Modern international taxation issues
 - (1) Transfer Pricing Taxation
 - (2) Thin capitalization
 - (3) Anti-tax haven measures

- (4) Harmful tax system and domestic special tax measures
 - (5) Anti-treaty shopping measures (Limitation on benefits)
 - (6) Treatment of business entity under tax treaty
5. Elimination of international double taxation (foreign income exemption method or foreign tax credit method)
6. Mutual exemption within a particular economic group and discrimination of any resident outside the group

金融論（証券投資論）（春学期）

教授 金子 隆

授業科目の内容：

ファイナンス理論は企業金融論（Corporate Finance）と証券投資論（Investment）に大別されるが、今年度は1年間かけて後者のテキストを輪読する。使用するのは、米国のビジネス・スクール（MBA）で証券投資論のテキストとしてはもっとも多く採択されている、非常に定評のある本である。入門レベルから本格的な理論まで平易に書いてあり、ファイナンスを専攻していない大学院生でも、省略せずにじっくり読めば付いてこれられると思う。履修者はできれば春学期・秋学期を通して履修して欲しい。

春学期に取り上げるのは以下の章である。

- 1 The Investment Environment
- 2 Markets and Instruments
- 3 How Securities Are Traded
- 4 Mutual Funds and Other Investment Companies
- 5 History of Interest Rates and Risk Premiums
- 6 Risk and Risk Aversion
- 7 Capital Allocation between the Risky Asset and the Risk-Free Asset
- 8 Optimal Risky Portfolios
- 9 The Capital Asset Pricing Model
- 10 Single-Index and Multifactor Models
- 11 Arbitrage Pricing Theory
- 12 Market Efficiency
- 13 Empirical Evidence on Security Returns

授業は原則として1回1章のペースで進め、各回は、1)レポーターによる内容解説（レジュメ用意）、2)私の補足解説、3)章末の演習問題（時間がなければ適宜レポートを課す）という順序で進める。

金融論（証券投資論）（秋学期）

教授 金子 隆

授業科目の内容：

ファイナンス理論は企業金融論（Corporate Finance）と証券投資論（Investment）に大別されるが、今年度は1年間かけて後者のテキストを輪読する。使用するのは、米国のビジネス・スクール（MBA）で証券投資論のテキストとしてはもっとも多く採択されている、非常に定評のある本である。入門レベルから本格的な理論まで平易に書いてあり、ファイナンスを専攻していない大学院生でも、省略せずにじっくり読めば付いてこれられると思う。履修者はできれば春学期・秋学期を通して履修して欲しい。

秋学期に取り上げるのは以下の章である。

- 14 Bond Prices and Yields
- 15 The Term Structure of Interest Rates
- 16 Managing Bond Portfolios
- 17 Macroeconomic and Industry Analysis
- 18 Equity Valuation Models
- 19 Financial Statement Analysis
- 20 Options Markets: Introduction
- 21 Option Valuation
- 22 Futures Markets
- 23 Futures and Swaps: A Closer Look
- 24 Portfolio Performance Evaluation
- 25 International Diversification
- 26 The Process of Portfolio Management
- 27 The Theory of Active Portfolio Management

授業は原則として1回1章のペースで進め、各回は、1)レポーターによる内容解説（レジュメ用意）、2)私の補足解説、3)章末の演習問題（時間がなければ適宜レポートを課す）という順序で進める。

リスク・マネジメント論

休 講

交通・公共政策論

休 講

産業組織論（春学期）

教授 井手 秀 樹

授業科目の内容：

「競争政策と政府規制の経済学」の観点から理論的かつ実証的な文献を中心に検討する。

随時、レポート等を課す。

計量経済学（経商連携 COE 科目）（春学期）（秋学期）

助教授 新保一成

授業科目の内容：

パネルデータの計量経済学

春学期と秋学期を通じて、パネルデータを用いた実証分析に必要な計量経済学の方法を講義する。なおこの授業は、21世紀 COE プログラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析—構造的経済政策の構築にむけて—」の連携科目として設置され、経済学研究科の応用計量経済学（修士課程）、計量経済学特論（博士課程）（いずれも担当は辻村和佑教授、宮内環助教授、河井啓希助教授）と合同で行う。

理論経済学（秋学期）

教授 中島隆信

教授 樋口美雄

授業科目の内容：

毎週、外部から計量経済学、経済政策等に関連する研究者を招聘し、報告してもらうことにより、国内外の最先端の分析について、研究していく。

国際経済学（春学期）

講師 古沢泰治

授業科目の内容：

貿易政策の国際協調について理論的に考察する。具体的なトピックは以下の通り。

1. 国際協調のゲーム理論的アプローチ
2. 自律的均衡としての国際協調
3. 多国間協調の優越性
4. GATT/WTO の国際協調に果たす役割

国際経済（秋学期）

International Economy (Autumn term)

教授（フジタ・チェアシップ基金）

小島 明

Professor Akira KOJIMA

授業科目の内容：

The class covers various international economic policy issues including trade, Investment (foreign direct investment), foreign exchange policy, WTO process, FTAs (Free Trade Agreements), regional integration, competitiveness issue, economic development strategy and so on.

Students will be put in the very front line of policy debate of international economy. Real voices

of policy makers, business leaders and scholars will often be given to the students through recorded tapes and videos. As I have good many chances to participate to many important international policy debates, the student can be given the chance of sharing such experiences of mine. Practical, as well as theoretical approach will be introduced.

産業史・経営史（春学期）

教授 工藤教和

授業科目の内容：

産業史、経営史を単なるケースの紹介に終わらせるのではなく統一性をもったものとしてとらえるためには、事例を考察する理論的な枠組が欠かせない。今日の経済変化の基礎となる企業の活動、とりわけ企業組織と技術発展との関係、市場の構造と企業競争力との相互作用等について検討する場合には経済学、社会学、経営学、経済史などの成果を取り入れた学際的なアプローチが必要となる。本講義では *Industrial and Corporate Change* 誌上に掲載の関連諸論文を基礎とするテキストを使用し、企業の理論、企業組織と技術発展、技術発展と産業の構造および競争力などについて多面的に検討してみたい。

前半は、企業や市場の組織に関する理論的な考察が、また後半は、産業の競争力についての事例を織り交ぜた議論が中心となる。一方的な講義ではなく少数でのディスカッションを重視する。

経営学・会計学専攻

現代日本経営論（春学期）

名誉教授 藤森三男

授業科目の内容：

日本の企業経営は欧米のそれと比較して、どのように異質であるか知識を与えることを第一の目標として、第二には統計、文献などの一次資料の読み方、考え方を指導することを目標として授業を行う。入門者、留学生といった初心者にも理解できるように解説する。

留学生には英文の資料も配布する。

1. 日本の近代化と企業経営
2. 戦後日本の経済発展（復興期、前期高度成長期、後期高度成長期、石油危機とそれ以降、

バブル経済と構造調整期)

3. 日本経済の「奇跡」と日本の企業者
4. 資本主義と企業経営
5. 企業目標, 社是社訓
6. 資金問題と財務管理・税金
7. トップマネジメント, 意見決定機関と社長
8. 企業組織, その日米比較
9. 人事問題と給与, 労働組合
10. 戦略
11. 日本型企業経営の将来, 欧米の企業経営と東アジアの企業経営

経営学説 (春学期)

教授 榊原 研 互

授業科目の内容 :

今日の経営学の現状は多様な研究プログラムやアプローチの併存という事態によって特徴づけられ, まさに錯綜した様相を呈している。こうした状況にあつてさらに実りある発展を経営学に期待するならば, 何よりも諸理論, 諸学説を批判的に整序し, かつその限界を明らかにすることが重要である。本授業では経営学の科学化のために先人たちが払ってきた努力を明らかにしながら, 経営学の今日的な問題を考察する。

会計学 (秋学期)

Accounting (Autumn term)

教授 伊藤 眞
Professor Makoto ITO

授業科目の内容 :

International Accounting Standard and International Financial Reporting Standard

International Accounting Standards (IAS) issued by the International Accounting Standards Committee (IASC), and International Financial Reporting Standards (IFRS) issued by International Accounting Standards Board (IASB), which is restructured from IASC, have been making their presence felt around the world recent years. IASB has been and is continuing to study accounting issues and prepare new IFRS and improve IAS.

Some multinational enterprises, whose headquarters are located in Europe, have been preparing their consolidated financial statements in compliance with IAS (including IFRS) for purpose of cross-boarder security offerings and listings on foreign

securities offering.

All enterprises, which are domiciled and listed in the European Union, will be required to report in accordance with IAS from year 2005. Many countries are taking steps to harmonize their national accounting standards with IAS with some modifications to allow for local environment.

In this course, we will study the history of IAS, IASC and IASB, Framework for the Preparation and Presentation of Financial Statements, and some significant accounting standards, such as IAS39 "Financial Instruments: Recognition and Measurement" and IAS12 "Income Taxes", which will be compared with the US Generally Accepted Accounting Principles (US GAAP) and Japanese GAAP, when necessary.

After the first session of introduction to IAS, each student will be assigned in advance to report on a Standard, followed by discussion, case studies and my supplementary explanation or comments.

労働経済学 (春学期)

教授 清家 篤

授業科目の内容 :

労働市場における主体均衡と市場均衡について講義する。具体的には, 労働力の測定, 労働供給の理論, 労働需要の理論, 労働市場の均衡についての講義である。この授業は, 労働経済特論 (秋学期) においてとり扱う労働市場の諸問題について考えるために必須のものである。

産業関係論

休 講

3. 分野専門科目

商学専攻

<商業学分野>

マクロ・マーケティング特論（流通問題） （春学期）（秋学期）

名誉教授 清水 猛

授業科目の内容：

本講義ではマクロ・マーケティング研究の一環として、主に流通問題を取り上げ、社会システム論の視点から多変量解析による分析について学ぶ。英文文献をベースにして、講義、報告、議論をおこなう予定である。各学期毎にレポートを課す。

マクロ・マーケティング特論（マーケティング方法論） （春学期）

教授 堀越比呂志

授業科目の内容：

本講では、マーケティング研究における様々なアプローチとその科学性に関する諸問題を論究する。マーケティング研究が成熟してくる過程で、方法に関する議論は幾度となく展開されてきている。授業では、このマーケティング研究における方法論争にかかわる論文やその理解に必要な基本的文献を選択し、その輪読、発表をもとに全員での討議を行う。

受講者は、出席はもちろんであるが、相当量の準備が必要とされるであろうし、自分の進めている研究における方法を自覚した上で議論に参加することが望まれる。

ミクロ・マーケティング特論（消費者行動論） （春学期）

助教授 小野晃典

授業科目の内容：

企業のマーケティング活動と相互作用関係にある消費者行動は、マーケティング論において最も活発に展開されてきた研究領域の1つである。より精緻な消費者行動の理解と描写は、よりよいマーケティング理論を構築する上で不可欠であろう。しかし、多数の研究者が参画し多様なアイデアが交錯している消費者

行動論の現状は、初学者には理解しがたい状況にある。そこで本講においては、消費者情報処理行動を描写するフレームワークを軸として「満足」「関与」「知識」「流行」といった様々な研究トピックを描写する理論モデルについて、グループ討議を行う。

ミクロ・マーケティング特論（イノベーション・新製品開発）（秋学期）

助教授 濱岡 豊

授業科目の内容：

○意義と目的

この授業では、イノベーションが生まれ新製品を開発する段階に注目し、主にミクロな視点からの研究を進める。

○授業内容とスケジュール

『目次』

マーケティングに限定せず、イノベーション研究、技術のマネジメント、心理学における創造性研究、組織論、社会学など、学際的な視点から研究を進めて行きたい。参加者の興味に応じて、以下のトピックを適宜選択する。

- ・イノベーション・新製品の源泉
- ・人や消費者の創造性と創造プロセス
- ・イノベーション・新製品の開発プロセス
- ・イノベーション・新製品の開発組織、コミュニケーション
- ・イノベーション・新製品の開発プロセス改善のためのツール、メディア
- ・イノベーション・新製品のパフォーマンス指標

商業学演習（マーケティング経済学の研究）（春学期） （秋学期）

教授 榎原正勝

授業科目の内容：

1) 講義のテーマ

経済学的接近によるマーケティング研究。特に今年はオーストリア派経済学の「市場プロセス論」を研究する。

2) 授業項目の概要

市場プロセスについての主要論文が載っている下記のテキストを輪読する。

3) 主に対象とする学生

経済学の立場からマーケティング現象を理論的に分析することに興味を持つ者。

4) 授業の進め方

授業は担当箇所を各自全訳（事前配布）、発表し、討論中心で進めていく。

商業学演習（マーケティングの理論と実証）
（春学期）（秋学期）

教授 高橋 郁夫

授業科目の内容：

本講は商業学を専攻する履修者の修士論文執筆のための指導を行う。その前提として、商業学の知識と統計的解析能力が必要とされる。ゼミ形式と個別形式を適宜組み合わせる指導を進める。

商業学演習（マーケティング研究と批判的合理主義）
（春学期）（秋学期）

教授 堀田 一善

授業科目の内容：

履修者の論文作成を目的に発表・討論を中心に指導する。但し、受講者数との関係もあるので、少人数の場合は、マーケティングの古典を併せて輪読することも考えている。

商業学演習（マーケティング・メタ研究とマーケティング研究の理論化）（春学期）（秋学期）

教授 堀越 比呂志

授業科目の内容：

これまでのマーケティング研究の成果を、その対象、方法、学説という3つの視点から整理し、分析するマーケティング・メタ研究を基礎として、マーケティング研究の理論化を探求する。授業は、このテーマに興味を持つ履修者の論文作成のための発表と討論が中心となり、修士課程および博士課程合同で、両者の時間帯（4時限、5時限）を連続して行うので、履修申告の際は注意されたい。また、単独の授業とともに、討論の実り豊かさを考慮して、堀田一善教授および榎原正勝教授との合同授業の形態も採用される。詳しいスケジュールは、最初の授業の時に、履修者と相談の上決める予定なので、必ず出席されたい。

商業学合同演習

休講

<金融・証券論分野>

金融特論（デリバティブ1）（春学期）

教授 辻 幸民

授業科目の内容：

この授業では、デリバティブ全般、およびこれに関するファイナンスの基礎知識の理解に努めたい。具体的には、先物、オプション、スワップといったデリバティブを対象にして、これらの基本的な仕組みを習得することのみならず、これらの価格付け pricing に必要なファイナンスの基本ツールを取り上げる。

授業は基本的にはテキストの輪読であり、履修者による報告が義務付けられる。なお履修者は秋学期もあわせて履修されることが望ましい。

金融特論（デリバティブ2）（秋学期）

教授 辻 幸民

授業科目の内容：

この授業では、春学期の授業をふまえて、BSモデルとその応用を取り上げたい。BSモデルの若干の技術的側面、およびBSモデルがファイナンスの他の分野に与えた影響なども取り上げたい。

授業は基本的にはテキストの輪読であり、履修者による報告が義務付けられる。なお履修者は春学期もあわせて履修されることが望ましい。

金融特論（秋学期）

Advanced Study of Finance (Corporate Governance)
(Autumn term)

教授 深尾 光洋

Professor Mitsuhiro FUKAO

授業科目の内容：

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in

major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting a strong pressures for convergence in some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

2. Hostile Takeovers

Shleifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers," in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. "Takeover Politics," in *Dear Decade*, edited by M. Blair, 1993.

3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No. 3, June 1994.

Franks, Julian R., "Lessons from a comparison of US and UK Insolvency Codes," *Oxford Review of Economic Policy*, Vol. 8, No.3, 1992.

Bank of Japan, "The Japanese Employment System," Bank of Japan Quarterly Bulletin, May 1994.

Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders," remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A Comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Newbury, Robert W., Rachel Leahey, Annick Siegl and Stacey Burke, *Board Practices 2000*, IRRC, 2000.

William C. Powers, Jr., Raymond S. Troubh, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.

4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure," *Seoul Journal of Economics*, Vol.11, No. 4, 1998.

Fukao, Mitsuhiro, "Barriers to Financial Restructuring: Japanese Banking and Life-Insurance Industries," paper for a NBER conference on "Structural Impediments to Growth in Japan" on March 18-19, 2002.

Grading will be based on the term paper and class participation.

The topic of the term paper has to be related to the content of the class. For example:

Comparison of governance structures among some countries,

Governance structure of government owned companies and private companies,

Issues related to bankruptcy procedures,

Security exchange law and governance system,

Incentive mechanism for directors,

Banking problems and deposit insurance system.

証券特論（資本市場構造論）（春学期）

教授 赤川元章

授業科目の内容：

証券市場とは、証券発行を行う近代株式会社や公経済などの社会的資産の集中機構を前提として成立する証券の売買運動＝証券の需要・供給の場である。この証券市場は、商品としての証券（株式・社債・公債）を取扱う特殊な資本、証券取引資本（証券会社・銀行）の機能に支えられ、証券資本主義の発展と共に、その役割はますます重要となっている。かかる証券市場の構造を貨幣的経済理論の観点からとくに、景気循環との関連から究明する。

テキストはアメリカの証券市場を対象としたウィーン学派の経済学者マハループ、Fの：Machlup, F., *The Stock Market, Credit and Capital Formation* 『株式市

場、信用および資本形成』(千倉書房)を用いる。

証券特論(証券市場制度論)(秋学期)

教授 赤川 元章

授業科目の内容:

証券のもつ様々な属性はその所有者との関係において、特殊なもの(たとえば、利子・配当請求権証券、投機的売買差益証券、経営支配証券など)に限定されて現れる。とりわけ、価格論として証券を対象とする場合には、収益とリスクの両面において、発行主体の経営体の個別的状态ならびに金融市場の一般的動向に依存する。証券は、今日、「信用代位」の高度形態としての「証券代位」として展開され、証券市場の範囲を一層拡大している。このような証券市場のシステムを証券取引所の機能も含めて制度論的側面から検討する。本年度は、東欧・中国などの国有企業の民営化を踏まえた証券市場論についても取り扱う予定。

財政特論(春学期)

教授 跡田 直澄

授業科目の内容:

目的: 公共部門は肥大化し、財政赤字を累積している。なぜこのような事態が引き起こされるのか。この点を解明するため、春学期では主に歳出面についての公共経済学の基礎的な文献を輪読するとともに、若干の解説的講義を行なう。

財政特論(秋学期)

教授 跡田 直澄

授業科目の内容:

目的: 公共部門は肥大化し、財政赤字を累積している。なぜこのような事態が引き起こされるのか。この点を解明するため、秋学期では主に租税面についての公共経済学の基礎的な文献を輪読するとともに、若干の解説的講義を行なう。

授業内容:

1. 所得税
2. 法人税
3. 間接税

財政特論(春学期)

Advanced Study of Public Finance (Spring term)

特別研究教授 北村 行伸
Professor Yukinobu KITAMURA

授業科目の内容:

Objective: To provide a basic framework of public finance at macroeconomic level, starting from fiscal and monetary policy in a standard macroeconomics, public debt in a growing economy, cost-benefit analysis, public goods, international debt and international tax issues.

Teaching Method: Lecture is given and then discuss on the topic.

Covered Topic:

Fiscal and Monetary Policy
Budget
Macroeconomic Aspects of Taxation
Public Debt
Cost-benefit analysis
Public goods and bads
Local Public Finance
Finance and Development
International Issues in Public Finance

Text:

Lecture note is provided on website.
(<http://www.ier.hit-u.ac.jp/~kitamura>)
Public Finance by Harvey. Rosen, Irwin.
Economics of the Public Sector by Joseph E. Stiglitz, W. W. Norton.
Public Finance and Public Policy by A.L.Hillman, Cambridge University Press.

財政特論(秋学期)

Advanced Study of Public Finance (Autumn term)

特別研究教授 北村 行伸
Professor Yukinobu KITAMURA

授業科目の内容:

Objective: To provide a basic framework of public finance, at microeconomic level, starting from a general theory of taxation on commodity, income and corporate profits and then extending issues of tax evasion, and compliance, and tax reform.

Teaching Method: Lecture is given and then discuss on the topic. Sometimes, exercise is given for clarifying your understanding.

Covered Topic:

Commodity Taxation
Individual Income Taxation
Corporate Taxation
Capital Income Taxation

Inheritance and Gift Taxation
Tax Evasion and Compliance
Tax Reform

Text:

Lecture note is provided on website.
(<http://www.ier.hit-u.ac.jp/~kitamura>)
Public Economics by Gareth D. Myles, Cambridge University Press.
Economics of The Public Sector by Joseph E. Stiglitz, W. W. Norton.
Lectures on Public Economics by A. B. Atkinson and J. E. Stiglitz, McGraw-Hill.
The Economics of Taxation by B. Salanié, The MIT Press

税務行政特論（春学期）

Advanced Study of Tax Administration (Spring term)

特別研究教授 本庄 資
Professor Tasuku HONJO

授業科目の内容：

The State and local authorities need to have sufficient tax revenues to maintain their public finance in sound health. The basic premises for raising tax revenues as provided by tax laws are a fair and efficient tax administration and a high level of taxpayer compliance. From this point of view, this lecture will take up the following issues which most countries are facing and show the basic stand toward them. Concrete measures appropriate for each country will also be discussed.

1. Organization and human resource for tax administration
2. Registration and control of taxpayers
3. Tax examination and investigation
4. Measures to secure tax revenues
5. Countermeasures against “tax saving,” “tax avoidance,” “tax evasion” and “corruption”
6. Protection of taxpayer’s rights
7. Income tax administration and value added tax administration

国家・地方団体の財政基盤を健全に保つには、自主財源である税収を十分に確保することが必要である。そして税制の予定する税収を上げるには、公正で効率的な税務行政と納税者のコンプライアンスが不可欠の前提である。このような観点から、本論は、各国が共

通して直面している下記の課題を取り上げ、それらに対する基本的な考え方を示す。さらに各国の実情を踏まえ、具体的にどう対処すべきかを議論する。

〔課題〕

1. 税務組織機構及び人的資源
2. 納税者管理
3. 税務調査
4. 円滑な税収確保政策
5. 節税・租税回避・脱税・腐敗への対応
6. 納税者の権利保護
7. 所得税の税務と付加価値税の税務

金融論演習（金融経済論）（春学期）（秋学期）

教授 赤川 元章

授業科目の内容：

履修者と相談のうえ、決定する

金融論演習（春学期）（秋学期）

教授 金子 隆
教授 辻 幸民

授業科目の内容：

金融・証券に関するテーマに取り組んでいる大学院生と研究者を対象とした金融ワークショップを共同で開催する。履修者には現在手掛けている論文の中間報告をしてもらう。報告すべき段階に至っていない人は、研究テーマに関連した文献の紹介・検討でもよい。教員やゲスト・スピーカーによる報告も適宜取り入れる。

こういう趣旨で行うので、毎週定期的で開催されるとは限らない。初回に履修者と相談して大体のスケジュールを決定する。

財政論演習（春学期）

教授 跡田 直澄

授業科目の内容：

目的：財政学の各テーマについて、理論的あるいは計量的分析をおこなっている基礎的論文および近年の展開をサーベイし、各自が興味あるテーマで実際にモデルを作り分析を行なうことを目的とする。春学期においては、おもに社会保障制度をテーマとする。

授業内容：

1. 年金制度
2. 医療制度

財政論演習（秋学期）

教授 跡田 直澄

授業科目の内容：

目的：財政学の各テーマについて、理論的あるいは計量的分析をおこなっている基礎的論文および近年の展開をサーベイし、各自が興味あるテーマで実際にモデルを作り分析を行なうことを目的とする。秋学期においては、おもに租税制度をテーマとする。

授業内容：

1. 最適所得税論，最適課税論
2. 資本所得課税

財政論演習（応用ミクロ経済学）（春学期）（秋学期）

教授（大正製薬チェアシップ基金）

鞍谷 雅敏

授業科目の内容：

ミクロ経済学は広い応用分野をもつが、中でも、年金・税制・法制・資本市場等を分析するツールとして有効である。また、今日の我が国では長寿化や知識経済化等が進展しているが、そうした趨勢下におけるライフサイクル・家族・組織・都市等の変貌を理解するうえでも、ミクロ経済学は様々な洞察をもたらす。

本演習では、財政金融制度等の公共政策のあり方や、その基盤として考慮すべき経済社会環境の変化をテーマとし、ミクロ経済学のロジックを応用しつつ研究に取り組む大学院生に対する指導を行う。

演習運営方式は、履修者から研究の進展結果の報告を受けて指導することを基本とし、併せて、関連する各種論点に関し、参考文献を踏まえて議論し理解を深める。

財政論演習（春学期）（秋学期）

Seminar: Public Finance (Spring term) (Autumn term)

特別研究教授 北村 行伸

Professor Yukinobu KITAMURA

授業科目の内容：

Objective: To write, at least, one research paper on the topics related to public finance as a term paper or a part of Master's thesis. The research paper must be clearly written (precise, crispy) and may not be too long (approximately 20pages).

Teaching Method: Presentation of assigned papers/chapters of a book and discussion after presentation.

Once each participant's research topic is selected,

participant's own paper in progress is to be presented and discussed by me and other participants.

Possible Research Topics: The topic must be narrowly focused and well defined. The core idea must be something new and have some policy relevance.

- (1) Fiscal Policy in the Process of Economic Development
Provision and effectiveness of social capital and infrastructure.
- (2) Consumption Tax versus Income Tax
Means of raising revenue from taxation.
- (3) Economics of Tax Evasion
How widely tax evasion prevails? What mechanism to prevent it?
- (4) Debt Management Policy or Measurement of Public Deficits and Its Implications
What determine optimal debt management? How harmful public deficits in the conduct of fiscal policy?
- (5) Social Security and Public Pension Design
Intergenerational transfers and generational accounting
- (6) Provision of Public Goods and Externalities.
Must transportation, housing, telecommunication, TV network, among others be provided publicly?
- (7) Others

税制・経済政策演習（春学期）（秋学期）

Seminar : Advanced Study of Taxation and Economic Policies (Spring term) (Autumn term)

教授（大正製薬チェアシップ基金）

鞍谷 雅敏

Professor Masatoshi KURATANI

授業科目の内容：

This seminar will discuss concrete themes concerning relations between private-sector economy and public policies. Seminar students are required to fulfill reading assignments and present their own views in classes. They are also required to write research papers on topics related to taxation and economic policies.

金融論合同演習（春学期）

コーディネーター 教授 樋口 美 雄
教授 和 気 洋 子
教授 深 尾 光 洋
教授 中 島 隆 信

授業科目の内容：

国際経済学，金融論，交通論，計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより，自分の専攻分野はもちろんのこと，他の分野でも現在，何が問題になっており，これに対してどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め，授業参加者，および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分野であれば，一切問わない。

成績評価は，発表者は発表内容，発表者でないものは学期末のレポートによる。

金融論合同演習（経商連携 COE 科目）（秋学期）

コーディネーター 教授 樋口 美 雄
教授 和 気 洋 子
教授 深 尾 光 洋
教授 中 島 隆 信

授業科目の内容：

国際経済学，金融論，交通論，計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより，自分の専攻分野はもちろんのこと，他の分野でも現在，何が問題になっており，これに対してどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め，授業参加者，および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分野であれば，一切問わない。

成績評価は，発表者は発表内容，発表者でないものは学期末のレポートによる。

< 保険論分野 >

リスク・マネジメント特論

休 講

保険特論（春学期）

教授 堀 田 一 吉

授業科目の内容：

保険学は，その特殊性から，経済学，金融論，制度論，経営論，法律論，数理論その他，いろいろな学問

分野と隣接し，それぞれの成果を取り入れて従来理論をより精緻にする形で発展してきた。

ところが，現在の保険学研究を概観すると，研究者の興味対象が細分化された結果，研究相互の関連性が不明確になりつつあるように見える。これからの研究の方向性を定める上では，これまでの研究成果を整理し，残された課題を確認しておくことが不可欠である。

本講義では，代表的な研究書または論文を読むことを通じて，保険学研究の動向を探りながら，多様な研究アプローチを習得することを目的とする。授業は，指定した文献について，予め指名されたレポーターが，要約およびコメントを行い，それに対して，問題点を整理しながら議論しあう形で進めたい。したがって，言うまでもなく，受講者は，相当量の準備が要求される。評価は，授業で平常点と，学期末のレポートによって行なう。

保険経営特論（秋学期）

教授 堀 田 一 吉

授業科目の内容：

本講義は，企業としての保険会社の行動理論を取り扱う。規制緩和の流れの中で，保険業界は，将来の構造変化に備えて，厳しい選択を迫られているということが言える。授業では，現在，わが国の保険業界が抱えている課題をいくつか取り上げて，問題解決に向けてさまざまな角度から再検討してみる。授業の進め方は，毎回レポーターを決めて，事前に与えたテーマについて現状および課題を整理してもらい，それをふまえて全員で討議を行なう。併せて，適宜，関連した文献を紹介しながら，現在の研究段階を確認していくことにする。

受講者に対しては，保険業界の現状について，ある程度問題意識を持っていることが望ましい。

リスク・保険論演習

休 講

リスク・保険論合同演習

休 講

<交通・公共政策・産業組織論分野>

交通・公共政策特論（春学期）

助教授 伊藤 規子

授業科目の内容：

主に価格メカニズムか規制システムについての基本的理論を研究します。1冊か2冊理論的かつ基礎研究の蓄積に役立つベーシックなテキストを輪読することを予定しています。テキストは初講日に決めます。

交通・公共政策特論（市場規制論）（秋学期）

教授 中条 潮

授業科目の内容：

履修者と相談の上、決定する。

経済地理特論

休講

産業組織特論（イノベーションと中小企業）（秋学期）

教授 高橋 美樹

授業科目の内容：

この授業では、産業組織論と中小企業論との接点に当たる分野をとりあげ、議論する。具体的には、ネットワーク型企業間関係、イノベーションと企業規模、中小企業政策などのテーマについて、“Small Business Economics”所収論文などを適宜輪読し、議論を整理、検討してゆく。

なお、この科目は秋学期のみの授業なので、履修申告前に必ず、その具体的な内容について、担当者まで問い合わせること。また、履修者の問題意識に応じて、テーマが若干かわることもあり得ます。

交通・公共政策演習（規制の経済学・交通経済学）（春学期）

教授 中条 潮

授業科目の内容：

受講生と相談の上、決定する。

交通・公共政策演習（交通政策）（秋学期）

名誉教授 藤井 彌太郎

授業科目の内容：

履修者の研究課題に即して、討論と論文作成の指導をする。

産業組織論演習（秋学期）

教授 井手 秀樹

授業科目の内容：

産業組織、公的規制、および関連領域の問題について最近の文献と事例を中心に議論する。

産業組織論演習（日本の企業と産業組織）（春学期）

教授 高橋 美樹

授業科目の内容：

本演習では、履修者各自の問題意識向上・明確化、論文作成能力の向上を目的とします。

具体的には、「日本の企業と産業組織」を大きなテーマとして、履修者による発表、議論を中心に授業をすすめます。

公共政策・産業組織論合同演習（春学期）

コーディネーター 教授 井手 秀樹

授業科目の内容：

ネットワーク産業と競争政策、規制のあり方について文献講読と参加者の発表を中心に議論する。

<計量経済学分野>

計量経済学特論（春学期）

教授 牧 厚志

授業科目の内容：

C-CAPMの講義をします。

計量経済学特論（秋学期）

教授 牧 厚志

授業科目の内容：

春学期に引き続きC-CAPMを講義します。

数理統計学特論（統計的推論）（春学期）

教授 早見 均

授業科目の内容：

よく利用されている統計的手法を理解するには、(1)基本的な確率論あるいは確率過程論の知識が必要なこと、(2)利用されるデータに即した確率的モデルが作成できること、(3)コンピュータの性能を駆使したシミュレーション手法が使えること、などが必要条件となっている。修士論文の作成にあたってデータを利用した分析を考えている人を前提にして、一歩踏み込んだ基礎知識を習得することをねらいとしている。

一昨年は確率過程の推定について、B.L.S. Prakasa Rao [1999] *Statistical inference for diffusion type process, Kendall's Library of Statistics 8*, Arnold と H. Goldstein [1995] *Multilevel statistical models, Kendall's Library of Statistics 3*, Arnold を講義形式で解説した。昨年は、最新的话题を基礎的な数字で解説している G. Grimmett and D. Stirzaker [2001] *Probability and random processes, 3rd ed.*, Oxford University Press をレポート形式で5章の特性関数まで進めた。

本年度は受講生の要望によって、つぎのなかから選択したい。

- (1) マルコフ連鎖やマルチンゲールなど確率変数の収束にかんする最近の応用(Grimmett and Stirzaker の解説)
- (2) ユニークな確率と統計の教科書で最近の手法までプログラム付でわかるようになっている David Williams [2001] *Weighing the odds: a course in probability and statistics*, Cambridge University Press.

博士課程の統計学特殊研究の項目も参照して欲しい。

産業関連特論（産業関連分析）（春学期）

教授 桜本 光

授業科目の内容：

産業関連分析の基礎理論及び応用例を講義する。国際間分析例としては、日米・アセアン産業関連分析、地域間分析例としては東京都産業関連分析をとりあげ、日米間・東アジア間及び地域間の相互依存関係を分析する二つのモデル（静学・動学）を述べ受講者にも演習してもらう予定である。

- I. 概説 現代における産業関連分析の意義
- II. 国民経済計算と産業関連表（SNA と I—O表及び SAM）
- III. 産業関連分析の基礎理論
 - 3.1 数量分析と価格分析（レオンチェフ・オープンモデル）の解説
 - 3.2 産業関連分析に関連する諸係数の解説
 - 3.3 パソコンによる生産・労働・資本波及効果分析（演習）
 - 3.4 生産関数と産業関連分析
生産者行動理論の系譜と I—O 分析
- IV. 産業関連表と一般均衡分析
 - 4.1 一般均衡モデルの解説

- 4.2 パソコンモデルによる演習予定

V. 産業関連分析の応用

- 5.1 家計消費の内生化（消費関数と産業関連分析）
消費者行動理論の系譜と I—O 分析（消費コンバータの解説）
- 5.2 民間設備投資の内生化（投資関数と産業関連分析）
設備投資行動と固定資本マトリックス
- 5.3 輸出・輸入の内生化（国際産業関連分析）
日米産業関連表と国際産業関連表の解説とその応用（貿易摩擦）
- 5.4 移出・移入の内生化（地域産業関連分析）
東京都地域間産業関連表の解説とその応用（東京一極集中のメカニズム）
- 5.5 経済成長と技術進歩
産業構造の三角化と T. F. P.（全要素生産性）の計測例
- 5.6 持続的成長と環境保全
エネルギー・環境分析用産業関連表（EDEN表）の応用例

VI. 産業関連表とエネルギー・環境分析

VII. 産業関連表の推計と今後の課題

開発経済特論（秋学期特定期間集中）

Advanced Study of Development Economics (Autumn term)

特別招聘教授 キラナンダナ, ティエンチャイ
Guest Professor Thienchay KIRANANDANA

授業科目の内容：

Course Outline

1. Concepts and measurement
 - economics development
 - economic growth
 - income distribution and poverty
2. Approaches to economic development
 - The linear-stages theory
 - Rostow's stages of growth
 - The Harrod-Domar growth model
 - Structural changes models
 - Surplus labor and the Lewis model
 - Structural changes and patterns of development
 - The international-dependence revolution
 - The Neoclassical dependence model
 - The false-paradigm model

- The dualistic development thesis
 - The Neoclassical counterrevolution
 - Free market, public choice, market-friendly approaches
 - Traditional Neoclassical growth theory
 - The New growth theory
 - Endogeneous growth
3. Industrialization and economic development
- The role of capital formation
 - Industrialization policies
 - The structuralist vs monetarist debates
4. The Green revolution
- Land reform
 - Agricultural-led development
5. The foreign sector in development
- Export promotion and import substitution
 - Manufactured exports from LDC's
 - Export-led growth with primary products
 - The liberal international economic order
 - Market access issues (from GATT to WTO)
6. Capital formation in development
- Mobilizing domestic savings
 - Fiscal and monetary policies
 - Financial reforms
 - Foreign sources of capital
 - Direct foreign investment
 - Official development assistance
 - Bank lending and debt crisis
7. Demographic transition and development
- Population growth and changes
 - Migration
 - Urbanization
8. Human capital formation approach to economic development
- Endogeneous growth theory
 - Education
 - Health
9. Market economies and economic reform
- Planning vs market economies
 - Economic reform in market economies
10. Income inequality and poverty alleviation
- Growth and income distribution
 - Development with equity

—Poverty alleviation

11. The environment and sustainable development

- Environmental problems
- Sustainable development

計量経済学演習 (応用計量経済学) (春学期) (秋学期)

教授 井原 哲夫

授業科目の内容:

学生に報告してもらいながら、経済現象およびその分析の仕方について他方面から検討し、現象の見方や考え方の能力を高めることを目的とする。

計量経済学演習 (春学期) (秋学期)

教授 黒田 昌裕

授業科目の内容:

一般均衡数量モデルの構築について、先行研究をサーベイし、実証研究の例にとりながら、議論を行なう。秋学期については、Seminar 形式と併用して行なう。授業は、博士課程科目「計量経済学特殊演習」と合同にて行なう。

計量経済学演習 (産業連関分析) (春学期) (秋学期)

教授 桜本 光

授業科目の内容:

受講者による研究発表を予定している。

計量経済学演習 (市場の質に関する理論形成と実証分析) (経商連携 COE 科目) (春学期) (秋学期)

教授 中島 隆信

教授 樋口 美雄

授業科目の内容:

毎週、外部から計量経済学、経済政策等に関連する研究者を招聘し、報告してもらうことにより、国内外の最先端の分析について、研究していく。

計量経済学演習 (春学期) (秋学期)

教授 牧 厚志

授業科目の内容:

参加者に報告していただきます。

計量経済学合同演習 (春学期) (秋学期)

コーディネーター 教授 早見 均

授業科目の内容:

経済現象を実証理論分析 (計量経済学) を主に行っている商学部、経済学部、産業研究所のスタッフと受

講者による研究発表と討論を予定している。

受講者は討議を通じて、実証研究に不可欠な統計情報体系の整備の仕方や理論と観測との対応関係等を体得し、各自の研究の進行過程において様々な角度から再考する機会としてほしい。

計量経済学合同演習（春学期）

コーディネーター 教授 樋口 美雄
教授 和気 洋子
教授 深尾 光洋
教授 中島 隆信

授業科目の内容：

国際経済学、金融論、交通論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題となっており、これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

計量経済学合同演習（経商連携 COE 科目）（秋学期）

コーディネーター 教授 樋口 美雄
教授 和気 洋子
教授 深尾 光洋
教授 中島 隆信

授業科目の内容：

国際経済学、金融論、交通論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題となっており、これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

<国際経済学分野>

国際関係特論

（中国社会主义市場経済と対外経済関係）（春学期）

教授 唐木 罔 和

授業科目の内容：

中国経済体制改革の歩みとその過程から生まれた「社会主义市場経済」及び近年の「三つの代表」とい

う概念の意義を論じた上で、WTO 加盟にあたって、さらなる市場経済化を進める中国経済の現状と問題点を指摘し、中国の対外経済関係の今後について考える。

国際金融特論（秋学期）

Advanced Study of International Finance (Autumn term)

教授 深尾 光洋
Professor Mitsuhiro Fukao

授業科目の内容：

Corporate Governance:

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting a strong pressures for convergence in some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

2. Hostile Takeovers

Shleifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers," in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*,

edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. "Takeover Politics," in *Dear Decade*, edited by M. Blair, 1993.

3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No. 3, June 1994.

Franks, Julian R., "Lessons from a comparison of US and UK Insolvency Codes," *Oxford Review of Economic Policy*, Vol. 8, No.3, 1992.

Bank of Japan, "The Japanese Employment System," Bank of Japan Quarterly Bulletin, May 1994.

Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders," remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A Comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Newbury, Robert W., Rachel Leahey, Annick Siegl and Stacey Burke, *Board Practices 2000*, IRRC, 2000.

William C. Powers, Jr., Raymond S. Trough, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.

4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure," *Seoul Journal of Economics*, Vol.11, No. 4, 1998.

Fukao, Mitsuhiro, "Barriers to Financial Restructuring: Japanese Banking and Life-Insurance Industries," paper for a NBER conference on "Structural Impediments to Growth in Japan" on March 18-19, 2002.

Grading will be based on the term paper and class participation.

The topic of the term paper has to be related to the content of the class. For example:

Comparison of governance structures among some countries,

Governance structure of government owned

companies and private companies,

Issues related to bankruptcy procedures,

Security exchange law and governance system,

Incentive mechanism for directors,

Banking problems and deposit insurance system.

国際経済特論（国際経済政策）（春学期）

教授 和 気 洋 子

授業科目の内容：

1. 現代社会において、財・サービスの国際貿易の拡大と金融・資本市場の国際化の進展、そして企業経営の一層のグローバル化を通じて、各国間の国際的な相互依存関係はこれまで以上に高まっている。こうしたなかでわれわれの眼前には、各国経済間のボーダー分析、経済政策運営、ビジネスの競争と協調のロジック、そして地球環境問題など多くのグローバルイシューが、問われるべき課題として次から次へと現れている。

本講は、これらの今日的な問題意識を基礎にして、とくに「貿易・直接投資・地球環境問題」をめぐる論点をさまざまな視点から整理し、いわば新しい国際経済政策論の枠組みのなかでより自由で活発な議論が行われることが目的である。

2. 授業内容および方法については、受講者の専門レベルなどに応じて、具体的に決めるつもりであるが、とくに地球環境問題に関連する資料など、とりあえず議論をすすめる上で必要と思われる基礎的な参考資料・文献については、その都度、講義のなかで紹介する予定である。これに並行して、受講者による自主的な論文解題を積極的に取り入れていきたいと考えている。

国際経済学演習（春学期）

教授 唐 木 圀 和

授業科目の内容：

国際経済学及び中国経済に関するテーマについて、受講者の希望を聞いた上で、文献を定め、その内容を検討し、かつ、論文作成の指導を行なう。

昨年度春学期は、ヒックス『価値と資本』を講読した。

国際経済学演習（秋学期）

教授 唐木 圀 和

授業科目の内容：

国際経済学及び中国経済に関するテーマについて、受講者の希望を聞いた上で、文献を定め、その内容を検討し、かつ、論文の指導を行なう。

昨年度秋学期は、環境問題、経済発展論に関する文献を受講者に報告してもらい、かつ、修士論文の指導をおこなった。

国際経済政策演習（秋学期）

Seminar : Advanced Study of International Economic Policies (Autumn term)

特別招聘教授 鶴 光太郎
Guest Professor Kotaro TSURU

授業科目の内容：

This seminar focuses on institutions and economic systems in nations and discusses the international comparison of them and the institutional reforms from the global perspective. Discussion subjects include financial system, employment system, inter-firm relationships, the role of government and politics (including law and judicial system). The seminar asks why different institutions or systems emerge in different nations and what kind of institutional changes or reforms are appropriate in the process of globalization. The seminar studies these issues theoretically and empirically in the context of the recent development of economics including “Comparative Institutional Economics”, and emphasizes a political approach (“Political Economics”) to deal with policy issues.

国際経済学合同演習（春学期）

コーディネーター 教授 樋口 美雄
教授 和気 洋子
教授 深尾 光洋
教授 中島 隆信

授業科目の内容：

国際経済学、金融論、交通論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題となっており、これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努め

る。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

国際経済学合同演習（経商連携 COE 科目）（秋学期）

コーディネーター 教授 樋口 美雄
教授 和気 洋子
教授 深尾 光洋
教授 中島 隆信

授業科目の内容：

国際経済学、金融論、交通論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題となっており、これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

<産業史・経営史分野>

産業史特論（石炭産業とエネルギー市場の歴史）（経商連携 COE 科目）（秋学期）

助教授 牛島 利明
経済学部教授 杉山 伸也
経済学部教授 古田 和子
経済学部教授 柳沢 遊

授業科目の内容：

経商連携 COE プラグラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析」の歴史分析班による共同セミナーである。今年度は、テーマとして戦前・戦後における日本およびアジア諸地域の石炭産業に焦点をあて、基本的な研究文献を体系的にとりあげて報告と討論を行なう。

成績評価は、授業での報告や討論への参加などを考慮に入れて、総合的に判断する。

産業史特論（イギリス産業史）（秋学期）

教授 工藤 教和

授業科目の内容：

現在の英国経済の相対的な「活況」を反映してか、英国経済の「凋落」をめぐる議論はやや沈静化している。しかし、長い論争の中で提起された諸問題は、今後の日本経済を考える上でも示唆に富むものが多い。

本講義では、古典的な議論の対象となった 19 世紀後半から第一次大戦までのイギリス産業の Decline について多方面から論じた論文を集めた文献をテキストとし、「凋落論」の真偽を考える。その前に、対象とする時期は異なるが、最近イギリス産業衰退論に一石を投じた A. Booth の論文を題材として取り上げこの主題への導入をはかる。

経営史特論（福澤と門下の経営者たち）（秋学期）

名誉教授 西川 俊 作

授業科目の内容：

この講義は、福澤の『実業論』（1893）を中心にして、競争や会社、実業（産業 industry）、また元金社中・働き社中といった彼の「理念」について吟味する。これまでの研究は、彼の経済思想を論じるのがふつうであったが、ここで注意すべきは、彼がベスト・セラーの著者であると同時に自分の著書の出版、流通を営む書物商、福澤屋論吉であって、のちには慶應義塾出版社の大株主であるとともに、事実上の経営者でもあったことである。

三田出の経営者は少なくないが、そのなかから荘田平五郎、阿部泰蔵、中上川彦次郎、井坂直幹、下村亀三郎ならびに武藤山治を取り上げ、彼らの経営理念や management について検討する。したがって、講義は business history というより、むしろ entrepreneurial history というのが適当な内容になる。彼ら 6 人に共通する理念上実際上の公分母があったかどうか、またそれは福澤のそれと同じであったか、違いがあるとしたらどういう点か探してみる。

経営史特論（比較経営史）（春学期）

助教授 平 野 隆

授業科目の内容：

19 世紀後半から第 2 次世界大戦期までを対象に、欧米および日本における諸産業の発展と企業経営の展開を比較史の視点から検討する。授業は、下記の文献の輪読および履修者の調査報告によってすすめる。

経営史特論（企業者史）（春学期）

教 授 吉 田 正 樹

授業科目の内容：

本年度は資本主義発展のバロメーターといわれ、また機械を作る機械ともいわれる工作機械（machine-tools）産業の発展を取り上げ、そこでの技術革新、市場拡大に果たした企業者活動を考察していきます。

講義は先ず工作機械の定義を検討し、産業成立の歴史をイギリス、アメリカを中心に考察していきます。各国の工作機械産業発展の特質に触れながら、技術進歩と企業経営にたいする技術者、企業者のかかわりを考察することになります。以上の欧米にみられた資本主義発展における工作機械産業の歴史考察を踏まえて、明治期の日本工作機械産業の導入と産業成長の考察に進みます。戦前のわが国においてはその重要性はあまり強く認識されず、国産技術よりも輸入品に依存する安易な選択が一般に行なわれたので、そうした背景をさぐりながら産業発展の制約条件を戦前の工作機械産業の企業者はどの様な方法により乗り越えようとしたのか、またどの程度まで克服し得たかを理解していきます。受講者はテキストによるレポート作成が課せられますが、これを基に議論をおこない必要な説明をくわえていきます。また講義の進捗状況に応じて課題をあたえますので、欧文、和文の論文、資料或いは社史に各受講生はあたりレポートを作成し発表することになります。

流通史特論（日本金融史）（春学期）

教 授 玉 置 紀 夫

授業科目の内容：

近代日本の金融システムが、江戸のそれをどのように継承し、西欧のなにを吸収しつつ形成されたのかを、講義と討論を通じて研究する。

産業史・経営史演習（産業史関連修士論文作成と史料蒐集・批判）（春学期）（秋学期）

教 授 工 藤 教 和

授業科目の内容：

修士論文作成に向けての個人指導、史料蒐集方法の助言、および 1 次史料を利用した史料批判の実習等を行なう。分野は 18 世紀以降の産業史・経済史が中心となる。

産業史・経営史演習（春学期）（秋学期）

教 授 玉 置 紀 夫

授業科目の内容：

履修者の修士論文テーマに従って、論文作成と執筆の指導を行う。

産業史・経営史合同演習（春学期）（秋学期）

コーディネーター 教 授 玉 置 紀 夫

授業科目の内容：

履修者に作成中の学位申請論文の発表を求め、これについて産業史・経営史専任教員の参加のもとで合同討論を行う。場合によって学外の専門研究者の参加を求める。

経営学・会計学専攻

<経営学分野>

現代企業経営特論（コーポレート・ガバナンスの比較制度分析）（秋学期）

教授 植竹晃久

授業科目の内容：

「企業は誰のために、いかに運営されるべきか」という基本課題について、株主主権論とステイクホルダー論の検討、また市場指向的アプローチと機関ないし制度指向的アプローチの検討を踏まえて、各国の歴史経路と制度補充関係に対応したコーポレート・ガバナンスのあり方について模索していく。

現代企業経営特論（企業倫理）（秋学期）

専任講師 梅津光弘

授業科目の内容：

Lynn Sharp Paine の最新刊 Value Shift を講読しながら、現代社会における企業観、企業をとりまくステイクホルダー、企業パフォーマンスの評価基準の変化について、様々な角度から検討・考察していきたい。英文原典をほぼ一週間に一章のペースで読みすすめながら、討論中心のクラス運営を行う予定である。企業倫理の概論的な知識を得たい方には、春学期の商学部科目 現代企業経営各論（企業倫理）の履修もおすすめする。評価は期末レポート（70%）とクラス参加度（30%）で行う。詳細は第一回目のクラスでお伝えするので必ず出席のこと。

現代企業経営特論（企業評価）（春学期）

教授 岡本大輔

授業科目の内容：

企業評価研究のテーマは、視点の研究と手法の研究に分けることができる。前者は何を以って評価基準とするかという評価内容・評価視点の研究であり、いわば WHAT の研究である。一方後者はそれをいかにして評価するかという分析方法・分析手法の研究であり、いわば HOW の研究である。本講義では両者それぞれについての考察を行なう。

前者に関しては従来の評価基準である収益性と成長性に加えて、近年注目されている持続可能性（Sustainability）をとりあげる。後者に関しては人

工知能手法の企業評価への適用，特にニューラルネットワーク（Artificial Neural Networks）を取り上げる。

授業は参加者の報告と討論という形式で進めていく。なお，続いて行なわれる経営学演習の時間も利用するので，参加者は両方の授業に参加してもらいたい。

現代企業経営特論（経営資源としての知的財産）

（秋学期）

教授 清水 啓 助

授業科目の内容：

特許，ブランド，デザイン，ソフトウェア，コンテンツ等の知的財産は企業の新たな競争力の源泉として注目されています。そして，これからの経済成長の原動力として知的財産を日本の産業の基盤とする「知的財産戦略」が打ち出されました。

そして，ベンチャー企業の設立や技術移転，M&A，企業評価等において知的財産が重視されるとともに，知財の価値評価，信託といった新たな動きが始まりました。

本講座では，知的財産の構造，知財ビジネスの現状，新たな知財の潮流について理解を深め，経営資源としての知的財産について多面的に検討を行います。

現代企業経営特論（組織の経済学－契約論の観点とケーパビリティの観点）（秋学期）

教授 渡 部 直 樹

授業科目の内容：

当授業では，現代の組織経済学の2つのパースペクティブである，契約論的観点とケーパビリティ的観点到焦点を当て，それぞれがどのような議論に影響されて生成されたものか，それらの方法論的相違は何か，またそれぞれが，組織における諸活動について，どのような仮定に立って，説明を果たそうとしているのか，といった点を具体的に探ってみる。特に，企業戦略とかコーポレート・ガバナンスといった具体的な状況に対して，どのようなスタンスをとるのかを明らかにしたい。また，今日の組織の経済学において重要問題になりつつある，組織の進化の問題やゲーム理論とのかかわりについても検討していきたい。

授業の進行は，以上の点に関わるテキストを幾つか選び，授業の参加者がそれに対してそれぞれ報告をし，全員でそれを討論するという形式をとる。成績は，レポート提出ということも考えられるが，基本的

には報告とそれに対する討論に対する評価を中心に，行って生きたい。

なお授業で用いるテキストは，両者の学説研究を行っている Rutherford や Hodgson の 2000 年以降の最新の論文と，契約論では，Williamson, O. Hart 等の論文をピック・アップしていきたい。ケーパビリティ論の中では，Langlois や Foss の論文を取り上げてみたい。

経営管理特論（組織のマネジメント）（春学期）

教授 今 口 忠 政

授業科目の内容：

多角化・総合化を目指した戦略がコングロマリット・ディスカウントにより非効率となり，選択と集中戦略への転換が求められている。

講義では，このような企業戦略に伴う組織上，マネジメント上の課題について，関連する論文を輪読しながら内容を精査し，内容に関する質疑をもとに進めたいと考えている。

経営管理特論（知識資本主義時代の競争優位と競争戦略）（春学期）（秋学期）

講師 林 俣 史

授業科目の内容：

講義内容については，院生諸君の希望に沿うように配慮するが，本年度は以下のような講義概要とした。春学期の講義内容は，いよいよ本格的に始動するインターネット資本主義時代の国際経営戦略論の再構成を中心とする。とりわけ，春学期には以下の4点を中心的検討課題とし，国際経営戦略に関する諸説を再検証していく。

（春学期）

IT時代の競争優位

- (1) 競争のグローバル化と IT 時代の国際経営戦略
- (2) 競争戦略と国際競争優位の規定要因
- (3) 技術体系のパラダイム・シフトと競争優位
- (4) 競争戦略論

—M. Porter と J. Barney の諸説を中心として—

秋学期には春学期の研究課題を踏まえながら，以下の研究課題について扱っていく。

多国籍企業がマーケティングや生産のみならず，研究開発も国際化する段階に至ってきた。企業の国際競争力の源泉ともいえる技術開発基盤を国際的に分散させていくことの意味を多国籍企業論の再検討を通して

明らかにしていく。それを通して、多国籍企業と国際経営論の理論的総括を行っていく。

そして最後に、多国籍企業のグローバルな経営戦略の展開と経済のグローバルな統合化が世界経済のシステムにどのような変容を迫っていくのかを明らかにしていきたい。

以上の諸点に留意しながら、秋学期の講義ならびに共通の研究課題を以下の3点とする。

(秋学期)

知識資本主義時代の競争優位と競争戦略論の再構成

(1) 競争戦略と戦略的提携

Strategic Alliances の現代的意味

(2) Virtual Integration と企業間関係

(3) 異文化マネジメントと Knowledge Management の重要性

—Cross Cultural Management & Trans Cultural Management と Knowledge Management—

経営管理特論（日本の経営事情）（秋学期）

名誉教授 藤 森 三 男

授業科目の内容：

経営学を研究しようとするとき、理論的分析が重要になる。が、それよりも前に経営事象そのものを知らねばならない。経営の実態がどうであるかを知ることによって、経営学研究の道程を間違えないように援助するのが本講義である。

アメリカの経営の上にアメリカ経営学があり、日本の経営の上に日本経営学があるのか、世界の経営学は世界で共通のものであるか、を考えるのは、面白い問題である。日本式経営は存在しうるのかどうかである。この問題に解答するには、まず日本の経営事情を知らねばならない。

又、日本の経営の実態調査を重ねた清水龍瑩の考え方、発掘した事実も紹介する。

講義は私の解説を中心に行う。

1. 江戸時代

三井高利の革新的商法、商家と家訓、奉公人雇用制度、商家の会計制度、住友の銅山経営と鉱夫管理など

2. 明治期

商家の新時代への対応と盛衰、政府の殖産興業と官業松下、渋沢栄一と明治期の実業界、岩崎弥太郎と三菱の創業、高等教育の発展と専門経営者の登場など

3. 大正、昭和初期

財閥間競争と 3 大財閥の覇権確立、財閥のコンツェルン形式活動、「ドル買い」事件と財閥の「転向」、経営者企業の登場とホワイトカラーの形式、呉服店から百貨店へなど

4. 戦中・戦後初期

軍需産業の展開、電力国家管理、企業整備、第 2 次世界大戦期の遺産、金融業界の再編など

5. 戦後期

鉄鋼業における競争、エネルギー革命、商社の大型化、企業集団の形成、松下電器の発展など

比較経営特論（日本経営基本論）

（春学期特定期間集中）

Advanced Study of Comparative Management

(Management in Japan: The Basic System) (Spring term)

特別招聘教授 フルーイン、マーク

Guest Professor Mark FRUIN

授業科目の内容：

講義内容は別途掲示する。

経営学演習（組織のマネジメント）（春学期）（秋学期）

教授 今 口 忠 政

授業科目の内容：

演習科目であるので、組織のマネジメントを中心としながら、修士論文のテーマと関係させて関連する論文の輪読、発表、調査・分析を混ぜ合わせた授業を行う。

2 年生にとっては受講生の修士論文を完成させるための指導、1 年生に対しては修士論文の作成に向けての論題の選定、体系化、調査・分析の指導を行う。

経営学演習（企業観の変容と企業システムの再構築（1））（春学期）

教授 植 竹 晃 久

授業科目の内容：

演習科目であるので、履修者の研究テーマに従って、論文作成のポイントについて具体的に指導・訓練を行っていく。本年度の一般的なテーマとしては、今日の企業環境の変化に対応した企業観の変容と、そうしたもとの企業システムのあり方について取り上げていく。

経営学演習（企業観の変容と企業システムの再構築
(2)）（秋学期）

教授 植竹 晃久

授業科目の内容：

春学期に引き続いて、論文作成の要領の指導と各自の研究テーマの報告、討論を行い、問題意識を深めていくとともに、論文完成に向けて努力していく。

経営学演習（春学期）（秋学期）

教授 岡本 大輔

授業科目の内容：

本演習では修士論文作成のための指導を行なう。具体的な指導方法については参加者と相談のうえ、決定する予定である。また、本演習は前の時間に行なわれる現代企業経営特論（企業評価）の補完的な役割を果たすので、参加者は両方の授業に参加してもらいたい。

経営学演習（春学期）（秋学期）

教授 榊原 研互

授業科目の内容：

学説分析の方法や経営学の方法論的諸問題について輪読、討論を行う。詳細については履修者との相談の上決定する。

経営学演習（経営戦略と組織（I））
（春学期）（秋学期）

教授 十川 廣國

授業科目の内容：

本授業は修士論文作成のための指導を中心にすすめていく予定であるが、履修者の問題意識の向上という目的もかねて、履修者が共通の課題で討論を行うための機会をも設けることを考えている。

経営学演習（組織と進化）（春学期）

教授 渡部 直樹

授業科目の内容：

当授業では、組織を進化という観点から捉え、それが組織行動を理解する上でいかなる意義があるのかを明らかにしたい。まずはダーウィニズムとラマルキズムに代表される進化概念の明確化から始め、その後、より組織に即した進化概念について検討を加えていきたい。

なお授業の進め方は、以上の問題に関する報告と討論を中心に行っていく、成績評価もそれに対する評価

という点から行いたい。

また、演習という性格から、その内容の具体的な詳細は、参加者と相談して決めて行きたい。

経営学演習（制度とゲーム理論）（秋学期）

教授 渡部 直樹

授業科目の内容：

当授業は、組織を含めた制度が、如何に成立するのか、なぜ安定性を保っているのかについて、ゲーム理論の観点から検討する。この研究は1980年代 90年代から盛んになったものだが、特に基本的な文献の理解から進めていきたい。なお、成績評価は、各自の報告と討論から行なっていきたい。また、演習という性格から、その内容の具体的な詳細は、参加者と相談して決めて行きたい。

経営学合同演習（秋学期）

コーディネーター 教授 植竹 晃久
教授 渡部 直樹

授業科目の内容：

この演習では、基本的には修士課程在籍者の修士論文作成指導をより適切なものにするために個々の指導教授や他の教員が合同で論文発表の討論に参加する。また学生の論文発表の機会だけではなく、教員が各自の研究成果を報告し、討論を行うことによって相互交流をはかる機会としても利用される。

なお単位付与は、平常の討論状況や論文発表による。

<会計学分野>

財務会計特論（金融資産、負債及び資本に関する会計論文の研究）（春学期）

教授 伊藤 眞

授業科目の内容：

日本銀行金融研究所の機関誌『金融研究』掲載予定の下記論文について、輪読形式により参加者は、レジメを作成し報告し、これに基づいて議論する。

- ① 負債に関する会計基準を巡る国際的な動向と今後の検討課題
 - ② 金融資産の譲渡の会計処理—留保リスクと便益の認識の問題を中心に
 - ③ 負債と資本の区分の問題の諸相
- もし、当該『金融研究』の発行が遅れる場合には、

参加者と相談して別の論文を輪読する。

会計学演習と連続して行う予定です。登録前に担当教員とコンタクトすること。

財務会計特論（現行会計の再検討）（春学期）（秋学期）

名誉教授 笠井 昭 次

授業科目の内容：

本年度は、主観のれん説を取り上げる。

会計学の基礎知識を具えている学生を対象にしている。なお、随時タスクを課し、それに関するグループディスカッションを別時間に設定する。受講希望者は、予め、そのことを予定されたい。

また春学期と秋学期とは連動しているの、受講者は、共に受講することを希望している。

財務会計特論（春学期）（秋学期）

教授 黒川 行 治

授業科目の内容：

I. 財務諸表を利用した企業分析及び評価の理論を学ぶ。

財務政策、会計政策：経営戦略等のさまざまな観点から企業を分析する。

II. 毎回1章ずつ進む予定。

本文については自習することとし、章末の問題（各章とも10題位）の解答を事前に用意し、全員で討論する。

管理会計特論（利益管理論Ⅰ）（春学期）

管理会計特論（利益管理論Ⅱ）（秋学期）

教授 小林 啓 孝

授業科目の内容：

DCF法によるプロジェクトや企業の評価に当たっては、キャッシュ・フローの予測を行う必要があるが、評価結果の信頼性はキャッシュ・フローの予測の信頼性に依存する部分が大い。統計的手法を適用することにより過去のデータのみに基づいてキャッシュ・フローの予測を行うアプローチには限界がある。本講義では、システム思考に基づいたシステム・ダイナミクス・モデルを適用することによって上記の限界を克服していく道を探っていく。

受講者は、テキストを読んで内容をまとめ、報告をすることが要求される。講義では、報告をベースとしてディスカッションを行うとともにシミュレーション・ソフトウェアのVensimを使用してモデルを動かす、展開される議論を確認していく。

学ぶべき項目が多岐にわたり、内容が豊富なので「利益管理論Ⅰ」、「利益管理論Ⅱ」を通じてシステム・ダイナミクスの学習を行っていく。

管理会計特論（グループ経営の業績評価）（春学期）

助教授 園田 智 昭

授業科目の内容：

連結会計制度の導入などもあり、企業はグループ全体の視点から経営を行うためにさまざまな努力をしている。分社化、持株会社制度への移行、シェアードサービスの導入、M&Aなどグループ経営を視野に入れた組織変更の例は枚挙にいとまがない。

この授業では、このようなグループ経営にともなう組織変更の結果をどのように評価すべきか、管理会計的な観点から検討を行うことを目的とする。授業の進め方はレポーター方式で行う。まず基本的なテキストを精読し、その後は論文等で明らかにされている組織変更の事例について、業績評価の観点から検討を行っていく。

管理会計特論（バランスト・スコアカード）（秋学期）

助教授 園田 智 昭

授業科目の内容：

バランスト・スコアカードは、企業の戦略を実行するために、戦略を、①財務、②顧客、③社内ビジネス・プロセス、④学習と成長、という4つの視点に転換し、視点間の因果関係を意識しながら、視点ごとに目標や事前指標、事後指標、ターゲット、具体的プログラムなどを設定する戦略的マネジメントシステムである。

バランスト・スコアカードは、企業グループのさまざまな組織単位に導入が可能であるし、また、営利企業だけではなく非営利組織にも導入されている。現在、日本でも多くの組織で導入が進められており、注目に値する管理会計上の手法である。

授業の進め方はレポーター方式で行う。まず基本的なテキストを精読し、その後は論文等で明らかにされているバランスト・スコアカードの導入事例について個々に検討を行っていく。

会計史特論（会計の機能）（春学期）

教授 友岡 賛

授業科目の内容：

会計の機能にかかわる理論、主としていわゆる「基礎理論」を吟味する。

会計史，とタイトルされてはいるが，歴史それ自体を対象とするというよりは，いわゆる理論研究にさいして，ときとして歴史的な視座をもちいようとするものである。あるいはまた，歴史的な視座などというものはもちいないまでも，すくなくもその問題の歴史的な背景を念頭に置くことによって，理論研究に「厚み」をもたせようとするものである。

形式としては，ひとつの問題について参加者全員がとつおいつする，そんな「ブレインストーミングの場」を提供したい。

会計史特論（会計の構造）（秋学期）

教授 友 岡 賛

授業科目の内容：

会計の構造にかかわる理論，主としていわゆる「基礎理論」を吟味する。

会計史，とタイトルされてはいるが，歴史それ自体を対象とするというよりは，いわゆる理論研究にさいして，ときとして歴史的な視座をもちいようとするものである。あるいはまた，歴史的な視座などというものはもちいないまでも，すくなくもその問題の歴史的な背景を念頭に置くことによって，理論研究に「厚み」をもたせようとするものである。

形式としては，ひとつの問題について参加者全員がとつおいつする，そんな「ブレインストーミングの場」を提供したい。

会計学演習（金融商品会計・外貨換算会計及び関連分野の理論と実務）（春学期）（秋学期）

教授 伊 藤 眞

授業科目の内容：

修士論文の指導を行う。

毎回，一人から論文の中間報告をしてもらい，参加者で議論し，相互に理解を深める。

財務会計特論と連続して行う予定ですので，登録前に担当教員とコンタクトすること。

会計学演習（会計研究論文の検討）（春学期）（秋学期）

教授 黒 川 行 治

授業科目の内容：

- I. 修士論文の指導を中心とする。
- II. 毎回，一人から修士論文の中間報告をしてもらい，全員で議論する。

会計学演習（春学期）（秋学期）

教授 小 林 啓 孝

授業科目の内容：

リアル・オプション，システム・ダイナミクスなどの数量的アプローチの管理会計の適用について研究していく。

会計学演習（会計ないし監査の基礎理論ないし歴史）（春学期）（秋学期）

教授 友 岡 賛

授業科目の内容：

論文の作成を目的として，研究報告にもとづくディスカッションをおこなう。

会計学合同演習

休 講

<産業関係論分野>

労働経済特論（労働市場研究）（秋学期）

教授 清 家 篤

授業科目の内容：

この特論では労働市場の個別問題について講義と討論を行う。具体的には，賃金決定，人的資本投資，労働移動，失業などの諸問題についてあつかう。

産業関係特論

休 講

産業社会特論（経済法・国際経済法に関する事例研究）（春学期集中）

法学部教授 田 村 次 朗

授業科目の内容：

経済法，国際経済法に関する最新の重要な判例及び事件を素材とした研究報告を行う。なお，経済法については，競争法及び競争政策に関する日本，アメリカ及び欧州競争法の事例を取り扱い，国際経済法については，WTOにおける小委員会，上級委員会報告を取り上げる。授業は，報告者による判例・事例研究報告発表及びそれに引き続く質疑及び討議によって構成される。

産業社会特論（産業社会学Ⅰ（理論編））（春学期）

教授 三浦 雄二

授業科目の内容：

産業・経営・労働の社会学的研究の理論的検討を行なう。社会学の文献を取り上げるが、それは当該領域の問題性に社会的側面が色濃く附着しているからである。そうした問題性を素直に追求していくと、自然に社会学という学問に行き着く。最初の関心はそうしたものでよい。

産業社会特論（産業社会学Ⅱ（実態編））（秋学期）

教授 三浦 雄二

授業科目の内容：

日本の産業・経営・労働に関する社会学的研究を取り上げ、その成果を検討する。社会学という学問的方法は武器であり、その有効性は、これと接する当人の問題意識ともからんでくる。当該領域の問題性の社会的側面を深めていくことを目的としている。

社会保障特論（ニュー・レイバーの再分配政策－社会保障、権限委譲、政治改革）（春学期）（秋学期）

教授 権 丈 善 一

授業科目の内容：

今年はイギリス、ニュー・レイバーの再分配政策を主テーマとして、輪読と討論を重ねて考察を深めていく。履修者は自分の研究テーマたとえば医療、年金、介護、地方財政などなど一の動向が、イギリスではどのような展開を示しているのかを担当して、研究報告を行ってほしい。

履修者の都合がつけば、産業関係論特殊研究と共同の講義を行いたい。

産業関係論演習（社会保障論）（春学期）（秋学期）

教授 権 丈 善 一

授業科目の内容：

修士論文の作成に向けて履修者の研究報告を行う。

産業関係論演習（労働市場研究）（春学期）（秋学期）

教授 清 家 篤

授業科目の内容：

労働市場分析の研究指導を行います。この演習で指導する研究範囲は、

- (1) 労働供給、労働需要にかんする理論および実証分析
- (2) 労働市場の調整（失業、雇用調整、雇用情報、雇

用のフローなど）にかんする理論および実証分析

- (3) 雇用制度、慣行にかんする経済分析
- (4) 労働市場の構造変化にかんする実証分析などです。ただし履修者の研究興味によっては上にあげた以外の項目についてとりあげることもあります。具体的には、演習参加者の研究報告、およびそれに対する討論を中心に進めていきたいと思っています。

産業関係論演習（産業社会学）（春学期）（秋学期）

教授 三浦 雄二

授業科目の内容：

産業関係分野における私の演習は、「批判的社会学」と「産業社会研究」という私自身の二つの専門研究から組み立てられる。分野としての産業関係は、それ自体としては特定の学問的立場を予定していないが、領域的にはほぼ産業労働問題に相当し、労働者存在を念頭に現代産業社会の構造的仕組みの究明を志す私の産業社会研究と重なり合うところがある。私はこの産業社会研究を社会学の立場から行っている。そこで、演習でも社会学が学問的基盤としての中心になってくるのだが、批判的 sociology というのは社会学における学派的立場であって、たまたま私がその支持者であるところから社会学的思考の錬磨のたたき台として用いられるものであり、演習の参加者までむりやりこれに同調させる積もりは毛頭ない。つづめて言えば、私の演習は産業関係ないし産業社会の在り方に対する社会学的接近一般に関心を持つ人々に益するところがあるろう。

産業関係論合同演習（春学期）（秋学期）

コーディネーター 教授 清 家 篤

授業科目の内容：

研究科及び学部スタッフ、学内外の研究者、実務家、並びに大学院生による研究報告と討議を行う。

博士課程設置科目

商学専攻

商業学特殊研究（マーケティング経済学）（秋学期）

教授 榎原正勝

授業科目の内容：

- 1) 講義のテーマ
経済学的接近によるマーケティング研究をめざして、今年はおーストリア派経済学及び新制度派経済学を取り上げる。
- 2) 授業項目の概要
マーケティング研究にとって無視出来ない制度研究をレビューすべく、おーストリア派経済学及び新制度派経済学の制度研究の主要論文を網羅した下記論文集をテキストにし、レジメ発表、討論形式で輪読する予定である。
- 3) 主に対象とする学生
経済学の立場からマーケティング現象を理論的に分析することに興味を持つ者。
- 4) 授業の進め方
討論中心（担当個所を各自全訳し、事前に配布）。

商業学特殊研究（流通分析）（秋学期）

名誉教授 清水 猛

授業科目の内容：

本講はマクロ視点から流通問題の解明を目指す諸君を対象として講義、報告、議論を行う。日本の流通分析を具体的な研究素材とするため、多変量解析の知識と実行力が必要であるが、流通分析の具体的内容については、受講生の研究テーマと関心に依じて考慮する。
秋学期に2回のレポートを課す。

商業学特殊研究（消費者行動とマーケティングへの実証的アプローチ）（秋学期）

教授 高橋 郁夫

授業科目の内容：

消費者行動およびマーケティングへの実証的方法に関する文献を講読し、議論することを通じて、その意義と限界について考える。あらかじめ、多変量解析に関する基礎知識を要する。クラスにおける報告に加

え、学期末にはまとめとしてのレポート提出が要求される。ただし、人数によっては、個別指導や修士課程の演習との連携によって履修者の学習効果の向上を図る予定である。

商業学特殊研究（マーケティング学説とメタ理論）（春学期）（秋学期）

教授 堀田 一善

授業科目の内容：

本年度は Karl R. Popper 批判的合理主義をめぐる文献を講読し、関連問題を中心に検討する予定である。
受講を予定する者は春・秋両学期を連続して登録しなければならない。

商業学特殊研究（マーケティング方法論）（秋学期）

教授 堀越 比呂志

授業科目の内容：

マーケティング研究は、様々な隣接諸学科の影響を受けながら進展してきているのであり、それゆえマーケティング研究に取り入れられた研究方法も多様である。本講では、マーケティング研究の科学化という観点から、これらの様々な方法、アプローチが検討される。
科学方法論、経済学方法論、その他隣接諸学科の方法に関する論文の輪読、報告を中心に研究を進めていく。

商業学特殊演習（マーケティング経済学の方法論）（春学期）（秋学期）

教授 榎原正勝

授業科目の内容：

マーケティング経済学の理論構築をはじめ、科学的知識形成にとって必要とされる方法論的諸問題を専門的に研究する。加えて、受講者の博士論文作成の指導を行なう。なお、授業は、ディスカッションの実り豊かさを考慮し、堀田一善教授担当の「商業学特殊研究及び同演習」と合体して行なう。

商業学特殊演習（マーケティングの理論と実証）（春学期）（秋学期）

教授 高橋 郁夫

授業科目の内容：

商業学を専攻する受講者の研究課題に即し、クラスおよび個別の機会を通じて論文作成上の指導を行う。

そこでは、あらかじめ多変量解析およびその計算作業に関する基礎知識が必要とされる。また、研究テーマによっては、21世紀COE等の各種研究プログラムへの積極的な参画を促す。さらに、修士課程の演習との連携によって履修者の学習効果の向上を図ることも計画している。

商業学特殊演習（経済諸科学の方法論）
（春学期）（秋学期）

教授 堀 田 一 善

授業科目の内容：

流通現象やマーケティング現象について、専門研究者として科学的説明や発言を心掛けようと試みる人々と共に、方法をめぐる諸問題、科学的説明の論理構造をめぐる諸問題を発表・討論形式で行ないたいと思う。

商業学特殊演習（マーケティング・メタ研究とマーケティング研究の理論化）（春学期）（秋学期）

教授 堀 越 比呂志

授業科目の内容：

これまでのマーケティング研究の成果を、その対象、方法、学説という3つの視点から整理し、分析するマーケティング・メタ研究を基礎として、マーケティング研究の理論化を探究する。授業は、このテーマに興味を持つ履修者の論文作成の為の発表と討論が中心となり、修士課程および博士課程合同で、両者の時間帯（4時限、5時限）を連続して行うので、履修申告の際は注意されたい。また、単独の授業とともに、討論の実り豊かさを考慮して、堀田一善教授および榎原正勝教授との合同授業の形態も採用される。詳しいスケジュールは、最初の授業の時に、履修者と相談の上決める予定なので、必ず出席されたい。

商業学特殊合同演習

休 講

金融論特殊研究（金融構造論Ⅰ）（春学期）

教授 赤 川 元 章

授業科目の内容：

経済社会において資金の経済・仲介機能を果たす銀行は、預金と貸付を通じて資金の配分を行い、結果的には、社会的資源の配分に寄与する。また、資金の受入れとその運用の仕方によって各種の金融業務が発生し、これらを制度的に特殊化することによって専門的金融機関が成立する。期間対応の原則に応じた銀行の

専門化および証券と銀行の両業務の分離の問題である。

本年度の春・秋セメスターを通しての授業は、伝統的に、すべての金融業務を遂行しているユニバーサル・バンキングシステムに基づくドイツ銀行業の経営について多面的に検討したい。履修者は、両セメスターを継続して参加することが望ましい。授業の形式は、テキストを用い、輪読によって研究・討論する。

なお、テキストとして、昨年度にひきつづき Thomas Hartmann-Wendels・Andreas Pfingsten・Martin Weber, “Bankbetriebslehre”, Springer, 1998 を用いる予定である。

金融論特殊研究（金融構造論Ⅱ）（秋学期）

教授 赤 川 元 章

授業科目の内容：

金融構造論Ⅰ（春学期）を参照のこと。

金融論特殊研究（企業金融論）（春学期）（秋学期）

教授 金 子 隆

授業科目の内容：

企業金融論の様々なトピックスについて各分野の第一線級学者により書かれた最新の展望論文集（下記）を講読する予定。

金融論特殊研究（春学期）

教授 辻 幸 民

授業科目の内容：

この授業では、asset pricing（資産の価値評価）に関する専門的な文献を輪読したい。特に今回は mean-variance efficiency と multifactor model との理論的関連およびその実証的な応用可能性について考えたい。テキストとしては、この問題を考察する際の第一歩となるような文献を以下で指定しておくが、実際にはそこであげられている参考文献の論文などを読むことになるであろう。具体的に何を読むかは履修者と相談した上で、この授業の文献リストを作成したい。なお履修者は通年で履修されることが望ましい。

金融論特殊研究（秋学期）

教授 辻 幸 民

授業科目の内容：

この授業では、asset pricing（資産の価値評価）に関する専門的な文献を輪読したい。特に今回は mean-variance efficiency と multifactor model との

理論的関連およびその実証的な応用可能性について考えたい。テキストとしては、この問題を考察する際の第一歩となるような文献を以下で指定しておくが、実際にはそこであげられている参考文献の論文などを読むことになるであろう。具体的に何を読むかは履修者と相談した上で、この授業の文献リストを作成したい。なお履修者は通年で履修されることが望ましい。

金融論特殊研究（春学期）（秋学期）

教授 深尾光洋

授業科目の内容：

受講者の博士論文執筆に必要な文献を指示し、その内容についての報告を行わせる。

財政論特殊研究（春学期）

教授 跡田直澄

授業科目の内容：

歳出に関するテーマの論文を輪読する。

財政論特殊研究（秋学期）

教授 跡田直澄

授業科目の内容：

歳入に関するテーマの論文を輪読する。

財政論特殊研究（春学期）

Specialized Study on Public Finance (Spring term)

特別研究教授 北村行伸

Professor Yukinobu KITAMURA

授業科目の内容：

Objective: To provide a basic framework of public finance at macroeconomic level, starting from fiscal and monetary policy in a standard macroeconomics, tax and debt in a growing economy, cost-benefit analysis, public goods, international debt and international tax issues.

Teaching Method: Lecture is given and then discuss on the topic.

Covered topic:

Fiscal and Monetary Policy
Public Debt
Budget
Macroeconomic Aspects of Taxation
Cost-benefit analysis
Public goods and bads
Local Public Finance

Finance and Development

International Issues in public finance

Text:

Lecture note is provided, on website.

(<http://www.ier.hit-u.ac.jp/~kitamura>)

Public Finance by Harvey. Rosen, Irwin

Economics of the Public Sector by Joseph E. Stiglitz, W. W. Norton

Public Finance and Public Policy by A.L.Hillman, Cambridge University Press.

財政論特殊研究（秋学期）

Specialized Study on Public Finance (Autumn term)

特別研究教授 北村行伸

Professor Yukinobu KITAMURA

授業科目の内容：

Objective: To provide a basic framework of public finance, at microeconomic level, starting from a general theory of taxation on commodity, income and corporate profits and then extending issues of tax evasion, and compliance, and tax reform.

Teaching Method: Lecture is given and then discuss on the topic. Sometimes, exercise is given for clarifying your understanding.

Covered Topic:

Commodity Taxation
Individual Income Taxation
Corporate Taxation
Capital Income Taxation
Inheritance and Gift Taxation
Tax Evasion and Compliance
Tax Reform

Text:

Lecture note is provided on website.

(<http://www.ier.hit-u.ac.jp/~kitamura>)

Public Economics by Gareth D. Myles, Cambridge University Press.

Economics of The Public Sector by Joseph E. Stiglitz, W. W. Norton.

Lectures on Public Economics by A. B. Atkinson and J. E. Stiglitz, McGraw-Hill.

The Economics of Taxation by B. Salanié, The MIT Press

金融論特殊演習（金融経済論）（春学期）（秋学期）

教授 赤川 元章

授業科目の内容：

履修者と相談のうえ決定する。

金融論特殊演習（春学期）（秋学期）

教授 金子 隆

教授 辻 幸民

授業科目の内容：

金融・証券に関するテーマに取り組んでいる大学院生と研究者を対象とした金融ワークショップを共同で開催する。履修者には現在手掛けている論文の中間報告をしてもらう。報告すべき段階に至っていない人は、研究テーマに関連した文献の紹介・検討でもよい。教員やゲスト・スピーカーによる報告も適宜取り入れる。

こういう趣旨で行うので、毎週定期的で開催されるとは限らない。初回到履修者と相談して大体のスケジュールを決定する。

財政論特殊演習（春学期）

教授 跡田 直澄

授業科目の内容：

歳出に関するテーマについて、実証研究を行なう。

財政論特殊演習（秋学期）

教授 跡田 直澄

授業科目の内容：

歳入に関するテーマについて、実証研究を行なう。

**財政論特殊演習（応用ミクロ経済学）
（春学期）（秋学期）**

教授（大正製薬チェアシップ基金）

鞍谷 雅敏

授業科目の内容：

本特殊演習では、財政金融制度等の公共政策のあり方や、その基盤として考慮すべき経済社会環境の変化をテーマとし、ミクロ経済学のロジックを応用しつつ研究に取り組む大学院生に対する指導を行う。

演習の運営方式及びスケジュールは、履修者の研究計画に則して決める。

金融論特殊合同演習（春学期）

コーディネーター 教授 樋口 美雄

教授 和気 洋子

教授 深尾 光洋

教授 中島 隆信

授業科目の内容：

国際経済学、金融論、交通論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題になっており、これに対してどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分野であれば、一切問わない。

成績評価は、発表者は発表内容、発表者でないものは学期末のレポートによる。

金融論特殊合同演習（経商連携 COE 科目）（秋学期）

コーディネーター 教授 樋口 美雄

教授 和気 洋子

教授 深尾 光洋

教授 中島 隆信

授業科目の内容：

国際経済学、金融論、交通論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題になっており、これに対してどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分野であれば、一切問わない。

成績評価は、発表者は発表内容、発表者でないものは学期末のレポートによる。

リスク・保険論特殊研究（I）（春学期）

教授 堀田 一吉

授業科目の内容：

経済発展に伴い、現代社会においては、リスクの多様化および巨大化が著しい。それに応じて、保険商品の開発は、様々な分野に及んでいる。そこでは、リスクの性質との関わりにおいて保険の限界を探ることが必要であり、これは保険学研究の中心的課題の一つである。本講義では、地震リスクやPLリスクなど現代保険の主要な問題を取り上げて、関連するいくつかの文献を通じて、保険制度の可能性を論ずることとした

い。特別に受講者に対して事前に要求することはないが、レポートや討論などにおいて、積極的な参加を期待している。ただし、講義は基礎的な保険理論を習得していることを前提に進めることにしたい。具体的内容は、最初の授業の時に説明する。

リスク・保険論特殊研究（Ⅱ）（秋学期）

教授 堀田 一 吉

授業科目の内容：

経済発展に伴い、現代社会においては、リスクの多様化および巨大化が著しい。それに応じて、保険商品の開発は、様々な分野に及んでいる。そこでは、リスクの性質との関わりにおいて保険の限界を探ることが必要であり、これは保険学研究的な中心的課題の一つである。本講義では、地震リスクやPLリスクなど現代保険の主要な問題を取り上げて、関連するいくつかの文献を通じて、保険制度の可能性を論ずることにしたい。特別に受講者に対して事前に要求することはないが、レポートや討論などにおいて、積極的な参加を期待している。ただし、講義は基礎的な保険理論を習得していることを前提に進めることにしたい。具体的内容は、最初の授業の時に説明する。

リスク・保険論特殊演習

休 講

リスク・保険論特殊合同演習

休 講

交通・公共政策特殊研究（市場規制論）（秋学期）

教授 中条 潮

授業科目の内容：

履修者と相談の上決定する。

交通・公共政策特殊演習（規制の経済学・交通経済学）（春学期）

教授 中条 潮

授業科目の内容：

受講生と相談の上、決定する。

交通・公共政策特殊演習（交通政策）（秋学期）

名誉教授 藤井 彌太郎

授業科目の内容：

履修者の研究課題に即して、討論と論文作成の指導をする。

産業組織論特殊研究（春学期）

教授 井手 秀 樹

授業科目の内容：

産業組織に関する内外の適切な論文を輪読し、議論する。

産業組織論特殊演習

休 講

交通・公共政策・産業組織論特殊合同演習（春学期）

コーディネーター 教授 井手 秀 樹

授業科目の内容：

運輸、エネルギー等ネットワーク産業の競争政策のあり方について議論する。

計量経済学特殊研究（経済政策を中心に）（秋学期）

教授 井原 哲 夫

授業科目の内容：

主に経済政策をとりあげ、それについて討論しながら、経済現象の見方や考え方の能力を高めることを目的とする。

計量経済学特殊研究（経済指数論）（秋学期）

教授 桜本 光

授業科目の内容：

経済指数理論をめぐる最近の理論的成果を展望し、応用例として主な官庁の経済統計の価格指数（C.P.I.等）あるいは数量指数（I.I.P.等）の作成方法及びその特性（作成目的、作成方法、採用品目等）を講義し、集計理論の応用として、小分類あるいは中分類のレベルから大分類への集計を様々な集計方法による差を比較検討する演習を受講者にもしてもらおう予定である。

- I. 概説
- II. 指数理論の系譜
- III. 指数理論の基礎と応用
- IV. 現代指数理論の展望
- V. 指数理論の応用
 - 5.1 卸売物価指数（W.P.I.）（日本銀行）
 - 5.2 消費者物価指数（C.P.I.）（総務省）
 - 5.3 鉱工業生産指数（I.I.P.）（経済産業省）
 - 5.4 景気動向指数（DI, CI）（内閣府）等
- VI. 経済指数と今後の課題

計量経済学特殊研究（秋学期）

教授 牧 厚 志

授業科目の内容：

消費者行動の基礎理論を研究します。

計量経済学特殊演習（応用計量経済学）

（春学期）（秋学期）

教授 井 原 哲 夫

授業科目の内容：

学生に報告してもらいながら、経済現象およびその分析の仕方について他方面から検討し、現象の見方や考え方の能力を高めることを目的とする。

計量経済学特殊演習（実証経済分析）

（春学期）（秋学期）

教授 黒 田 昌 裕

授業科目の内容：

修士の「計量経済学演習」と合同にて、一般均衡数量モデルの構築について、実証的事例を踏まえて議論していく。

計量経済学特殊演習（生産関数論・消費関数論）

（春学期）（秋学期）

教授 桜 本 光

授業科目の内容：

受講者による研究発表を予定している。

計量経済学特殊演習（市場の質に関する理論形成と実証分析）（経商連携 COE 科目）（春学期）（秋学期）

教授 中 島 隆 信

教授 樋 口 美 雄

授業科目の内容：

毎週、外部から計量経済学、経済政策等に関連する研究者を招聘し、報告してもらうことにより、国内外の最先端の分析について、研究していく。

計量経済学特殊演習（春学期）

教授 牧 厚 志

授業科目の内容：

参加者に報告していただきます。

計量経済学特殊合同演習（春学期）（秋学期）

コーディネーター 教授 早 見 均

授業科目の内容：

経済現象を実証理論分析（計量経済学）を主に行っ

ている商学部、経済学部、産業研究所のスタッフと受講者による研究発表と討論を予定している。

受講者は討議を通じて、実証研究に不可欠な統計情報体系の整備の仕方や理論と観測との対応関係等を体得し、各自の研究の進行過程において様々な角度から再考する機会としてほしい。

計量経済学特殊合同演習（春学期）

コーディネーター 教授 樋 口 美 雄

教授 和 気 洋 子

教授 深 尾 光 洋

教授 中 島 隆 信

授業科目の内容：

国際経済学、金融論、交通論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題となっており、これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

計量経済学特殊合同演習（経商連携 COE 科目）（秋学期）

コーディネーター 教授 樋 口 美 雄

教授 和 気 洋 子

教授 深 尾 光 洋

教授 中 島 隆 信

授業科目の内容：

国際経済学、金融論、交通論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題となっており、これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

統計学特殊研究（統計的手法の最近の話題）（春学期）

教授 早 見 均

授業科目の内容：

研究を進めていくうえで必要になる統計的手法は基本は変わらないものの時代とともに変化している。しかも各自の研究テーマに即してベストの統計的手法を利用することがのぞましい。この講義では受講生の研

究対象に応じて必要となる統計学の最近の話題をピックアップして検討していきたい。

一昨年は確率過程の推定について、B.L.S. Prakasa Rao [1999] *Statistical inference for diffusion type process, Kendall's Library of Statistics 8*, Arnold を講義形式で解説した。昨年は併設している修士課程の数理統計学特論の履修者が多かったので、最新的话题を基礎的な数学で解説している G. Grimmett and D. Stirzaker [2001] *Probability and random processes*, 3rd ed., Oxford University Press をレポート形式で5章の特性関数まで進めた。

本年度は受講生の要望によって、つぎのなかから選択したい。

- (1) 確率過程の統計的推定について (Prakasa Rao の解説)
- (2) マルコフ連鎖やマルチンゲールなど確率変数の収束にかんする最近の応用 (Grimmett and Stirzaker の解説)
- (3) シミュレーションを利用した推定法について (R. Mariano, T. Schuermann, and M. Week eds. *Simulation-based inference in econometrics*, Cambridge University Press, 2000, あるいは J. Geweke and M. Keane [2001] "Computationally intensive methods for integration in econometrics," Chapter 56, *Handbook of Econometrics*, vol.5, Elsevier などが考えられる。)
- (4) ユニークな確率と統計の教科書で最近の手法までプログラム付でわかるようになっている David Williams [2001] *Weighing the odds: a course in probability and statistics*, Cambridge University Press.

修士課程の数理統計学特論の項目も参照して欲しい。

統計学特殊演習

休 講

国際経済学特殊研究 (国際経済政策) (秋学期)

教授 和 気 洋 子

授業科目の内容 :

1. 現代社会において、財・サービスの国際貿易の拡大と金融・資本市場の国際化の進展、そして企業経営の一層のグローバル化を通じて、各国間の国際的な相互依存関係はこれまで以上に高まっている。こうしたなかでわれわれの眼前には、各国経済間のボーダー分析、経済政策運営、ビジネスの競争と協

調のロジック、そして地球環境問題など多くのグローバル 이슈が、問われるべき課題として次から次へと現れている。本講は、これらの今日的な問題意識を基礎にして、とくに「貿易・直接投資・地球環境問題」をめぐる論点をさまざまな視点から整理し、いわば新しい国際経済政策論の枠組みのなかでより自由で活発な議論が行われることが目的である。

2. 授業内容および方法については、受講者の専門レベルなどに応じて、具体的に決めるつもりであるが、とくに地球環境問題に関連する資料など、とりあえず議論をすすめる上で必要と思われる基礎的な参考資料・文献については、その都度、講義のなかで紹介する予定である。

これに並行して、受講者による自主的な論文解題を積極的に取り入れて行きたいと考えている。

国際経済学特殊演習 (春学期)

教授 唐 木 圀 和

授業科目の内容 :

国際経済学ないし中国経済に関心をもつ受講者の博士論文執筆に必要な文献を指示し、その内容についての報告を行なわせ、かつ論文作成を指導する。

国際経済学特殊演習 (秋学期)

教授 唐 木 圀 和

授業科目の内容 :

博士論文作成に関する必要文献を指示しその報告、また、論文構成の報告を受け、論文作成を指導する。

国際経済学特殊合同演習 (春学期)

コーディネーター 教授 樋 口 美 雄

教授 和 気 洋 子

教授 深 尾 光 洋

教授 中 島 隆 信

授業科目の内容 :

国際経済学、金融論、交通論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題となっており、これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

国際経済学特殊合同演習（経商連携COE科目）（秋学期）

コーディネーター 教授 樋口 美雄
教授 和気 洋子
教授 深尾 光洋
教授 中島 隆信

授業科目の内容：

国際経済学、金融論、交通論、計量経済学各分野の合同演習として設置する。この演習に参加することにより、自分の専攻分野はもちろんのこと、他の分野でも現在、何が問題となっており、これに対しどのような分析手法がとられているかを理解できるよう努める。報告は授業担当者を含め、授業参加者、および塾内外のゲスト・スピーカーにより行う。テーマは経済分析であれば、一切問わない。

産業史・経営史特殊研究（比較銀行史）（春学期）

教授 玉置 紀夫

授業科目の内容：

日本銀行は、1882年、明治政府の幾度かの銀行実験の失敗の後、設立された。設立にあたっては、大蔵省が大きな力を持った事は事実であるが、発足後、3代、4代、5代の総裁は、三菱会社の首脳が其の席を占めた。其の期間は、1889年から1903年にわたる。日銀は創立当初の、21年間の内、14年間の間、近代日本の最も強力な企業と特殊な関係にあったことを示唆している。この事実が如何なる歴史的意味を持つのかを、この授業をつうじて解明して行きたい。

産業史・経営史特殊研究（技術教育史）（春学期）

教授 吉田 正樹

授業科目の内容：

本年度は西洋技術の移転をとりあげ移転の受皿となるべき人材形成という視角から技術教育の歴史を考察していきたい。具体的な対象は日本の明治期におこなわれた西洋技術の導入に置き、それまで皆無であった近代技術の修得者をいかに確保し、そして育成していったかに焦点を絞っていくことになる。教育する者、教育を受ける者の出自、動機を考察し、さらに教育の制度化をはかった政府の役割も検討の対象となる。

受講者は工学、医学、農学、薬学などから一分野を選びその教育制度の確立過程をレポートしてもらうことになる。

産業史・経営史特殊演習（産業史関連博士論文作成指導）（春学期）（秋学期）

教授 工藤 教和

授業科目の内容：

博士論文作成に向けての個人指導と、履修者と相談して選んだ関連文献の批判的な検討を行なう。分野は18世紀以降の産業史・経済史が中心となる。

産業史・経営史特殊合同演習（春学期）（秋学期）

コーディネーター 教授 玉置 紀夫

授業科目の内容：

履修者に作成中の学位申請論文の発表を求め、これについて産業史・経営史専任教員の参加のもとで合同討論を行う。場合によって学外の専門研究者の参加を求める。

経営学・会計学専攻

経営学特殊研究（組織のマネジメント）（秋学期）

教授 今口 忠政

授業科目の内容：

多角化・総合化を目指した戦略がコングロマリット・ディスカウントにより非効率となり、選択と集中戦略への転換が求められている。

講義では、このような企業戦略に伴う組織上、マネジメント上の課題について、関連する論文を輪読しながら内容を精査し、内容に関する質疑をもとに進めたいと考えている。

修士の講義の後を受けて、関連する文献、資料を輪読する。

経営学特殊研究（企業環境の変化と組織原理の転換）（春学期）

教授 植竹 晃久

授業科目の内容：

今日の企業環境の変化にともなって生じてきている企業経営上の課題に関わる内外の基本文献や論文を取り上げ、討論形式で検討していく。

経営学特殊研究（企業評価）（春学期）

教授 岡本 大輔

授業科目の内容：

近年、脳の働きをコンピュータ上で実現するニュー

ラルネットワークの研究がマネジメントの世界でも注目され始めている。企業評価の分野でもさまざまな研究が進められている。本講義では企業評価におけるニューラルネットワークの適用問題を検討する。授業は関連文献の輪読を予定している。

経営学特殊研究（現代科学理論と経営経済学）
（秋学期）

教授 榊原 研 互

授業科目の内容：

経営学の方法論的諸問題について考察する。詳細については初回の授業で説明する。

経営学特殊研究（新制度派経済学と企業の進化）
（春学期）

教授 渡部 直 樹

授業科目の内容：

当授業では、組織に対する経済学的分析の中心になっている新制度派経済学において、企業の進化という概念がいかなる役割を占めているかを検討する。特に Nelson や Winter による Evolutionary Economics の進展がいかなる影響を与えているかを解明する。

授業の進め方は、授業の参加者による報告と討論が中心になる。成績評価もこの点を勘案して行いたい。

経営学特殊演習（組織のマネジメント）
（春学期）（秋学期）

教授 今 口 忠 政

授業科目の内容：

演習科目であるので、組織のマネジメントを中心としながら、博士論文のテーマと関係させて関連する論文の輪読、発表、調査・分析を混ぜ合わせた授業を行う。

最終的に博士論文を完成させるために必要とされる理論枠組みの研究、実証研究を行う。

経営学特殊演習（転換期における企業と経営（1））
（春学期）

教授 植竹 晃 久

授業科目の内容：

現代企業にかかわる経営上の諸問題について、基本的な文献や論文を複数冊読み込んでいくとともに、その過程で批判的ならびに独創的な視角を培っていくことに努める。輪読・討論形式によるが、レポーターは関連事項の調査等を含めて、それぞれ「付加価値」を

付けて報告することが要求される。

経営学特殊演習（転換期における企業と経営（2））
（秋学期）

教授 植竹 晃 久

授業科目の内容：

学位論文作成の準備を含めて、履修者のテーマに従って、専門的な研究者として自立していく上での専門論文作成の要領や留意点について重点的に指導・訓練を行っていく。

経営学特殊演習（春学期）（秋学期）

教授 岡本 大 輔

授業科目の内容：

本演習では参加者の論文作成のための発表と討論を行なう。具体的な指導方法については参加者と相談のうえ、決定する予定である。

経営学特殊演習（春学期）（秋学期）

教授 榊原 研 互

授業科目の内容：

経営学の方法論的諸問題について輪読、討論を行う。詳細については履修者との相談の上決定する。

経営学特殊演習（経営戦略と組織（Ⅱ））
（春学期）（秋学期）

教授 十 川 廣 國

授業科目の内容：

基本的には、論文作成の個別指導を行なうことが主たる目的であるが、同時にこの演習を利用して「成熟企業の再活性化」問題についての実証研究の継続的分析とその深化さらに国際比較を目的とした実証研究をすすめてゆく予定である。

経営学特殊演習（新制度派経済学の基礎）（春学期）

教授 渡部 直 樹

授業科目の内容：

当授業では、新制度派経済学の基礎概念について、吟味を加えたい。特にこのアプローチにおける限られた合理性(Bounded Rationality)の概念の役割に焦点を当ててみる。

授業は各自の報告と全員での討論が中心になる。成績評価もこれに関してなされる。

また、演習という性格から、その内容の具体的な詳細は、参加者と相談して決めて行きたい。

経営学特殊演習（新制度派経済学の基礎）（秋学期）

教授 渡部 直樹

授業科目の内容：

当授業では、新制度派経済学の基礎概念について、吟味を加えたい。特にこのアプローチにおける制度概念について焦点を当ててみる。制度とはなにか、組織と市場は対立するような概念なのか、といった点を中心に討論を加えてみたい。

授業は演習形式のため、各人の報告が中心になる。

また、演習という性格から、その内容の具体的な詳細は、参加者と相談して決めて行きたい。

経営学特殊合同演習（秋学期）コーディネーター 教授 植竹 晃久
教授 渡部 直樹**授業科目の内容：**

この演習は、基本的には、博士課程在籍者の論文作成指導をより適切なものにするためのものであり、個々の指導教授のみならず、多くの教員も参加して合同で論文発表の討論に参加する形式をとる。またここでは、学生の論文発表のみならず、教員、時には外部からの講師も参加して、それぞれの研究成果を報告し、学生とともに討論を行う機会を提供するものである。

なお単位付与は、平常の討論状況や論文発表による。

会計学特殊研究（金融商品会計論）（秋学期）

教授 伊藤 眞

授業科目の内容：

下記テキストについて、輪読形式により、担当者はレジメを作成し報告するとともに、これに基づいて参加者は議論し、下記事項につき理解を深める。

金融商品会計の論点、金融商品のキャッシュフロー及びリスク、時価概念

金融資産・負債の時価評価方法、認識及び認識の中止、事後測定、開示

登録前に担当教員とコンタクトすること。

会計学特殊研究（会計理論）（春学期）（秋学期）

名誉教授 笠井 昭次

授業科目の内容：

本年度は、時価主義会計論について検討する。

財務会計論の専門的知識を一通り具えている学生を対象にして、輪読を行なう予定である。

会計学特殊研究（企業評価理論の検討）（春学期）（秋学期）

教授 黒川 行治

授業科目の内容：

I. 財務諸表を利用した企業分析及び評価の理論を学ぶ。

財務政策、会計政策、経営戦略等のさまざまな観点から企業を分析する。

II. 毎回1章ずつ進む予定。

本文については各自で読んでおくこととし、章末の問題（各章とも10題位）の解答を事前に用意し、全員で討論する。

会計学特殊研究（春学期）（秋学期）

教授 小林 啓孝

授業科目の内容：

DCF法によるプロジェクトや企業の評価に当たっては、キャッシュ・フローの予測を行う必要があるが、評価結果の信頼性はキャッシュ・フローの予測の信頼性に依存する部分が多い。統計的手法を適用することにより過去のデータのみに基づいてキャッシュ・フローの予測を行うアプローチには限界がある。本講義では、システム思考に基づいたシステム・ダイナミクス・モデルを適用することによって上記の限界を克服していく道を探っていく。

受講者は、テキストを読んで内容をまとめ、報告をすることが要求される。講義では、報告をベースとしてディスカッションを行うとともにシミュレーション・ソフトウェアの Vensim を使用してモデルを動かす、展開される議論を確認していく。

学ぶべき項目が多岐にわたり、内容が豊富なので春学期、秋学期を通じてシステム・ダイナミクスの学習を行っていく。

会計学特殊研究**（会計ないし監査の基礎理論ないし歴史）（春学期）（秋学期）**

教授 友岡 賛

授業科目の内容：

会計ないし監査にかかわる基本的な論点について参加者全員でもってとつおいつたい。

会計学特殊演習（金融商品会計・外貨換算会計及び関連分野）（春学期）（秋学期）

教授 伊藤 眞

授業科目の内容：

博士論文の指導を行う。

毎回、一人から論文の中間報告をしてもらい、参加者で議論し、相互に理解を深める。登録前に担当教員とコンタクトすること。

会計学特殊演習（科学としての会計）（春学期）（秋学期）

教授 黒川 行 治

授業科目の内容：

博士論文の指導を中心とする。

黒川行治の研究論文を題材として、解説・検討することもある。

会計学特殊演習（春学期）（秋学期）

教授 小林 啓 孝

授業科目の内容：

受講者の設定したテーマに沿って博士論文作成に向けた指導を行っていく。

会計学特殊演習（会計ないし監査の基礎理論ないし歴史）（春学期）（秋学期）

教授 友岡 賛

授業科目の内容：

論文の作成を目的として、研究報告にもとづくディスカッションをおこなう。

会計学特殊合同演習

休 講

産業関係論特殊研究（社会保障論）（春学期）（秋学期）

教授 権 丈 善 一

授業科目の内容：

参加者の研究報告およびそれに対する討論を随時行う。履修者の都合がつけば、社会保障特論（今年のテーマは、イギリス、ニュー・レイバーの再分配政策）と共同の講義を行いたい。

産業関係論特殊研究（産業社会学Ⅰ（理論編））（春学期）

教授 三浦 雄 二

授業科目の内容：

「産業社会学特論」（産業社会学Ⅰ（理論編））の延長線上に置かれる。理論的考察を行なうが、受講生が当該領域にそれなりに踏み込んでいることを前提としている。

産業関係論特殊研究（産業社会学Ⅱ（実態編））（秋学期）

教授 三浦 雄 二

授業科目の内容：

「産業社会学特論」（産業社会学Ⅱ（実態編））の延長線上に置かれる。受講生は、ある程度、当該領域についての具体的テーマを持っていることが望まれる。

産業関係論特殊演習（社会保障論）（春学期）（秋学期）

教授 権 丈 善 一

授業科目の内容：

論文の作成に向けて履修者の研究報告を行う。

産業関係論特殊演習（春学期）（秋学期）

教授 清 家 篤

授業科目の内容：

労働市場分析の論文指導を行います。具体的には研究報告およびそれに対する討論のかたちで授業を進めます。

産業関係論特殊演習（産業社会学）（春学期）（秋学期）

教授 三浦 雄 二

授業科目の内容：

「産業関係論演習」（産業社会学）の延長線上に置かれる。既にある程度まで専門化していることを前提に進める。可能な限り、そうした専門的関心が延びていけるよう対応したい。

産業関係論特殊合同演習（春学期）（秋学期）

コーディネーター 教授 清 家 篤

授業科目の内容：

研究科及び学部のスタッフ、学内外の研究者、実務家、並びに大学院生による研究報告と討議を行う。

慶應義塾大学 夏季在外研修プログラム

慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

The Keio University College of William & Mary Cross-Cultural Collaboration

柏崎 千佳子 経済学部助教授

大串 尚代 文学部助手

授業科目の内容：

慶應義塾大学では、「慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座」を夏季休業期間に開講します。ウィリアム・アンド・メアリー大学（所在地：東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグ）は、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマ（2004年度は“American Dreams: Lost and Found”）に沿った講義、グループワーク、フィールドワーク、インタビュー、プレゼンテーション等で構成されています。現地では、大学内での寮生活や、ボランティアワーク、住民との交流、講演会、ホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流が体験できるように工夫されています。短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、アメリカでの生活体験をしたい方、語学力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。現地研修には本学の教職員が同行します。また、ビデオ会議などを含めた事前・事後研修を、日吉キャンパスで実施します。

なお、この講座は、自然災害、戦争・テロ災害、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前期以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。詳しくは、国際センター作成の募集要項やホームページ等を参照してください。

教科書：

特にありませんが、研修に参加するにあたり必要と思われる文献・資料は事前研修の際にお知らせします。

授業の計画：

現地研修期間：2004年7月30日（金）～8月19日（木）

4月下旬より事前研修（6回程度）、また、帰国後には事後研修（2回程度）を行います。

研修内容：ウィリアム・アンド・メアリー大学教員による講義および質疑応答、ダイアローグクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイなど。

参加申し込みについて：

- (1) 募集人数：40名（提出書類により選考を行います。）
- (2) 募集対象：全学部・研究科正規生（ただし通信教育部をのぞく）
- (3) 提出書類：①参加申込書（所定用紙）、②学習計画書（日本語及び英語。各A4一枚程度）、③最新の学業成績表のコピー（3月中旬に保証人宛に送付されるもの）、④あれば英語能力証明書のコピー（TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など）、⑤RESEARCH PROPOSAL（所定用紙）書類選考後、グループ分けの時に利用します。
- (4) 募集期間：4月7日（水）～4月15日（木）各地区国際センター（※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。）
- (5) 募集ガイダンス：4月5日（月）三田133番教室 13:00～14:30
4月5日（月）SFC Ω12教室 17:00～18:30
4月6日（火）矢上 14-201教室 13:00～14:30
4月6日（火）日吉 J11教室 17:00～18:30
- (6) 選考結果発表：4月28日（水）13:00（予定）

履修者へのコメント：

This program gives you a rare opportunity to stay at a prestigious American college and to work closely with its staff members. We welcome highly motivated students.（柏崎 千佳子 経済学部助教授）

成績評価方法：

事前・事後研修の出席、中間発表、現地研修期間中の活動、Final Presentation、日本帰国後のFinal Reportにより採点します。

質問・相談：

問い合わせ先：三田国際センター URL <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 「塾生向け海外留学情報」のページをご覧ください。

前野 隆 司 理工学部助教授
池田 幸 弘 経済学部教授

授業科目の内容：

慶應義塾大学では、「慶應義塾大学—ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座」を夏季休業期間中、英国・ケンブリッジにおいて開講します。ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。授業は英語による講義およびディスカッションを中心としており、講義は原則としてケンブリッジ大学の教員が担当します。講座期間中は、専門分野の知識を深めるだけでなく、ダウニングコレッジ内での寮生活や、ケンブリッジ大生が企画する様々なアクティビティを通して、現地の学生との交流も体験できます。このように本講座は、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。現地研修には本学の教職員が同行します。また、現地への出発前に、事前研修を3回程度三田キャンパスで実施する予定です。

なお、この講座は、自然災害、戦争・テロ災害、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前期以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。詳しくは国際センター作成の募集要項やホームページ等を参照してください。

教科書：

現地での開講科目の参考文献を、国際センター作成の募集要項に記載しています。また、事前研修時にリストにして配布します。

授業の計画：

現地研修期間：2004年8月9日（月）～9月8日（水）

5月～7月に三田キャンパスにて事前研修を3回程度行います。

講義日程：第1週：8月10日（火）～8月16日（月）

Placement Interviews, English & writing preparation classes

第2週：8月17日（火）～8月23日（月）

Ancient Greece and Western Civilization および Genetics: ethical issues arising from developments in genetics

第3週：8月24日（火）～8月30日（月）

Society and Politics in Contemporary Britain および The Science of Chaos

第4週：8月31日（火）～9月6日（月）

English Literature および Astronomy: Unveiling the Universe

9月7日（火） Closing ceremony

第2週から第4週までは、各週2科目ずつ用意された授業の内1科目を選択、合計3科目を選択履修。

※ 各科目とも定員が30名のため、事前に参加者の希望をもとに履修調整を行います。

※ 開講科目は事情により変更されることがあります。

研修内容：ケンブリッジ大学の教員による講義及び質疑応答（午前）

ケンブリッジ大生 (TA: Teaching Assistant) を交えてのディスカッション（午後）。エッセイ作成・提出。

参加申し込みについて：

- (1) 募集人数：60名（提出書類により選考を行います。）
- (2) 募集対象：全学部・研究科正規生（ただし通信教育部をのぞく）
- (3) 提出書類：①参加申込書（所定用紙）、②学習計画書（日本語及び英語。各A4一枚程度）、③最新の学業成績表のコピー（3月中旬に保証人宛に送付されるもの）、④あれば英語能力証明書のコピー（TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など）、⑤履修希望科目申告表（所定用紙）
- (4) 募集期間：4月7日（水）～4月15日（木） 各地区国際センター（※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。）
- (5) 募集ガイダンス： 4月5日（月）三田133番教室 13:00～14:30
4月5日（月）SFC Ω12教室 17:00～18:30
4月6日（火）矢上 14-201教室 13:00～14:30
4月6日（火）日吉 J11教室 17:00～18:30
- (6) 選考結果発表： 4月28日（水）13:00～14:30（予定）

履修者へのコメント：

私もかつて、カリフォルニア大、ハーバード大に留学したことがあります。国際経験は、世界観・人生観を1次元から2次元へ（線から面へ）広げることのできるすばらしい経験です。大いに学び、大いに楽しみましょう。（前野 隆司 理工学部助教授）

これからの若い人たちには、海外で職探しをするくらい気合を期待したいと思います。本プログラムは、イギリスの文化や制度を知るためにも、また日本を見直すための一助となるものと信じます。Good Luck!（池田 幸弘 経済学部教授）

成績評価方法：

現地でのエッセイの評価をもとに行います。

質問・相談：

問い合わせ先：三田国際センター URL <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 「塾生向け海外留学情報」のページをご覧ください。

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、米国、カナダ、オーストラリア、東南アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、経済、産業、文学、芸術、マスコミなど幅広い側面から日本を探求します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、履修申告の際には履修単位の取り扱いを必ず確認してください。

1. 対象

1) 外国研究講座

本塾大学学部生ならびに大学院生

2) 日本研究講座

本塾大学に在籍する外国人留学生を対象としていますが、日本人学生の受講も奨励しています。海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

2. 手続方法

学事センターで所定の履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。 学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用して登録手続きをしてください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない科目については、三田、日吉の国際センターにある所定の用紙に必要事項を記入し、次の手続期間内に国際センターに直接申し込んでください。

国際センター受付期間：

春学期開講科目 4月15日(木)～21日(水) 10:00～16:00

秋学期開講科目 10月2日(土)～8日(金) 10:00～16:00

* いずれも日吉は10:00～11:30、12:30～16:00

* 土曜日は10:00～11:30、12:30～14:00

3. 受講料

無料です。

4. 掲示

休講などの連絡事項は、三田西校舎国際センター掲示板(日吉では第四校舎・藤山記念館の国際センター掲示板、学事センターの共通掲示板)に掲示されます。

異文化研究:文化、価値と自己理解

(2単位) (春 火3)

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS: LOOKING FOR THE HIDDEN ROOTS OF CULTURAL DIFFERENCE (2 Credits) (Spring Tue 3)

ショールズ, ジョセフ 国際センター講師(立教大学助教授)

Joseph Shaules Lecturer International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Course Description:

Culture has two sides, a visible side – food, clothing, architecture – and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

Text Book:

Handouts to be supplied by the teacher.

Recommended Readings:

Different Realities – Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.
Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

Class Schedule (Subject to change):

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture – Mead, Sapir & Whorf, Hall
3. A model of hidden culture – The onion model.
4. Student presentations
5. Cultural in human relations – independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression – How we show feelings
7. Culture and status – Who is important and why?
8. Student presentations
9. Culture and gender – Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time – polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

Message to those taking this Course:

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised – in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

Evaluation:

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

世界政治におけるラテンアメリカ

(2単位) (春 火5)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

(2 Credits) (Spring Tue 5)

アントリネス, マリオ 国際センター講師

Mario Antolinez Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The

course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

Text Book:

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

Recommended Readings:

- Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.
- Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.
- Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.
- Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.
- Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.
- Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.
- Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.
- Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.
- Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.
- Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.
- Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.
- Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.
- Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.
- Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

Class Schedule (Subject to change):

PART I

- Session 1: Introduction
- Session 2: The Actors
- Session 3: The Inter-American System
- Session 4: Latin American Integration and Association
- Session 5: Economic Outlook
- Session 6: International Relations
- Session 7: Latin America and the United States

PART II

- Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants
- Session 9: Cuba: The Socialist Way
- Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery
- Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy
- Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution
The Caribbean: Colonies and Micro-states
- Session 13: Final Exam

Evaluation:

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

国際人権法

(2単位) (春 火5)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW: ISSUES, PROCEDURES, AND
ADVOCACY, STRATEGIES REGARDING THE PROMOTION AND
PROTECTION OF HUMAN RIGHTS WORLDWIDE

(2 Credits) (Spring Tue 5)

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer International Center

Course Description:

Students will study five different aspects of international human rights including:

1. Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.
2. Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
3. Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
4. Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
5. Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

Text Book:

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, International Human Rights: Law, Policy and Process (3rd ed. 2001) and supplement Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law

Class Schedule (Subject to change):

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 13: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 20: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 27: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 11: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights?
- May 18: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 25: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable?; ad hoc Tribunal for the former Yugoslavia, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- June 2: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding
Lecture: Professor David Weissbrodt, the Rights of Non-Citizens (tentative)
- June 9: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries?
Lecture: Professor David Weissbrodt, Transnational Corporations and Human Rights Norms for Business (tentative)
- June 15: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- June 22: Chapter 12: European Human Rights System
- June 29: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- July 6: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- July 13: Questions & Answers for reviewing the exam

Message to those Taking the Course:

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

Evaluation:

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant

contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

Office Hours:

Tuesday, 1-3 p.m. or by appointment

オーストラリアにおける死と喪失	(2単位) (春 水3)
DEATH AND LOSS IN AUSTRALIAN SOCIETY: A CULTURAL INTRODUCTION	(2 Credits) (Spring Wed 3)
ケルヒア, アラン 国際センター講師(ラトローブ大学教授)	
Allan Kellehear Lecturer, International Center (Professor, La Trobe University)	

Course Description:

This is an introduction to Australian society examined through the prism of its experiences in death and loss. We will examine important dimensions of Australian history, politics and society by describing and reflecting on how these sociological dimensions shape – and are shaped by – experiences of Australian mortality.

The aims of this subject are:

- To provide a basic introduction to the culture and history of Australian society
- To provide a comparative basis for reflections about Australian national character with that of contemporary Japanese
- To provide an understanding of the most important patterns of national conflict – race, gender and class – that characterize the zeitgeist [‘spirit of the times’] for Australian society today.
- To understand Australian experiences of death and loss

Our discussions will revolve around a weekly reading. The topics and citations to these readings are supplied to you in this outline.

Your teacher for this course is:

Professor Allan Kellehear, PhD, is Professor of Palliative Care and Director of the Palliative Care Unit at La Trobe University in Melbourne, Australia. He is also Professorial Fellow at the University of Melbourne Medical School and Chair of the Scientific Advisory Committee of the National Centre for HIV Social Research in Sydney. In 2000 he was British Academy Visiting Professor at the University of Bath and the Religious Experience Research Centre at Westminster College, Oxford. He is the author or editor of 17 books and is currently in Japan as Visiting Professor of Australian Studies at the University of Tokyo.

Weekly Topic Outline and Readings:

1. Introduction to Australian Society – some historical background
Reading: Eyewitness Travel Guide (2002) “History of Australia” Eyewitness Travel Guide: Australia. Dorling Kindersley Ltd, London
2. Introduction to Australian Society – some contemporary background
Reading: A. Kellehear (2000) “The Australian Way of death” [pp 1-13] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
3. The Role of Death and Loss in the formation of a nation
Reading: A. Kellehear and I. Anderson (1997) “Death in the Country of Matilda” [pp1-14] From K. Charmaz et al [eds] The Unknown Country: Death in Australia, Britain and the USA, Macmillan, London.
4. The demography of death
Reading: J.M. Najman (2000) “The demography of death: Patterns of Australian mortality” [pp 17-39]. From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
5. Death, religion and cultural diversity
Reading: G.M. Griffin (2000) “Defining Australian Death: Religion and the State”. [pp 40-51] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
6. Funerals and Burial customs
Reading: G. Howarth (2000) “Australian Funerals” [pp 80-91] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
7. Grief and loss in Australia
Reading: “Grief & Loss in Australian Society” [116-129] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
8. Aging and dying in Australia

- Reading: J. Stevens et al (2000) "Ageing and dying". [pp 173-189] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
9. The health and palliative care system response
Reading: O. Kanitsaki (1998) "Palliative Care and cultural diversity" [pp 32-45]. From Palliative Care: Explorations and challenges. MacLennan & Petty, Sydney.
 10. Death and the Law
Reading: I. Freckelton (2000) "Death and the Law". From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
 11. Death, Australian Art and Literature
Reading: L. Fitzpatrick (1997) "Secular, Savage and Solitary: Death in Australian Painting" [pp 15-30]. From K. Charmaz et al [eds] The Unknown Country: Death in Australia, Britain and the USA. Macmillan, London.
 12. Australians, War and National Disasters
Reading: P. D'Alton (1997) "Prayers to Broken Stones: war and death in Australian Society". [pp45-57] From K. Charmaz et al [eds] The Unknown Country: Death in Australia, Britain and the USA Macmillan, London.
 13. Beliefs about Personal Survival of Death
Reading: H.J. Irwin (2000) "The End: A view from Parapsychology" [pp 342-354]. From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.

Evaluation:

One major essay of 1200-1500 words.

This essay is due on Friday 16th July 2004.

Answer ONE of the following questions:

- How has death and loss shaped Australian identity?
- How has the Australian experience of death and loss shaped Australian responses to immigrants?
- Reflect on the differences and similarities of the experience of death and loss in contemporary Australian and Japanese societies.

This essay will comprise 70% of your total assessment with 30% dedicated to class participation.

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(2単位) (春 金3)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

(2 Credits) (Spring Fri 3)

トビン, ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy--and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar-style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments..

Text Book:

Leading the Revolution by Gary Hamel

Supplementary Reading Materials and Case Studies

Additional Book To Be Assigned

Recommended Readings:

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

Class Schedule (Subject to change):

List of Topics:

- Introduction: Time of Change & Innovation
- Trends In International Business Leadership \ and Strategy
- Encouraging Ideas & Innovation
- What to Do About Decaying Strategy
- How to Become A Global Innovator
- New Market Expansion and Entry
- U.S. ,China, Thailand, Japan
- Global Leaders/Global Partnerships
- A look at Global Leaders
- Global Companies/Working Overseas
- Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
- Creativity in Leadership
- Future of International Business

Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Evaluation:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Website: <http://www.tobinkeio.com>

産業史各論(科学技術政策史)

(2単位) (秋 月1)

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

(2 Credits) (Fall Mon 1)

ルイス, ジョナサン 商学部非常勤講師(一橋大学助教授)

Jonathan Lewis Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

Course Description:

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It considers the roles of states, enterprises and universities in scientific research and technological development in the context of globalization from a variety of perspectives.

The class will be in English and Japanese.

Recommended Readings:

Etzkowitz, Henry, 2002. MIT and the Rise of Entrepreneurial Science. Routledge.

Fuller, Steve, 1997. Science. Open University Press.

Hafner, Katie and Lyons, Matthe, 1998. Where Wizards Stay Up Late. Simon & Schuster.

L_vy, Pierre, 2001. Cyberculture. University of Minnesota Press.

Low, Morris; Nakayama, Shigeru and Yoshika, Hitoshi, 1999. Science, technology and society in contemporary Japan. Cambridge University Press.

Mani, Sunil, 2002. Government, innovation and Technology Policy: an international comparative analysis. Edward Elgar.

Penely, Constance. 1997. NASA/Trek: popular science and sex in America. Verso.

Samuels, Richard J. 1994. "Rich Nation, Strong Army". Cornell University Press.

加藤弘一 著「電脳社会の日本語」文春新書, 2000

中山茂 他 著「通史 日本の科学技術」ガクヨウ書房, 1995

Evaluation:

Each student is provided with a website. Students follow policy developments in a field of science and technology of interest to them, and posts their findings frequently to their website. Points are awarded for class attendance and for website entries.

Inquiries:

Jonathan_lewis@mac.com

http://homepage.mac.com/jonathan_lewis/ja/teaching/Keio/index.html

アジアの政治、宗教、文化

(2単位) (秋 月4)

POLITICAL CULTURES OF SOUTHEAST ASIA: POLITICS, RELIGION, AND
CULTURE

(2 Credits) (Fall Mon 4)

秋尾沙戸子 国際センター講師(ジャーナリスト)

Satoko Akio Lecturer, International Center (Journalist)

Course Description:

This course surveys the values and the attitudes which supply the original assumptions and the patterns which determine the political behavior influenced by the conventional traditions in Southeast Asia. Unique topics such as the role of Islam, Buddhism, and patron-client relations should be focused on while discussing the political leadership. Video presentation of historical events will help to understand the background of this region. Course requirements are active participation in the classroom, oral presentation and term paper.

Text Book:

Funston, John, (ed), *Government and Politics in Southeast Asia*, Singapore, Institute of Southeast Asian Studies, 2001.

Class Schedule (Subject to change):

1. Prologue
2. Colonialism
3. Indonesia: Sukarno and Nationalism
4. Indonesia: Suharto and Megawati
5. The Philippines: America, Marcos and Catholic role
6. Singapore: Lee Kwan Yew and Chinese Networks
7. Malaysia: Mahathir and Plural Society
8. Thailand: Nation, Buddhism and Kingship
9. Myanmar: Ne Win and Aun Sun Suu Kyi
10. Vietnam: Ho Chi Minh and Communism
11. Islam in Southeast Asia
12. Current Situation in Southeast Asia: Impact of Islamic Revivalism
Note: Term paper due: List of topics to be distributed later.
13. ASEAN, U.S. and Japan

Message to those taking this course:

Students are expected to understand Southeast Asia through the leader's biography, where Japan occupied during WW II and where students might pay a visit as businessmen for near future.

Evaluation:

Term paper 50% overall class participation 20% oral presentation 20% mapping test 10%

アメリカ研究: アフリカ系アメリカ人の視点からみたアメリカ史

(2単位) (秋 月4)

AMERICAN STUDIES: HISTORY OF THE UNITED STATES FROM AN
AFRICAN-AMERICAN PERSPECTIVE

(2 Credits) (Fall Mon 4)

奥田暁代 法学部助教授

Akiyo Okuda Associate Professor, Faculty of Law

Course Description:

The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by

exploring the diverse experiences of black people in the United States. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on the historical events. By means of discussion, lectures, videos, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

Recommended Readings:

John Hope Franklin: *From Slavery to Freedom*

Class Schedule (Subject to change):

Introduction

Class 1 African Americans
Movie: *Time to Kill* (1996)

Slavery

Class 2 History: The Middle Passage
Movie: *Amistad* (1998)
Class 3 History: Slave Culture and Insurrections
Movie: *Gone with the Wind* (1939)
Class 4 Contemporary Issue: Reparation Movement
Student Presentations

Reconstruction

Class 5 History: Civil War and the Emancipation
Movie: *Glory* (1989)
Class 6 History: The Rise of Ku Klux Klan
Movie: *The Birth of a Nation* (1915)
Class 7 Contemporary Issue: Racist Symbols
Student Presentations

Civil Rights

Class 8 History: Segregation in the South
Movie: *Souder* (1972)
Class 9 History: Civil Rights Movement
Movie: *Long Walk Home* (1990)
Class 10 Contemporary Issue: Affirmative Action
Student Presentations

Backlash

Class 11 History: Post-Civil Rights Era
Movie: *Hoop Dreams* (1994)
Class 12 Contemporary Issue: Hate Crimes
Movie: *Blood in the Face* (1991)
Class 13 Contemporary Issue: "Two Nations"
Student Presentations

Evaluation:

Class attendance is required and discussion is expected. There are four requirements for the course: attendance, assignments, class presentation, and final paper. Evaluation will be based on all four requirements.

Attendance and Participation --- 40%
Assignments --- 20%
Presentation --- 20%
Final Paper --- 20%

地球環境問題と企業・政府・消費者	(2単位) (秋 月4)
GLOBAL ENVIRONMENTAL ISSUES AND ACTORS	(2 Credits) (Fall Mon 4)
山口光恒	経済学部教授
Mitsutsune Yamaguchi	Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English.

By attending this course, you will understand what's happening on global environment and how important they are to our economy, health and future generations. I will focus on the actors, such as firms, governments and consumers and explain their roles. Then move on to selected issues; First, climate change (including international as well as domestic policies and measures), second, waste minimization focusing on EPR (Extended Producer Responsibility), and, if time allows, compatibility of free trade and environment.

1. Nature of global environmental problems
2. Global environmental issues and firms
3. SO Environment Management and Firm
4. Government activity (1) - Cost benefit analysis and value of the environment
5. Government activity (2) - Policies and measures
6. Role of consumers and NGO's
7. Climate change (1) -IPCC report and Framework Convention on Climate Change
8. Climate change (2) -Kyoto Protocol and US withdrawal
9. Climate change (3) -Domestic measures
10. Waste problems, Extended Producer Responsibility
11. Waste Problems, EPR -Japanese situation
12. Free trade and the environmental protection

Text books:

F.Cairncross, "Costing the Earth", Harvard Business School Press, 1991
山口光恒「地球環境問題と企業」岩波書店 2000 年

Message to those taking this course:

Students must have a strong command of the English Language.

Evaluation:

Report and in class participation.

金融特論	(2単位) (秋 火2)
ADVANCED STUDY OF FINANCE: CORPORATE GOVERNANCE	(2 Credits) (Fall Tue 2)
深尾光洋	商学部教授
Mitsuhiro Fukao	Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France, and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting a strong pressure for convergence in

some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept
Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of multinational Companies*, Brookings, 1995.
2. Hostile Takeovers
Scheifer, Andrei and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers", in *corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.
3. Elements of Governance
Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No.3, June 1994
Franks, Julian R., "Lessons from a comparison of US and UK Insolvency Codes," *Oxford Review of Economic Policy*, Vol.8, No.3, June 1994
Bank of Japan, "The Japanese Employment System," *Bank of Japan Quarterly Bulletin*, May 1994.
Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders," remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.
Newbury, Robert W., Rachel Leahey, Annick Siegl and Stacey Burke, *Board Practices 2000*, IRRc, 2000.
William C. Powers, Jr. Raymond S. Troubh, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.
4. Financial System
Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weakness in the Corporate Governance Structure," *Seoul Journal of Economics*, Vol.11, No.4, 1998.
Fukao, Mitsuhiro, "Barriers to Financial Restructuring: Japanese Banking and Life-Insurance Industries," paper for a NBER conference on Structural Impediments to Growth in Japan" on Mrch 18-19, 2002

Text:

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

異文化研究: 国際化と異文化理解プロセス	(2単位) (秋 火4)
INTERNATIONALISM AND CULTURAL LEARNING: HUMAN RELATIONS IN THE NEW GLOBAL COMMUNITY	(2 Credits) (Fall Tue 4)
ショールズ, ジョセフ 国際センター講師(立教大学助教授)	
Joseph Shaules Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)	

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Recommended Readings:

Different Realities – Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do
Identity, by Shaules, Tsujioka & Iida, published by Oxford University Press

Class Schedule (Subject to change):

1. Class introduction
2. The nature of intercultural contact – Deep and shallow cultural learning
3. Visible and invisible culture – the cultural onion
4. Student presentations
5. The goals of cultural learning – sympathy, empathy & constructions of reality
6. The “Deep difference” model of intercultural development - the three reactions
7. The roots of prejudice – Intercultural resistance
8. Student presentations
9. Towards ethnorelativism – Intercultural acceptance
10. Biculturalism and beyond – Intercultural adaptation
11. Community and the “multi-cultural man”
12. Student presentations
13. final class

Message to those taking this Course:

This class is especially recommended for students with interest in (or experience of) living abroad. Students will share their personal point of view, and are expected to share experiences and ideas during discussion and presentations. This class is open to all students, regardless of their previous level of intercultural experience.

カナダという国とカナダの国際的な役割

(2単位) (秋 火5)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

(2 Credits) (Fall Tue 5)

イエローリーズ, ジェームズ 国際センター講師(カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Course Description:

The course will focus on introducing the history, economy and social and political systems of Canada. Students will then examine contemporary Canada and its role in the international community. We will make use of videos and computer assisted media.

Message to Students:

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada please consider taking this course.

Evaluation:

A five-page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Culture.

比較映画論:映画における過去観の諸文化比較

(2単位) (秋 水2)

VISIONS OF THE PAST: CROSS-CULTURAL COMPARISON OF HISTORICAL
FILM

(2 Credits) (Fall Wed 2)

エインジ, マイケル W. 経済学部助教授

Michael W. Ainge

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

Historical Drama is a well-established film genre in most nations. While the majority of historical films ostensibly try to “re-create” past events, and present a “window on the past”, others depict the past in such a way as to comment on the nature of presenting history on film. In this course, we will examine historical films from around the world—Asia, Africa, Europe, Latin America and North America—with an eye on how they treat their historical subjects and on which attendant historiographical issues they raise. We will learn to recognize the basic issues and problems of presenting history on film (as compared to history recorded in books and manuscripts, for example), and this will allow us to discuss and compare how filmmakers in different cultures have responded to those problems.

First, we will define the two dominant types of historical film, the drama and documentary, analyzing their

conventions, as well as assessing their limitations. Then, we will proceed to survey some alternative approaches to representing the past on film. All along, we will try to uncover the "hidden" ideological and interpretive assumptions in the films. We will have to consider the relationship between fact and film, and the questions of accuracy, completeness, complexity, argument. Finally, students will be expected to view a film independently, and to write a paper analyzing that particular film in light of the questions and theories discussed in the class.

Students will be required to watch the assigned films on video before class, as homework, and to prepare questions for discussion in English in class. Assigned films will be available with English and/or Japanese subtitles. Evaluation will be based on: class participation(40%), and understanding of the course material as demonstrated in a term paper(60%).

A partial list of films on the course syllabus:

CEDDO (SENEGAL, 1978)

FRIDA, NATURALEZA VIVA (Mexico, 1984)

HEARTS AND MINDS (U.S.A., 1975)

JFK (U.S.A., 1991)

THE MARRIAGE OF MARIA BRAUN (W. GERMANY, 1979)

QUILOMBO (BRAZIL, 1984)

REDS (U.S.A., 1981)

SANS SOLEIL (FRANCE, 1982)

TANGO (SPAIN/ARGENTINA, 1998)

WALKER (U.S.A., 1987)

Additionally, written material for background reading and historical analysis will be available, for a small fee. The class will be conducted as a lecture-discussion, with frequent student presentations.

国際経済	(2単位) (秋 木5)
International Economy	(2 Credits) (Fall Thu 5)
小島明	商学研究科教授
Akira Kojima	Professor, Graduate Scholl of Business and Commerce

Course Description:

The class covers various international economic policy issues including trade, Investment (foreign direct investment), foreign exchange policy, WTO process, FTAs(Free Trade Agreements), regional integration, competitiveness issue, economic development strategy and so on.

Students will be put in the very front line of policy debate of international economy. Real voices of policy makers, business leaders and scholars will often be given to the students through recorded tapes and videos. As I have good many chances to participate to many important international policy debates, the student can be given the chance of sharing such experiences of mine. Practical, as well as theoretical approach will be introduced.

Texts:

“Globalization and its Discontent”, Joseph E. Stiglitz, Norton, 2002

METI “White Paper on International Trade 2002” (This document can be accessed through METI website, both in Japanese and English.)

Recommended Readings:

Various analytical reports and documents of IMF, World Bank and other institutions are recommended as required.

アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味	(2単位) (秋 木5)
AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	(2 Credits) (Fall Thu 5)
近藤英俊	国際センター講師(関西外国語大学助教授)
Hidetoshi Kondo	Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of medicine and illness in contemporary Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of medicine and illness in Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) complexity and flow of medical cultures, (2) social relations and power in medicine, (3) capitalism, the state and medicine, (4) development and decline of bio-medicine, (5) traditional medicine and professionalisation, (6) religion as medicine, (7) cultural understandings and social consequences of AIDS pandemic.

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course! Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

プロジェクト科目・欧州統合	(2単位) (秋 木5)
GRADUATE SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION	(2 Credits) (Fall Thu 5)
田中俊郎	ジャン＝モネ チェア教授
Toshiro Tanaka	Professor, Jean Monnet Chair
細谷雄一	法学部専任講師
Yuichi Hosoya	Lecturer, Faculty of Law
庄司克宏	法学部非常勤講師
Shoji Katsuhiko	Part-time Lecturer, Faculty of Law

Course Description:

The European Union strives to establish a new order in Europe. While the EU attempts to deepen its construction through the Maastricht Treaty, the Amsterdam Treaty, the Nice Treaty and the Draft Treaty establishing a Constitution for Europe, it will enlarge its scope South and East, from 15 to 25 member states by May 1 2004.

This year, the seminar will focus on the enlargement and the deepening of the EU, trying to shed more lights on the historical development, to analyze its problems and outline future perspectives on the subject.

Course Schedule (Subject to Change):

1. Official Language: English
2. Presentation by students and discussion to follow.
3. Special guests will be invited from the European Commission, Embassies of the member states and Acceding countries in Japan, and researchers including professor from "Science Po" in Paris will be invited.

Evaluation:

Each student will be expected to give oral presentations and join in discussion during the semester. Each student is also expected to submit a term paper by the end of the semester (Length: 15 double-spaced typewritten pages including footnotes.)

Inquiries:

Call extension 22006 for appointment.

アジア諸国におけるビジネスマネジメント

(2単位) (秋 金3)

BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

(2 Credits) (Fall Fri 3)

トビン, ロバート I.

商学部教授

Robert Tobin I.

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on businesses and the styles of management of firms headquartered in Asia outside of Japan.

Students will explore traditional and emerging issues for Asia's business and political leaders and their organizations. In addition students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on Asian management, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, open-space activities, projects, experiential class activities, and research assignments.

Text Book:

Asian Management Systems, Min Chen.

Additional assigned articles and supplementary readings

Recommended Readings:

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

Class Schedule (Subject to change):

Introduction
 How to Succeed in Asian Markets
 Asian Market Leaders
 Development of Hybrid Management Styles
 Successful Asian Businesses
 Local Company and Country Trends
 Country Information Presentations
 Strategy-Country and Pan-Asia Strategy
 Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Styles
 Country Profiles: Group Presentations
 Political and Economic Risks in Asia
 CHINA - Chinese Management Systems, Changes and Opportunities
 Overseas Chinese Business
 Challenges of Family Businesses
 Business in Frontier Markets
 The Re-positioning of Korean companies
 Success in Japan, Singapore, Thailand, Vietnam, Korea
 Company Presentations: Asia's Most Successful Companies

Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries and companies that are usually not included in traditional management and strategy classes. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top

students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

Evaluation:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Inquiries:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Website: <http://www.tobinkeio.com>

国際開発協力論

(2単位) (秋 金4)

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

(2 Credits) (Fall Fri 4)

後藤一美

法学部非常勤講師(法政大学教授)

Kazumi Goto

Part-time Lecturer, Faculty of Law (Professor, Hosei University)

Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Text Book:

Textbook is not used in particular. Resume and list of reading materials will be available during the course and via e-mail.

Recommended Readings:

Some recommended readings are as follows:

Finn Tarp, *Foreign Aid and Development: Lessons Learned and Directions for the Future*, Routledge, 2000.

John Degenbol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, *Aid: Understanding International Development Cooperation*, Zed Books, 2003.

唐木圀和・後藤一美・金子芳樹・山本信人(編)『現代アジアの統治と共生』慶應義塾大学出版会、2002年。

青木健・馬田啓一(編)『政策提言／日本の対アジア経済政策』日本評論社、2004年。

後藤一美(監修)『国際協力用語集』(第3版)、国際開発ジャーナル社、2004年。

Class Schedule (Subject to change):

Session 1	Orientation
Session 2-3	Introduction to international development cooperation
Session 4-6	Current topics (Part 1)
Session 7-9	Current topics (Part 2)
Session 10-12	Current topics (Part 3)
Session 13	Prospects of international development cooperation

Message to Those Taking This Course:

Active participation in class discussions is required.

Evaluation:

Some short essays are requested to be submitted during the course. Evaluation will be made, based on the final report (five pages of A4 size) submitted at the end of the course, with the following criteria: originality; logic; and persuasiveness.

Inquiries:

Should you have any inquiries, feel free to contact with the following address:
<k-goto@i.hosei.ac.jp>

EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ

(2単位) (秋 土2)

EU – JAPAN ECONOMIC RELATIONS

(2 Credits) (Fall Sat 2)

嘉治佐保子

経済学部教授

Sahoko Kaji

Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English. The text used in this course is Julie Gilson, Japan and the European Union, Macmillan Press (in the UK), St Martin's Press (in the USA), 2000. The contents of the book are as follows:

Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations

Chapter 2 Developing Cooperation, 1950s – 80s

Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan

Chapter 4 European Integration and Changing Views of Europe

Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations

Chapter 6 Cooperation in Regional Forums

Chapter 7 Addressing Global Agendas

Chapter 8 Conclusions: A Partnership for the Twenty-first Century

Lectures will be based mostly on chapters of this text. Emphasis will be on the economic side of EU-Japan relations, rather than the political or historical. The plan is to use the first lecture for introduction. During the following weeks, one to two lecture-hours will be spent discussing each of the chapters 1 through 8.

The topic to be discussed in the following week will be announced at the end of each lecture. Students must submit a report on the Topic each week. They should thus familiarize themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Evaluation is by class participation and an essay at the end of the term. For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, The Xenophobe's Guide to the Japanese, Oval Books, 1999, £3.99. Reading and/or purchasing of this latter book are not necessary.

Evaluation:

Report and class participation.

手塚千鶴子 国際センター助教授

Chizuko Tezuka Associate Professor, International Center

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

Recommended Readings:

Japanese culture and behavior: selected readings by Takie Lebra & William Lebra

Japanese patterns of behavior by Takie Sugiyama Leba

Dependency and Japanese socialization by Frank A. Johnson

Conflict in Japan edited by Ellis Krauss, Thomas Rohlen, and Patricia G. Steinhoff

An introduction to intercultural communication by John C. Condon & Fathi Yousef

Intercultural communication :a reader (6th edition) by L.A.Samovar & R.E.Peter

Class Schedule (Subject to change):

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. Comparing 'Peanuts' and 'Doraemon' to understand *Amae* psychology: prototype and functions of *Amae*, and culture specificity and universality of *Amae*
7. How *Amae* psychology and an emphasis on *Wa* gets translated into Japanese communication patterns: *Sasshi*, *Enryo* and *Honne* vs. *Tatemaie*
8. How to overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of *Sunao* and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2 and wrap-up

Message to Those Taking This Course:

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

Overall grades will be based on attendance, essays, participation in class, group project presentation, and

final individual project paper based on group project.

Inquiries:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

日本の金融ビッグバン	(2単位) (春 火3)
FINANCIAL DEREGULATION (BIG BANG) IN JAPAN	(2 Credits) (Spring Tue 3)
ハリス, グレアム O.B.E. 商学部非常勤講師	
Graham Harris O.B.E. Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce	

Course Description:

In this class we will study the role of foreign and Japanese financial institutions in Japan including banks, securities and insurance companies. We will evaluate the Big Bang changes and ascertain whether or not they are achieving their purpose.

Text Book:

Current materials will be used.

Class Schedule (Subject to change):

Big Bang deregulatory changes, together with the general turmoil in the financial markets are creating new opportunities for both foreign and Japanese institutions. Existing companies are having to modify their strategies and new financial companies are being established – many basing their business model on the Internet.

We will examine these opportunities, separate the real from the imaginary and discuss the currents and future effect that foreign financial institutions are having on the Japanese financial scene.

We will also include topics such as the Japanese Post Office; accountancy changes leading to more corporate disclosure and transparency; and the government/FSA involvement in the continuing deregulation process.

Evaluation:

Students will be evaluated on the basis of attendance, class participation, essays, and oral presentation.

英国と米国のマスコミに描かれた日本	(2単位) (春 火3)
JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	(2 Credits) (Spring Tue 3)
キンモンス, アール H. 国際センター講師(大正大学教授)	
Earl H. Kinmonth Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)	

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan from the earliest awareness of Japan until the present. For Japanese, the course serves as an introduction to the many ways Japan has been and is seen by foreign observers. For non-Japanese, the course serves to introduce students to the limits and peculiarities of scholarly and journalistic writing on Japan. For both, the course is intended to give students an awareness of the degree to which not just journalists but also allegedly objective scholarly observers are in fact heavily influenced by the historical and political circumstances in which they write.

Recommended Readings:

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction to the course - "Whose images of which Japan?"
2. European knowledge of Japan before the coming of Perry
3. The Meiji Restoration and the Meiji Renovation as seen by foreign observers
4. The avid students become the Yellow Peril

5. Taisho Democracy and interwar Japan as seen by foreigners
6. Shame and constipation - Anglo-American anthropologists psyche out the Japanese enemy during the Pacific War
7. New Dealers in the American Occupation - progressive misunderstanding of the causes of militarism
8. Cold War politics and post-war American studies of Japan
9. The many and varied explanations for Japanese economic and technological success
10. Rote memory or creative teaching - the variegated image of Japanese education
11. Erotic geisha or smothering mother - the variegated image of Japanese women
12. Waiting for convergence, planning for containment - rational choice versus revisionism in the American view of Japan's "bubble economy"
13. "Comfort Women" and "The Rape of Nanking" - American self-righteousness confronts Japanese evasiveness
14. Taking Japan Seriously? The who, the why, and how of foreign reporting on Japan
15. From super state to superannuated state - American images of "post bubble Japan"

Message to Those Taking This Course:

The final examination will be based on the lectures. Because no textbook is used, attendance is particularly important.

Evaluation:

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of a foreign country. There will be a final examination for the course based on the lectures. The final examination will be given during the scheduled examination period. The course grade will be computed as attendance and participation (20%), report (40%), and final examination (40%).

Inquiries:

Questions during or after lecture are welcome. Questions may be submitted in English or Japanese by email to ehk@gol.com. Special consultation before or after lecture can be provided upon request.

多民族社会としての日本	(2単位) (春 火4)
MULTIETHNIC JAPAN	(2 Credits) (Spring Tue 4)
柏崎千佳子	経済学部助教授
Chikako Kashiwazaki	Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

Texts:

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous?
3. Theories of ethnic relations
4. Zainichi Koreans: past and present
5. Zainichi Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary -- Rethinking Japanese society

Message to Those Taking This Course:

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

Evaluation:

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (30%), presentations (20%), and writing assignments including a short essay and a term paper (50%).

日本企業の経営戦略と管理手法

(2単位) (春 火4)

CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN (2 Credits) (Spring Tue 4)

JAPAN: Understanding Key Success Factors for Developing and Implementing

Corporate Strategies

稲葉エツ 国際センター講師(財団法人貿易研修センター人材育成部長)

Etsu Inaba Lecturer, International Center (Director, Human Resource Development Department, Institute for International Studies and Training)

Course Description:Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical and experiential learning skills as well as discussion/presentation skills in students.

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices. The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and the process of developing management practices. In-depth understanding of selected corporations in Japan as "best practice" will be pursued through case studies, company visits and student's own research. Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

Recommended Readings:

Will be advised at the beginning of the course.

Class Schedule (Subject to change):

1. Course Orientation (1 session)
2. Discussion of Strategy development framework (1 session)
3. Discussion of cases (Major Japanese companies) (4 sessions)
4. Discussion of cases (Medium scale and entrepreneur cases) (2 sessions)
5. Students research presentations (4 sessions)
6. Company visit (2 sessions)

To develop these skills and enhance understanding, students are required to read and analyze assigned case studies and do some further fieldwork.

Evaluation:

Performance will be evaluated on the basis of:

1) Participation in class discussion, 2) field work report and presentations, and 3) a final report. Fieldwork can take either group visit to companies and/or research on a company with student's own initiative.

Inquiries:

Questions and discussions can take place through e-mails as well as in the classroom.

浮世と道行き	(2単位) (春 水3)
JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD	(2 Credits) (Spring Wed 3)
アーマー, アンドルー 文学部教授	
Armour Andrew Professor, Faculty of Letters	

Course Description:

This course focuses on the pre-modern Japanese literature of the Edo period (1600-1867). Marking a contrast with both the war tales of the samurai and the contemplative works of the solitary priests, much of the literature of this period reflects the concerns and tastes of the common townspeople. It was their prosperity and vitality that spurred the growth of printed literature and popular drama, encouraging men like Saikaku, Bashô, Chikamatsu and Akinari. As well as the “floating world” of prose fiction, we shall be covering such topics as haiku poetry and love suicides in the puppet theatre.

Texts:

Students will be presented with materials in class or via the class website (www.armour.cc/ukiyo.htm).

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
4. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Message to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

日本の経営	(2単位) (春 水3)
JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	(2 Credits) (Spring Wed 3)
梅津光弘 商学部専任講師	
Mitsuhiro Umezu Lecturer, Faculty of Business and Commerce	

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Texts:

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.
Handouts

Recommended Readings:

TBA

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2: Environment
13. Final Exam.

Message to Those Taking This Course:

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

Evaluation:

Mid-Term Examination (TBA) 30%
Final Exam/ Project (TBA) 40%
Class Participation 20%
Home work 10%

美術を「よむ」ー日本美術史入門	(2単位) (春 水4)
INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN	(2) (Spring Wed 4)
河合正朝	文学部教授
Kawai Masatomo	Professor, Faculty of Law
ルーマニエール, ニコル	国際センター講師(セインズベリー日本藝術研究所所長)
Nicole Rousmaniere	Lecturer, International Center (Director, The Sainsbury Institute for Study of Japanese Arts and Cultures)
カーペンター, ジョン	国際センター講師(ロンドン大学東洋アフリカ学院助教授)
John Carpenter	Lecturer, International Center (Assistant Professor, SOAS, University of London)

Course Description:

Through an examination of selected topics ranging from prehistory through to the 19th century, this

introductory course aims to familiarize students with concepts and processes at work in Japanese art history. The course will provide a basic introduction to Japanese artistic formats, such as screen painting, calligraphy and ceramics, and to genres such as Zen painting, rinpa and literati styles. Primary emphasis is placed on understanding the work of art itself and its context.

Requirements:

Two short written assignments (4-5 double spaced A4 pages)
Active participation in class discussions and on field trips. Attendance and participation will be reflected in the final grade for the course.

Field Trips:

One field trip to Tokyo National Museum (Ueno Park) will be taken during the course in conjunction with a paper assignment.

Lecture Topics:

Japanese Prehistory
Todaiji and the Shosoin
Courtly Literature and Kana Calligraphy
Zen Painting and Calligraphy
Japanese Ceramics
Japanese trade and relations with China and Europe
Rinpa Painting and Calligraphy
Literati Painting and Calligraphy
Japanese Ceramics
Kabuki and 17th Century Genre Painting
Kazari, Japanese Design and Decoration
Ukiyo-e and Surimono
Collecting Japan in 19th-century America and Britain

Texts:

There is no single textbook for the course. Instead, a list of suggested books will be distributed and photocopies of selected sections will be available.

Castile, Rand (ed), The Burghley House Porcelains. New York: Japan Society, 1986.
Clunas, Craig, "Oriental Antiquities/ Far Eastern Art," *Positions: East Asian Cultures Critique* vol. 2, no.2 (Fall 1994), pp.318-354.
Nishi, Kazuo and Kazuo Hozumi, What is Japanese Architecture? (Translated by H. Mack Horton) Tokyo: Kodansha International.
Fontein, Jan and Money Hickman, Zen Painting and Calligraphy. Boston: Museum of Fine Arts, 1970.
Guth, Christine, Art of Edo Japan: The Artist and The City 1615-1868. New York: H.N. Abrams, 1996.
Impey, Oliver and John Ayers and J.V.C. Mallet (ed), Porcelain for Palaces. London: The Oriental Ceramic Society, 1990.
Mason, Penelope, History of Japanese Art. New York: H.N. Abrams, 1993.
Mikami Tsugio. Japanese Ceramics. New York: Heibonsha International, 1977.
Nishi, Kazuo and Kazuo Hozumi, What is Japanese Architecture? (Translated by H. Mack Horton) Tokyo: Kodansha International, 1985.
Pearson, Richard, Ancient Japan. Washington, DC: Smithsonian Institution.
Rousmaniere, Nicole (ed), Kazari, Decoration and Display in Japan 15th – 19th Centuries. London: British Museum Press, 2003.
Singer, Robert, Edo, Arts of Japan. Washington D.C., National Gallery of Art, 1998.
Wilson, Wilson, Inside Japanese Ceramics. Tokyo and New York: Weatherhill, 1995.

Also See:

Chanoyu Quarterly (Urasenke Foundation)
The Kodansha Encyclopedia of Japan (9 vols.), New York: Kodansha International, 1983
The Shibata Collection Catalogues (6 vols) published by The Kyushu Ceramic Museum, 1995 onwards.

 ジャパニーズ・エコノミー

(2単位) (春 木5)

JAPANESE ECONOMY

(2 Credits) (Spring Thu 5)

小島明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and Tapes etc.

Recommended Readings:

Japan's Policy Trap – Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

Balance Sheet Recession – Japan's struggle with uncharted economics and its global implications, by Richard C, Koo, 2003 John Wiley & Sons

Message to Those Taking This Course:

Active participation by students strongly desired.

Evaluation:

Report and in-class exam.

日本の政治と外交

(2単位) (春 木5)

JAPANESE POLITICS AND DIPLOMACY

(2 Credits) (Spring Thu 5)

添谷芳秀

法学部教授

Yoshihide Soeya

Professor, Faculty of Law

Course Description:

This course aims to evaluate the evolution of Japanese politics and diplomacy since the end of the World War II. It will deal with several key issues and questions relating to the emergence, evolution, and demise of the so-called 1955 regime of Japanese domestic politics, as well as the so-called Yoshida "doctrine" in its foreign policy.

Texts:

Reading assignments, show in the syllabus to be distributed in the first class, will be available from the University Co-op.

Class Schedule (Subject to change):

Course syllabus will be distributed in the first class. The course will address the following areas and issues:

1. Politics and Diplomacy under the 1955 Regime
2. Politics and Diplomacy in an Era of High Growth
3. Japan's Response to Détente
4. Politics and Diplomacy under the New Cold War
5. The End of the Cold War and the Demise of the 1955 Regime
6. Political and Diplomatic Challenges in the Post-Cold War Era
7. Changes in the 1990s
8. Politics and Diplomacy after the 9.11

Evaluation:

Attendance, Participation, and Term-paper

エコノミー・オブ・ジャパン

(2単位) (春 土2)

ECONOMY OF JAPAN

(2 Credits) (Spring Sat 2)

嘉治佐保子 経済学部教授

Sahoko Kaji Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English.

The text book is Takatoshi Ito, The Japanese Economy, MIT Press, 1992.

Lectures will be based on chapters of this text.

The book's contents are as follows:

Part I Background

Chapter 1 An Introduction to the Japanese economy

Chapter 2 Historical background of the Japanese economy

Part II Economic Analysis

Chapter 3 Economic growth

Chapter 4 Business cycles and economic policies

Chapter 5 Financial markets and monetary policy

Chapter 6 Public finance and fiscal policies

Chapter 7 Industrial structure and policy

Chapter 8 Labour market

Chapter 9 Saving the cost of capital

Chapter 10 International trade

Chapter 11 International finance

Part III Contemporary Topics

Chapter 12 US – Japan economic conflicts

Chapter 13 The distribution system

Chapter 14 Asset prices; land and equities

Students must submit a report on the chapter to be discussed each week. They should thus familiarize themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Recommended Readings:

For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, The Xenophobe's Guide to the Japanese, Oval Books, 1999, £3.99. Reading and/or purchase of this latter book is not necessary.

Evaluation:

Class participation and an essay at the end of term

近代日本の対外交流史

(2単位) (秋 月5)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS

(2 Credits) (Fall Mon 5)

BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子 法学部教授

Akiko Ohta Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Texts:

No specific textbook will be used.

Recommended Readings:

The reading list will be given at the beginning of the term.

Class Schedule (Subject to change):

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures) : General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
 2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
 3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures) : the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
 4. Japanese Visits Abroad (2 lectures) : the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways)
 5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
 6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
 7. The significance of the Iwakura Mission (1~2 lectures)
 8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures) : comparative analysis of several primary sources
- ☆ Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

Evaluation:

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 2,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

異文化コミュニケーション2ー異文化接触における日本人のアイデンティティー	(2単位) (秋 月5)
INTERCULTURAL COMMUNICATION 2: IDENTITY OF JAPANESE SOJOURNERS	(2 Credits) (Fall Mon 5)
手塚千鶴子	国際センター助教授
Chizuko Tezuka	Associate Professor, International Center

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Texts:

There is no designated textbook. Handouts will be distributed.

Recommended Readings:

- Tsuda Umeko and Women's Education in Japan* by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.
The White Plum: a biography of Ume Tsuda by Yoshiko Furuki, Weatherhiesel, 1991.
Nitobe Inazo: Japan's bridge across the Pacific by John F. Howes, Westview Press, 1995.
Foreign Studies (translated from Japanese by Mark Williams) by Shusaku Endo, Charles E. Tuttle, 1989.
Intercultural Communication: reader 5th ed., Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.
Japanese Culture and Behavior (revised edition) ed.by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.
Japanese Patterns of behavior ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.
Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness ed by Ray T. Donahue, Ablex Publishing Company, 2002.
Japan Encounters The Barbarian: Japanese travelers in America and Europe

Class Schedule (Subject to change):

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late

Edo Period

3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment1: culture as mental softwear, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angeles: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue back in Japan
12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period
13. Challenge for Japanese and other sojourners: empathy, tolerance towards cultural differences and intercultural identity

Messages to Those Taking This Course:

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion in addition to listening to mini-lectures. Thus what you can learn from this class largely depends on how much you can contribute to this class while the instructor's responsibility is that of a facilitator. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

Overall grad will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

Inquiries:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

日本の文学

(2単位) (秋 水3)

JAPANESE LITERATURE

(2 Credits) (Fall Wed 3)

アーマー, アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyôshû*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjû*.

Texts:

Students will be presented with materials in class or via the class website (www.armour.cc/jlit.htm).

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;

3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Messages to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

20世紀日本の文学に与えたヨーロッパ文学の影響

(2単位) (秋 水4)

THE IMPACT OF WESTERN LITERATURE ON JAPANESE
TWENTIETH-CENTURY FICTION

(2 Credits) (Fall Wed 4)

レイサイド, ジェイムス 法学部教授

James M. Raeside Professor, Faculty of Law

Course Description:

This course of lectures is intended to give a selective account of the way that Western literature was received in Japan during the 20th century, and the different ways that Japanese novelists engaged with the genres and techniques of foreign predecessors and contemporaries.

Consideration will be limited to Japanese novelists, though poets will also figure amongst the Western writers. The lectures will follow a basically chronological order, beginning with the Natsume Soseki and ending with Murakami Haruki. Students interested in this course should try to read at least some of the following (names appear without macrons).

Natsume Soseki 夏目漱石 『草枕』

English Translation A Three-Cornered World/ Unhuman Tour

Nagai Kafu 永井荷風 『墨東奇談』

English Translation: A strange Tale from East of the River

Akutagawa Ryunosuke 芥川龍之介 「蜘蛛の糸」、「地獄変」、「河童」

English Translation "The Spider's Thread"; "The Hell Screen" Kappa

Tanizaki Junichiro 谷崎潤一郎 『痴人の愛』『夢喰う虫』

English Translation Naomi; Some Prefer Nettles

Mishima Yukio 三島由紀夫 『愛の渇き』『憂国』

English Translation: Thirst for Love; "Patriotism"

Endo Shusaku 遠藤周作 『沈黙』

English Translation Silence

Noma Hiroshi 野間宏 『わが塔はそこに立つ』

(There Stands my Pagoda)

Oe Kenzaburo 大江健三郎 『新しい人よ眼ざめよ』

English Translation Rouse Up O Young Men of the New Age!

Murakami Haruki. 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』

English Translation Hard-boiled Wonderland

General surveys of Japanese literature such as those by Donald Keene and Shuichi Kato will also provide good background information.

日本の経済システムにおける政府の役割－規制と介入の特殊性を中心に－	(2単位) (秋 木4)
THE ROLE OF GOVERNMENT IN THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM: A	(2 Credits) (Fall Thu 4)
Critical Look at the Unique Features of Japanese Regulations and Government Involvement	
伊藤規子 商学部助教授	
Noriko Ito Associate Professor, Faculty of Business and Commerce	

Course Description:

This course aims to help the student to understand the Japanese style of economic regulation and how and why the central/local government's involvement in many areas of the economy is distinctive to that of other industrial nations. The lectures will (A) cover the contents of the text book, '*Arthritic Japan*' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems the Japanese have been facing during the last decade, (B) briefly explain general concepts and approaches in theories of industrial organization, public choice and regulatory economics and (C) survey some distinctively Japanese approaches to developing infrastructure and regulating industries.

Texts:

Edward, J. Lincoln, *Arthritic Japan: the slow pace of economic reform*, Brookings, 2001.

Recommended Readings:

Additional materials will be provided during some sessions if necessary.

Class Schedule (Subject to change):

- Session 1 guidance and introduction
- Session 2-3 the Japanese postwar economic system
- Session 4-5 framework of government intervention and involvement in the economy
- Session 6-8 brief guidance to related theories of industrial organization and public choice
- Session 9-10 Japanese society, its traditions, structure and implications for the economic system
- Session 11-13 problems (in topics) with regard to current systemic economic reform

Message to Those Taking This Course:

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give them copies of journal articles (such as those from the Japan Times). We will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles.

Evaluation:

Evaluation will be carried out by (A) essays which will be submitted after the course ends and (B) essays submitted during some sessions based on articles provided.

Inquiries:

The lecturer's contact address will be notified at the beginning of the first session.

科学技術文化特論	(2単位) (秋 金2)
SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE	(2 Credits) (Fall Fri 2)
ドゥウルフ, チャールズ 理工学部教授	
Charles De Wolf Professor, Faculty of Science and Technology	

Course Description:

Japan is often viewed, by Japanese and non-Japanese alike, from seemingly polar opposite perspectives: on the one hand, as a non-Western country that, more thoroughly and successfully than any other, has

adopted the life-style of the “global” West; on the other, as, certainly among the advanced industrial democracies, the most insular and self-absorbed, obsessed with its own ethnic-national identity and holding “foreigners” at arm’s length. How is it possible, for example, that a country at the pinnacle of technological achievement could produce politicians who speak of skys produced in foreign countries as unusable on Japanese snow? How is it that the residents of the “high-tech” Japanese metropolis, the largest urban complex in the world, can wax enthusiastic about a freely elected governor who describes non-Yamato residents as “criminals” waiting to attack pure-blooded Japanese in the event of a major earthquake? In this course, we shall examine this seeming paradox from various perspectives: historical, social, linguistic, and religious. A related sub-theme will be the question of how culture and science, in the broadest senses of the terms, are interrelated.

Texts:

Materials to be distributed by instructor

Recommended Readings:

To be announced

Class Schedule (Subject to change)

1. The concept of science: words in different languages for 'science' and their meanings.
2. 'scientific', 'non-scientific', 'unscientific': Where do we draw the line?
3. What is meant by 'the scientific method'? Is linguistics, for example, a science? Pre-modern vs. modern Japanese linguistics as a case in point
4. Science and 'Weltanschauung': How philosophically/religiously 'neutral' is science?
5. Science and culture: Can modern science be regarded as an 'Occidental' invention?
6. The History of Science in Japan I: pre-16th century
7. The History of Science in Japan II: rangaku
8. The History of Science in Japan III: science in the Meiji Era
9. The theory of evolution in historical and cultural perspective, with particular emphasis on Japan
10. Ambivalent views of technology in historical and cultural context
11. Science and current issues I: Global warming
12. Science and current issues II: Cloning
13. Science and current issues III: Population control
14. Science and current issues IV: Globalization
15. Science and current issues V: Technology and human rights

Evaluation:

Attendance and participation are most important. Final reports are also required.

芸術と戦争：日本の戦時体制と作家、詩人、評論家

(2単位) (秋 金3)

THE ART OF WAR: JAPANESE WRITERS, FILMMAKERS, POETS, AND CRITICS

(2 Credits) (Fall Fri 3)

UNDER THE WARTIME STATE

ドーシー, ジェームス 国際センター講師(ダートマス大学助教授)

James Dorsey Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth University)

Course Description:

The course will examine a variety of Japanese literary and critical texts from the 1930s and 1940s, with a focus on those that deal directly or peripherally with the war efforts in China and the Pacific. Students will gain an understanding of the workings and relationship of nationalism, colonialism, censorship, propaganda, publishing practices, interpretive strategies, and the literary imagination.

Texts:

John W. Dower, War Without Mercy: Race & Power in the Pacific War (New York: Pantheon Books, 1986), 2000 円.

Kawabata Yasunari, Snow Country, trans by Edward Seidensticker (New York: Vintage, 1996), 2000 円.

Ishikawa Tatsuzô, Soldiers Alive, trans by Zeljko Cipris (Honolulu: University of Hawai'i Press, 2003), 2500 円.

All other readings will be made available in copy form.

Class Schedule (Subject to change):

1. COURSE INTRODUCTION
(Course mechanics, syllabus, expectations, introductions)
2. THE LIBERAL ROOTS OF THE RADICAL RIGHT (1920s)
(Kobayashi Takiji, Nakano Shigeharu, marxism, proletarian literature, *tenkō*/conversion)
3. "HOME IS WHERE THE HEART IS" (1930s)
(Kawabata Yasunari, Kobayashi Hideo, cultural identity, rural roots/*furusato*, purity)
4. THE LITERARY GENIUS, PROPAGANDA EXPERT OR AVERAGE FIGHTING MAN?
(Hino Ashihei, hero prototypes, authenticity, interpretation)
5. WRITERS AND THE STATE TANGO
(Ishikawa Tatsuzō, censorship, publishing practices, war correspondents)
6. INSIDE-OUT AND OUTSIDE-IN
(colonialism, imperialism, *naichi*/the center, *gaichi*/the periphery)
7. PURE AND SIMPLE?
(propaganda in the U.S. and Japan)
8. "THINGS JAPANESE"
(Hagiwara Sakutarō, Sakaguchi Ango, cultural identity, an imaginary Japan)
9. RECYCLED HEROES
(the 47 rōnin, Miyamoto Musashi, Yoshikawa Eiji, nationalism, hero myths)
10. THE ATTACK ON PEARL HARBOR (2 sessions)
(fascism, hero myths, nationalism)
 10. 1 Film (*Kaigun*/The Navy, 1942)
 10. 2 Literature (Sakaguchi Ango, "Pearls")
11. CHANGELESS CHANGE: POSTWAR JAPAN
(Sakaguchi Ango, nationalism, cultural identity, colonialism)
12. WHERE ARE WE TODAY?
(summary, review)

Message to Those Taking the Course:

War, suicide bombers, propaganda, surprise attacks, nationalism, the West vs. the non-West. These are all very much a part of our world today, and they were very much a part of it in the 1930s and 1940s. All students willing to explore and discuss these issues in the context of Japan's modern history are welcome. A field trip to the Yasukuni Shrine and museum will be part of the course.

Evaluation:

- Class participation: 35%
- Two response papers (2 pgs each): 25%
- One final paper (8 pages): 40%

日本経済の展望

(2単位) (秋 金4)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

(2 Credits) (Fall Fri 4)

市川博也

国際センター講師(上智大学教授)

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

Text Book:

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" Foreign Affairs, November/December 1994.
3. Discuss Takahusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "Reform and Reconstruction" University of Tokyo Press. 1995.
4. Discuss chapter 3 "Rapid Growth" in Takahusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp. 2003.
chapter 3 "Overcoming the dual economy – backward sectors are the key to Japan's revival".
chapter 4 "Overcoming Anorexia – the labours Sisyphus-"
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura. Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment
Richard Katz, chapter 9 "Globalization -the Linchpin of Reform-"
chapter 11 "Foreign Direct Investment -A Sea Change-".
See Nakamura chapter 7.
9. Discuss "The Collapse of the Bubble Economy" Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, "The political Economy of Japanese monetary Policy,"
chapter 5 "The Bubble Economy and its Collapse"
chapter 6 "Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Usen Companies, and Regulatory Inertia."
The MIT Press. 1997
Richard Katz, chapter 12. "Financial integration – The Iceberg Cracks-".
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan's Economic Growth
chapter 1 "Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation"
chapter 2 "Fiscal Policy Works When it is tried".
chapter 3 "The Short and Long of Fiscal Policy" in Adam S. Posen, Restoring Japan's Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.
Richard Katz, chapter 6 "Fiscal dilemmas," chapter 7 "Monetary magic bullets are blanks", chapter 8 "Japan cannot export its way out".
Richard Katz, chapter 13 "What is structural reform?" chapter 14 "Financial reform" chapter 15 "Corporate Reform-No competitiveness without more competition".
11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.
Chapter 4. "Mounting Downside Risks: Financial and International"
Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model" in Adam S Posen.
12. Can Japan Compete?
Chapter 2. "Challenging the Japanese Government Model"
Chapter 3. " Rethinking Japanese Management",
Chapter 5. " How Japan can Move Forward: The Agenda for Government"
Chapter 6. "Transforming the Japanese Company" Michael E. Porter, Hirotaka Takeuchi & Mariko Sakakibara, "Can Japan Compete?" Macmillan Press Ltd. 2000
Richard Katz, chapter 16 "Competition policy – Not enough competition, even less policy".
13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 "deregulation and state enterprises – The Moment is Clear, the destination is not."
Chapter 19. "Tax Reform – Don't Exacerbate Anorexia".

Message to Those Taking This Course:

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.
High proficiency in English required: TOEFL (PB)550+ (CB)213+

Evaluation:

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

NPO/NGO 実践講座－日本のケース

(2単位) (秋 金4)

REALITY OF NPO/NGO IN THE CASE OF JAPAN

(2 Credits) (Fall Fri 4)

石井宏明 国際センター講師(ピース ウィンズ ジャパン 渉外)

Hiroaki Ishii Lecturer, International Center (External Relations, Peace Winds Japan)

Course Description:

Recently NGOs and their activities have become more and more publicized in Japan, since the Hanshin-Awaji Earthquake occurred. Ordinary people who did not have access to NGOs may have a big question, such as “Why does this happen and why is NGO work so important in the Japanese context?” This course will define the development of Japanese NPO/NGOs and their activities, responding to such questions, and examine the role of NGOs, especially in the field of international cooperation.

Through introducing the “live” activities of various kinds of NGOs, this course will show the real pictures of Japan-based NGOs as well as the environment surrounding them. Students could also learn strength and weakness of NGOs, particularly in the Japanese context, and the relations with other agencies such as the government, military forces, UN, and business sectors.

Guest speakers from NGOs and other players related to NGO’s activities would be invited to address in the course. Handouts will be periodically provided during the class session, and the lecturer will introduce some relevant reading materials.

Students should be able at the end of the course to:

1. Understand the definition and the diversity of NGOs and their activities, particularly in humanitarian assistance.
2. Develop a basic knowledge of NGO activities, including implementation of project implementation, advocacy, administration activity, public relations, and so on, through lecture, guest speech.
3. Acquire practical methodology throughout the group activity in terms of how an NGO can be organized and develop its capacity.

Class Schedule (Subject to change):

In the first half of the course will consist of mainly lectures and discussions facilitated by either lecturer or guest speakers, and in the latter half, the main activity will be a group activity to practice to design and found a new NGO. Preferably, each group will consist of 4-5 students working together to choose a specific area of NGO activity and plan to found, and then examine how it works. The lecturer will assist to provide a basic knowledge and skills to organize an NGO.

Last 1-2 classes (depending on the number of students) will be a group presentation based on the group activities, which every students can be an examiner as well as an examinee.

Message to Those Taking This Course:

This class is suitable to the students who want to learn the ongoing change of the Japanese NGOs, particularly International Cooperation NGOs, which the lecturer belongs to. Not much background information on NPO/NGOs or comparative analysis to other countries ones. Do not expect too much academically from this class.

Evaluation:

Class participation	20%
Group Activity	50%
Final Report (group based)	30%

日本の宗教: 救済の探求

(2単位) (秋 金4)

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

(2 Credits) (Fall Fri 4)

ナコルチェフスキー, アンドリイ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as “Religions in Japan” and not as

“Japanese Religions.” Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion – Shinto and maybe some eclectic so called “new religions”, and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities – art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion’s promise to solve the individual’s existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle – “In Search of Salvation.” Especially this aspect becomes important when we deliberate “new religions”, including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of *shugendou* (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

知的資産センター設置講座（平成16年度開講）

1. 知的資産センター設置講座開講にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として1998年11月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとして広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果に対する特許保護から始め、技術の移転、起業の支援と段階的に拡充していく計画です。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化してきました。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一貫として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開設しました。

2. 設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の1科目を、春学期三田キャンパスで開講します。

授業時間は18:10~19:40、単位は2単位です。その他授業に関する情報は、三田共通掲示板（西校舎1階）、<http://www.ipc.keio.ac.jp>でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、各学部窓口で履修申告をしてください。

3. 講義要綱

知的資産概論—知的財産の保護と活用をめぐる課題—
(ナテグリニド特別講座)

コーディネーター 知的資産センター所長（商学部教授）清水 啓 助

授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

教科書：

講義資料を配布します。

参考書：

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著、慶應義塾大学出版会

授業の計画：

- 1 知的財産の新たな時代
- 2 特許の仕組み
- 3 著作権の仕組み
- 4 マルチメディアに関する知的財産

- 5 知的財産の契約
- 6 商標ブランドの価値
- 7 知的財産の裁判
- 8 著作権処理に関する問題
- 9 企業における知的財産戦略
- 10 知的財産に関する世界の動向
- 11 知的財産の紛争処理
- 12 ベンチャー・起業の仕組み
- 13 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点及びレポートによる評価

質問・相談：

授業の最後に質疑の時間を設けます。

関係規程抜粋

商学研究科在籍者に特に関わりの深い規程について抜粋してありますので、履修要項と合わせて参照してください。なお、大学院学則については、入学時に配付する慶應義塾大学大学院学則を参照してください。

1 学 位

1 - 1 学位規程 (抜粋)

1 - 2 学位の授与に関する内規

1 - 3 商学研究科における課程による博士学位の授与要件に関する内規

2 奨 学 金

2 - 1 大学院奨学規程

2 - 2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程

2 - 3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程細則

3 授業料減免

3 - 1 授業料等減免規程

3 - 2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

4 そ の 他

4 - 1 大学院在学期間延長者取扱い内規

4 - 2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料 その他の学費に関する取扱い内規

学位請求論文製本表紙見本

1 学 位

1 - 1 学位規程 (抜粋)

昭和31年2月17日制定
平成15年7月4日改正

第1条 (目的) 本規程は、慶應義塾大学学部学則及び大学院学則に規定するもののほか、慶應義塾大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

第2条 (学位) 本大学において授与する学位は次の通りとする。

1 学 士

文 学 部

人文社会学科

哲学専攻	学士 (哲学)
倫理学専攻	学士 (哲学)
美学美術史学専攻	学士 (美学)
日本史学専攻	学士 (史学)
東洋史学専攻	学士 (史学)
西洋史学専攻	学士 (史学)
民族学考古学専攻	学士 (史学)
国文学専攻	学士 (文学)
中国文学専攻	学士 (文学)
英米文学専攻	学士 (文学)
独文学専攻	学士 (文学)
仏文学専攻	学士 (文学)
図書館・情報学専攻	学士 (図書館・情報学)
社会学専攻	学士 (人間関係学)
心理学専攻	学士 (人間関係学)
教育学専攻	学士 (人間関係学)
人間科学専攻	学士 (人間関係学)

経済学部

法 学 部

商 学 部

医 学 部

理工学部

機械工学科	学士 (工学)
電子工学科	学士 (工学)
応用化学科	学士 (工学)
物理情報工学科	学士 (工学)
管理工学科	学士 (工学)
数理科学科	
数学専攻	学士 (理学)
統計学専攻	学士 (工学)
物理学科	学士 (理学)
化学科	学士 (理学)
システムデザイン工学科	学士 (工学)
情報工学科	学士 (工学)
生命情報科	学士 (理学) 又は 学士 (工学)

総合政策学部

環境情報学部

看護医療学部

2 修 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻	修士 (哲学)
----------	---------

美学美術史学専攻	修士 (美学)
史学専攻	修士 (史学)
国文学専攻	修士 (文学)
中国文学専攻	修士 (文学)
英米文学専攻	修士 (文学)
独文学専攻	修士 (文学)
仏文学専攻	修士 (文学)
図書館・情報学専攻	修士 (図書館・情報学)
経済学研究科	修士 (経済学)
法学研究科	修士 (法学)
社会学研究科	
社会学専攻	修士 (社会学)
心理学専攻	修士 (心理学)
教育学専攻	修士 (教育学)
商学研究科	修士 (商学)
医学研究科	
医科学専攻	修士 (医科学)
理工学研究科	
基礎理工学専攻	修士 (理学) 又は 修士 (工学)
総合デザイン工学専攻	修士 (理学) 又は 修士 (工学)
開放環境科学専攻	修士 (工学)
経営管理研究科	修士 (経営学)
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	修士 (政策・メディア)
3 博 士	
文学研究科	
哲学・倫理学専攻	博士 (哲学)
美学美術史学専攻	博士 (美学)
史学専攻	博士 (史学)
国文学専攻	博士 (文学)
中国文学専攻	博士 (文学)
英米文学専攻	博士 (文学)
独文学専攻	博士 (文学)
仏文学専攻	博士 (文学)
図書館・情報学専攻	博士 (図書館・情報学)
経済学研究科	博士 (経済学)
法学研究科	博士 (法学)
社会学研究科	
社会学専攻	博士 (社会学)
心理学専攻	博士 (心理学)
教育学専攻	博士 (教育学)
商学研究科	博士 (商学)
医学研究科	博士 (医学)
理工学研究科	
基礎理工学専攻	博士 (理学) 又は 博士 (工学)
総合デザイン工学専攻	博士 (理学) 又は 博士 (工学)
開放環境科学専攻	博士 (工学)
経営管理研究科	博士 (経営学)
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	博士 (政策・メディア)
4 専門職学位	
法務研究科	
法務専攻	法務博士 (専門職)

前項第3号に定めるほか博士（学術）の学位を授与することができる。

第5条に定める者には、学位論文を提出した研究科に応じ第1項第3号の学位を授与する。

第2条の2（学士学位の授与要件） 学士の学位は、大学を卒業した者に与えられる。

第3条（修士学位の授与要件） 修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。

第4条（課程による博士学位の授与要件） 博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。

第5条（論文による博士学位の授与要件） 博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という）された者に与えられる。

第5条の2（専門職学位の授与要件） 専門職学位は、専門職大学院の課程を修了した者に与えられる。

第6条（学識の確認の特例） 大学院博士課程における教育課程を終え、学位論文を提出しないで退学した者のうち、退学の日から起算して研究科委員会が定める年限以内に論文による博士学位を申請した者については、研究科委員会が適当と認めた場合、学識の確認の一部若しくはすべてを行わないことができる。

学位論文以外の業績及び経歴の審査によって、研究科委員会が学識の確認の一部若しくはすべてを行う必要がないと認めた場合には、当該審査をもって学識の確認の一部若しくはすべてに代えることができる。

第7条（課程による学位の申請） 第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

第8条（論文による学位の申請） 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

第9条（審査料） 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者に対する審査料は、次の通りとする。

- 1 本大学大学院博士課程の教育課程を終え学位論文を提出しないで退学した者 50,000円
- 2 本大学学士、修士又は専門職の学位を与えられた者で前号の定め以外の者 70,000円
- 3 第1号・第2号のいずれにも該当しない者 100,000円
- 4 本塾専任教職員である者 20,000円
(医学研究科については40,000円)

第10条（審査並びに期間） 修士及び博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験等の合否は、当該研究科委員会が判定する。

博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験及び学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする。

第11条（審査委員会） 研究科委員会は、学位論文の審査並びにこれに関連する試験等を行うために、関係指導教授及び関連科目担当教授2名以上から成る審査委員会（主査及び副査）を設置しこれに当たらせる。ただし、必要がある場合は助教教授又は専任講師・講師（非常勤）等を特に審査委員会に加えることができる。

第12条（審査結果の報告・判定方法） 審査委員会は、論文審査の要旨並びに試験の成績等を記録して研究科委員会に報告し、かつ、その意見を開陳する。

研究科委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、その3分の2以上の賛同をもって学位論文の審査並びに試験の合否を決定する。

前項の議決は、無記名投票をもって行う。

第13条（学位授与） 修士または博士の学位は、研究科委員会において学位論文の審査並びに試験に合格した者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

専門職学位は、当該研究科の修了要件を満たした者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

第14条（学位論文要旨の公表） 本大学は博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表する。

第15条（学位論文の公表） 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文を印刷公表し「慶應義塾大学審査学位論文」と明記するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表したときはこの限りではない。

第16条（学位の表示） 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、学位の後にこれを授与した本大学名を「(慶應義塾大学)」と付記するものとする。

第17条（学位の取消） 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、又は学位を得た者がその名誉を汚辱する行為があったときは、当該研究科委員会及び大学院委員会の議を経てその学位を取消すものとする。

第18条（学位記及び書類） 学位記及び学位授与申請関係書類の様式は、別表の通りとする。

第19条（規程の改廃） この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。ただし、第2条第1項第1号及び第2条の2については大学評議会の議を経てこれを行う。

附 則（平成15年7月4日）

この規程は平成16年4月1日から施行する。

[以下省略]

1 - 2 学位の授与に関する内規

昭和59年3月16日制定

平成12年5月16日改正

第1条 慶應義塾大学学位規程第13条（学位授与）に関する取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 論文博士の学位授与及び博士課程単位修得退学者で再入学しない者に対する課程博士の学位授与に関しては、次の通り行うものとする。

1 学位授与日は、研究科委員会の議決日とする。

2 研究科委員会が学位論文審査合格を議決した日以降、「学位取得証明書」を発行できるものとする。

3 学位の授与手続きは、次の通りとする。

イ 研究科委員会の合否判定議決に基づき、研究科委員長はその結果を速やかに学長に報告する。

ロ 学長は、研究科委員長の報告に基づき合格者に学位を授与する。

4 学位記は、学位授与式において授与する。

第3条 修士の学位授与及び博士課程に在学している者に対する

る課程博士の学位授与に関しては、前第2条第3号と同様の手続きを経て当該年度末（3月23日）をもって学位を授与する。

前項の規定にかかわらず、修士課程においてあらかじめ研究科委員会の承認を得て、学位論文を提出締切期日までに提出せず次年度も引き続き在学している者が、研究科委員会の特に認められた期日までに学位論文を提出し課程修了を認定された場合には、春学期末日をもって学位を授与することができる。

第1項の規定にかかわらず、後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条第4項のただし書）の適用を受け、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。

前項の規定にかかわらず後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条第4項のただし書）の適用を受け、在学する年度途中において特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

第1項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該第1学期末日をもって学位を授与することができる。

前項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、在学する年度途中において、特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

学位記は、学位授与式において授与する。

第4条 学長は、学位を授与した者の氏名その他必要事項を取りまとめて、年2回大学院委員会の各委員に報告しなければならない。

第5条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

附 則（平成8年3月8日）

第1条 この内規は、平成12年4月1日から実施する。

第2条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

1 - 3 商学研究科における課程による 博士学位の授与要件に関する 内規（抜粋）

1. 学位論文の提出要件

学位論文を提出しようとする者は、原則として次の2要件を充たすものとする。

『三田商学研究』またはこれに準ずる学術研究誌に論文を1編以上掲載しなければならない。

商学研究科研究報告会において口頭による研究発表を少なくとも1回は行わなければならない。また、研究発表を行おうとする者は、下記附則の手続きを踏まなければならない。

但し、1の における研究発表は、学位請求論文（予定）の内容を含むこと。

附則 商学研究科研究報告会についての特別運用規定

報告者は、遅くとも研究報告会開催日の1ヶ月前までに

研究科委員会宛に下記の書類を提出のこと。（付表）

1. 発表内容のレジメ（6000字程度でA4版使用を6部）
2. 発表用フルペーパー（4部）
3. これまでの業績一覧（3部）

学位論文審査の基準

学位論文は、概ね以下に掲げる要件を充たすものとする。

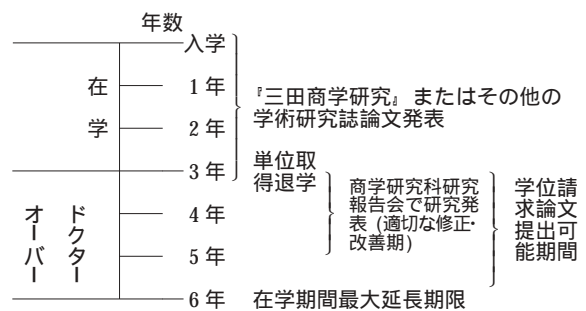
イ. 論理的・体系的な論旨の展開が認められるものであること。

ロ. 研究成果に独創性が認められるものであること。

この場合独創性とは、新しい視点からの問題への接近、新しい分析方法の採用、あるいは新しい所見、結論への到達等のいずれかが含まれていることを意味する。

ハ. 当該分野の過去の研究成果を十分に参酌したものであること。

課程による博士学位取得のプロセス（モデル）



2 奨学金

2 - 1 大学院奨学規程

平成2年4月13日制定

平成10年4月21日改正

第1章 総 則

第1条（根拠） 慶應義塾大学は、大学院学則第16節奨学制度に基づき、貸費及び給費の奨学制度を置く。

第2条（奨学金の種類・金額） 奨学金の種類は、次の通りとする。

- 1 貸費奨学金（無利子） 修士課程（前期博士課程）学生対象（但し、外国人留学生を除く。）
- 2 給費奨学金 後期博士課程（以下「博士課程」という。）学生、医学研究科博士課程学生、私費外国人留学生対象
前項に定める奨学金の年額は、次の通りとする。

- | | |
|-------------------|----------|
| 1 文、経済、法、社会、商学研究科 | 400,000円 |
| 2 医学、経営管理研究科 | 600,000円 |
| 3 理工学、政策・メディア研究科 | 500,000円 |

第2章 貸 費 生

第3条（資格） 貸費生の資格は、大学院修士課程の学生（但し、外国人留学生を除く。）とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。
- 3 原則として、修士課程1年生であること。

第4条（期間） 貸費の期間は、大学院学則に定める修士課程標準修業年限の2か年とする。但し、修士課程2年生が貸費生に採用された場合は、1か年とする。

第5条(申請) 貸費を受けようとする者は、所定の申請書に学業成績証明書、健康診断書及び連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

第6条(選考) 貸費生は、第3条の条件により選考する。

第7条(決定) 前条による選考は、別に定める大学院奨学委員会(以下「委員会」という。)において行い、塾長がこれを決定する。

第8条(家計急変者に対する救済措置等) 天災その他の災害及び家計支持者の死亡、失職等のため家計が急激に変化し、学費の納入が困難になった者等若干名については、第3条第3号の規定にかかわらず、貸費生として追加採用することができる。

第9条(誓約書) 貸費生として決定された者は、所定の誓約書を連帯保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。

第10条(身分等変更の届出) 貸費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。但し、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、就学、退学
- 2 本人及び連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

第11条(貸与の休止) 委員会は、貸費生が休学・留学した場合、その間貸費生の資格を休止することができる。

第12条(貸与の復活) 前条の規定により貸費生の資格を休止された者が、休止の理由となったものが消滅した場合、委員会は、申請により貸与を復活することができる。但し、休止された時から3か年を経過したときは、この限りではない。

第13条(失格) 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、貸費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく退学、停学の場合
- 2 申請書及び提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく第10条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他貸費生として不適当と認められた場合

第14条(貸与の辞退) 貸費生は、いつでも貸与を辞退することができる。この場合には、連帯保証人と連署の届出書を、学生総合センターに提出しなければならない。

第15条(貸与金借用証書の提出) 貸費生が次の各号に該当する場合は、貸与金借用証書に貸与金返還総額等を記載し、連帯保証人及び保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。連帯保証人及び保証人の使用する印鑑については、印鑑証明を必要とする。

- 1 貸与期間が満了した場合
- 2 貸与を期間中に辞退した場合
- 3 第13条による失格の場合

第16条(貸与金の返還) 貸与金の返還は、原則として貸与が終了した年の12月から毎年1回の年賦とし、貸与年数の4倍の年数以内に全額を返還するものとする。但し、貸与金はいつでも繰り上げ返還することができる。

第13条による失格者については、貸与金の全額を直ちに返還しなければならない。

第17条(返還猶予) 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人の申請により貸与金の返還を猶予することができる。

- 1 災害又は疾病により返済が困難となった場合
- 2 貸与期間終了後、引き続き修士課程に在学している場合
- 3 修士課程修了後、博士課程進学を目指している場合

前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の返還を猶予することができる。

返還猶予期間は1か年とするが、返還猶予の理由が存続する場合は、第1項第3号に基づく場合を除いて、申請により1年ごとに延長することができる。但し、原則として3か年を越えて延長することはできない。

第18条(返還免除) 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人又は連帯保証人の申請により、貸与金の全部又は一部の返還を免除することができる。

1 博士課程に進学し、学位を取得した場合、あるいは博士課程に3年以上在学して所定の単位を取得し退学した場合。但し、博士課程を途中で退学した者については免除を認めない。

2 貸与金返還完了前に死亡した場合。この場合には、連帯保証人又は相続人は、死亡時から6か月以内に、貸与金返還免除申請書を、死亡診断書又は戸籍抄本を添えて、学生総合センターに提出しなければならない。

前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の全部又は一部の返還を免除することができる。

第3章 給費生

第19条(資格) 給費生の資格は、大学院博士課程学生及び私費外国人留学生とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

第20条(期間) 給費の期間は、1か年とする。引き続き給費を希望する場合、再申請は妨げないが、3か年(医学研究科は4か年)を超えて給費を受けることはできない。

第21条(申請) 給費を受けようとする者は、所定の申請書に、学業成績証明書、健康診断書及び連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

第22条(選考) 給費生は、第19条の条件により選考する。

第23条(決定) 前条による選考は、委員会において行い、塾長がこれを決定する。

第24条(身分等変更の届出) 給費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。但し、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、退学
- 2 本人及び連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

第25条(失格) 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、給費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく休学、退学、停学の場合
- 2 申請書及び提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく第24条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他給費生として不適当と認められた場合

第26条(返還) 給費生が前条の規定により給費生としての資格を失った場合は、既にその年度に給付された金額の全部又は一部を返還しなければならない。委員会は、この場合の返還方法を、審査の上定める。

前項の規定にかかわらず、次の各号に該当する場合は、委員会は、申請により既に給付された奨学金の全部又は一部の返還を免除することができる。

- 1 死亡した場合
- 2 第25条第1号の規定により、給費生として資格を失った

場合

第27条(事務) 本制度の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

第28条(規定の改廃) この規程の改廃は、委員会の議を経て、塾長がこれを行う。

附 則(平成10年4月21日)

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

平成3年3月31日以前の課程入学者については、旧・慶應義塾大学大学院奨学規程を適用する。

平成10年4月1日以後の修士課程(前期博士課程)第1学年入学者については、本規程第3条から第18条を適用しない。

平成10年4月1日以後の修士課程(前期博士課程)入学者を、本規程第2条第1項第2号及び第19条の対象に加えるものとする。

2 - 2 小泉信三記念大学院特別奨学規程

昭和52年4月12日制定

昭和54年7月27日改正

第1条 小泉信三記念奨学規程第2条第1号に基づき、研究者の養成を目的として大学院に特別奨学金による奨学研究生を置く。

第2条 奨学研究生は、学部第4学年に在学し大学院への進学を志願する学生、または大学院に在学する学生の中から、これを選考する。

第3条 奨学研究生の選考は、各研究科委員会の推薦により、小泉基金運営委員会の議を経て学長がこれを決定する。

第4条 奨学研究生には特別奨学金として、月額30,000円を給付し、その期間は1年とする。ただし、審査の上、この期間を更新することができる。

第5条 この特別奨学規程に関する事務は、研究助成室が担当する。

第6条 この規程に関する細則は別に定める。

附 則

この規程は、昭和52年4月1日から施行する。

現行小泉信三記念大学院特別奨学規程は旧・小泉信三記念大学院特別奨学規程とする。

附 則(昭和54年7月27日)

この規程は、昭和54年9月1日から施行する。

2 - 3 小泉信三記念大学院特別奨学規程施行細則

昭和52年4月12日制定

昭和54年7月27日改正

第1条 小泉基金運営委員会委員長は、毎年奨学研究生を公募する。

第2条 奨学研究生は、大学院に在学し、次に掲げる各号の条件を備えていなければならない。

- 1 学業成績・人物共に優秀であること
- 2 将来、研究者たり得る資質ありと認められること
- 3 健康であること

第3条 奨学研究生を志望する者は、次の書類を整えて、保証

人連署の上、研究助成室に提出しなければならない。

- 1 願 書
- 2 履歴書
- 3 成績証明書 大学学部1年から申請時までの成績証明書
- 4 健康診断書

第4条 各研究科委員会は、奨学研究生を志望した者について審議し、順位を付して小泉基金運営委員会に推薦しなければならない。

第5条 奨学研究生は、次の理由により身分に変更を生じた場合は、保証人連署の上、直ちに学長に届け出なければならない。

- 1 休学・復学・退学
- 2 本人及び保証人の身分・住所その他重要事項の変更。ただし、本人が病気・死亡等の場合は、保証人が代って届け出なければならない。

第6条 小泉基金運営委員会が、次の理由により不適格と認められた場合は、奨学研究生としての資格を失うものとし、すでに支給した奨学金の全部もしくは一部を返還させることがある。

- 1 この奨学金設定の趣旨に反し、かつ塾生としての本分にもとる行為があった場合
- 2 提出書類に虚偽の記載をした場合
- 3 正当な理由なく第5条に定める届け出を怠った場合

第7条 奨学研究生が退学した場合は、給付を打ち切るものとする。

付 則

この細則は、昭和52年4月1日から施行する。

現行小泉信三記念大学院特別奨学規程施行細則は旧・小泉信三記念大学院特別奨学規程施行細則とする。

附 則(昭和54年7月27日)

この細則は、昭和54年9月1日から施行する。

3 授業料減免

3 - 1 授業料等減免規程

平成元年7月18日制定

平成11年11月26日改正

平成12年4月1日施行

第1条(目的) 慶應義塾大学は、疾病・傷害によって授業を長期にわたり休学している学部学生並びに大学院生で、経済上授業料等(大学院にあっては在学料等、以下授業料等という)の納入が著しく困難な学生に対し、審査のうえ、一定の期間授業料等を減免することが出来る。

第2条(対象) 減免を受けようとする者は、1年以上の長期にわたり入院又は通院している者並びに自宅療養をしている者で、休学の2年目以降の者でなければならない。

母国において兵役に就くために休学する者。この場合に限り1年目から減免する。

第3条(申請) 前条に該当する者が減免を申請する場合は、所定の申請書に休学許可書、診断書並びに家計支持者の所得を証明する書類を添えて、学生総合センター長に提出しなければならない。

第4条(減免額) 減免を認められた者の減免額は、文科系学部・同大学院研究科については授業料等の半額、医学部・同大学院研究科、理工学部・同大学院研究科、総合政策学部、

環境情報学部及び大学院政策メディア研究科については授業料等の半額及び実験実習費の半額とする。なお、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科及び法学部政治学科9月入学者は、休学期間が6か月毎のため減免額も半年分の半額とする。

正課又は課外活動中の事故による傷害で休学している場合、その事由を斟酌し、減免額を全額とすることができる。

第5条（審査） 第1条による審査は、大学学部生については大学奨学委員会、大学院生については大学院奨学委員会がこれを行い、塾長が決定する。

第6条（減免の取消し） 休学者が虚偽の申請その他不正の方法で減免を受けた場合には、減免の措置を取り消すとともに、既に減免を受けた授業料等の全部又は一部を納入させることが出来る。

第7条（就学の届出） 休学者が就学した時は、速やかに書面をもってその旨学生総合センター長に届け出なければならない。

第8条（規程の改廃） この規程の改廃は、大学奨学委員会並びに大学院奨学委員会の議を経て、塾長が決定する。

第9条（所管） この規程の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

附 則（平成11年11月26日）

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

これを旧・留学期間中の学費の取り扱いに関する規程とする。

この規程は、留学開始日が平成2年4月1日以降の者に適用する。

この規程の施行前、既に留学を許可され留学している者の学費については、旧・留学期間中の学費の取り扱いに関する規程を適用する。

3 - 2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

平成元年5月23日制定

平成2年4月1日施行

第1条 慶應義塾大学学部学則第153条及び慶應義塾大学大学院学則第124条により外国の大学に留学する学生（以下留学生という）の学費に関する取り扱いは、この規程の定めるところによる。

第2条 留学期間中の学費の取扱いは、次の通りとする。

1 留学の始まる日（以下留学開始日という）の属する年度の学費は納入するものとする。但し、留学の奨励を図るため、別に定めるところにより、留学に要する経費の一部を補助することがある。

2 留学の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6か月以上2年以内の場合は、留学開始日から1年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）及び実験実習費の半額を免除する。

3 留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6か月以上3年以内の場合は、留学開始日から2年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）及び実験実習費の半額を免除する。

第3条 留学生が留学の許可を取り消された場合は、その間に免除した学費の一部又は全額を納入させることがある。

第4条 この規程の適用に当たり疑義を生じた場合は、その都度塾長が決定する。

第5条 この規程の改廃は、塾長がこれを決定する。

附 則（平成元年5月23日）

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

この規程の制定により、昭和56年5月12日制定、同年4月1日施行の留学期間中の学費の取り扱いに関する規程は、

4 その他

4 - 1 大学院在学期間延長者取扱い内規

昭和59年3月16日制定

第1条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において、当該課程修了要件のうち学位論文の審査並びに最終試験を除き所定の教育課程を終えた後、引続き博士學位取得のために在学する者の取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 在学期間延長を希望する者は、指導教授の許可を得て研究科委員会に「在学期間延長許可願」を提出し、承認を得なければならない。

第3条 研究科委員会は、研究継続の必要性等在学を延長する充分な理由があると認め、かつ教育並びに研究に支障のない場合、大学院学則第128条に定める在学最長年限を超えない範囲で引続き1年間（4月1日～翌年3月31日）の在学を許可できるものとする。

第4条 在学期間延長者が延長期間終了後も引続き在学を希望するときには、新たに「在学期間延長許可願」を提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

第5条 学則定員その他の理由から延長が認められない場合は、大学院学則第153条に定める研究生として受け入れることができる。

付 則

第1条 この内規は、昭和59年4月1日から施行する。

第2条 この内規は、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

第3条 付則第2条の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士學位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

4 - 2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料その他の学費に関する取扱い内規

昭和59年3月30日制定

平成8年3月8日改正

第1条 本塾大学大学院において「学位の授与に関する内規」

第3条第2項若しくは第3項により第1学期末日をもって課程修了する者の学費は、次の通りとする。

- 1 在学料（毎年）
大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額
- 2 施設設備費（毎年）
大学院学則第131条に定める金額
- 3 実験実習費（毎年）
大学院学則第132条に定める金額

第2条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては

博士課程）において「大学院在学期間延長者取扱い内規」による在学期間延長者の学費は、次の通りとする。

- 1 在学料（毎年）
大学院学則第131条に定める金額の4分の3
- 2 施設設備費（毎年）
免除
- 3 実験実習費（毎年）
大学院学則第132条に定める金額

在学期間延長者が「学位の授与に関する内規」第3条第4項および第5項により年度途中の日をもって課程修了する場合の在学料は、その課程修了の日が第1学期末日までの者に限り前項に定める金額の2分の1に相当する額。

第3条 「大学院在学期間延長者取扱い内規」第5条による研究生は、大学院学則第153条第2項に定める登録料を免除し、初年度に限り選考料を徴収しない。

附 則

第1条 この内規は、平成8年4月1日から施行する。

第2条 この内規の修士課程に係る本則第1条については、昭和59年4月1日から適用する。

第3条 この内規の後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に係る本則第2条及び第3条については、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

前項の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出期限を「博士學位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、塾長が決定する。

学位請求論文製本表紙見本

(1) 表紙

論文 平成 年度 (2 0)
論 題
慶應義塾大学大学院 研究科
氏 名

(2) 背表紙

	} 1.0 cm
2 0	
	} 1.0 cm
論 文	
	} 1.0 cm
論 題	
氏 名	} 5.0 ~ 6.0 cm

